

紀北町まちづくりに関するアンケート調査 結果報告書

平成 28 年 3 月

紀 北 町

【目 次】

I. 調査の概要	4
1. 調査の目的	4
2. 調査設計	4
3. 報告書の見方	4
II. 調査の結果	5
1. 回答者について	5
2. 紀北町の取り組みの満足度と今後の重要度について	8
3. 紀北町のこれからのまちづくりについて	16
4. 分野別のまちづくりについて	28
5. 住民参加について	46
6. 紀北町の将来像について	54
7. 行政サービスについて	56
III. 結果の考察	58
1. 全体考察	58
2. 年代別傾向の考察	60
IV. 調査票	67

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、第2次総合計画の策定にあたり、後期基本計画の評価をするとともに、住民の皆様の意見を把握し、これからのまちづくりに反映するために実施しました。

2. 調査設計

調査区域：紀北町全域

調査対象：20歳以上の町民から男女1,000人ずつ、合計2,000人を無作為抽出

調査時期：平成28年1月

調査方法：郵送配布、郵送回収による郵送調査

配布数：2,000票

回収数：692票

回収率：34.6%

■参考：性別・年代別回収率

		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
合計	配布数	2,000	145	174	269	294	416	380	322
	回収数	692	29	38	80	106	177	178	71
	回収率	34.6%	20.0%	21.8%	29.7%	36.1%	42.5%	46.8%	22.0%
男性	配布数	1,000	81	98	142	154	220	182	123
	回収数	334	10	16	32	62	91	81	42
	回収率	33.4%	12.3%	16.3%	22.5%	40.3%	41.4%	44.5%	34.1%
女性	配布数	1,000	64	76	127	140	196	198	199
	回収数	332	17	22	48	43	85	90	27
	回収率	33.2%	26.6%	28.9%	37.8%	30.7%	43.4%	45.5%	13.6%

※合計には性別、年齢の無回答を含むため、男性と女性及び各年齢の合計値は一致しません。

3. 報告書の見方

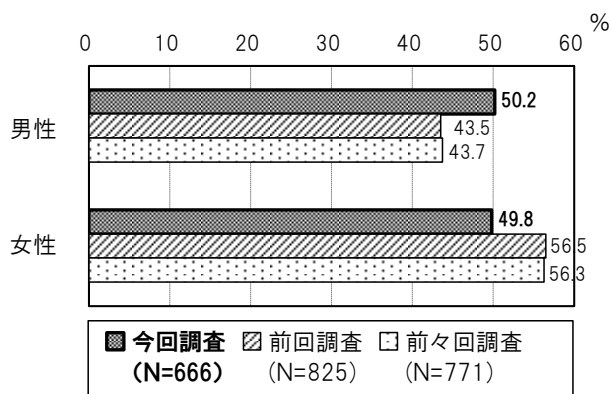
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- グラフ及び表の「N数（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- グラフ表中の「前々回調査」は平成18年度に実施した調査を、「前回調査」は平成22年度に実施した調査を、「今回調査」は平成27年度に実施した調査の結果を表しています。
- グラフ、表中、文中の選択肢、設問等は今回調査を基本としています。そのため、前々回調査、前回調査とほぼ同意ととれる選択肢について同じものとして扱っています。斜体文字は今回調査にない選択肢となっています。また、グラフ表中の割合について、複数回答の設問については、選択可能件数が異なっているものがあります。

Ⅱ. 調査の結果

1. 回答者について

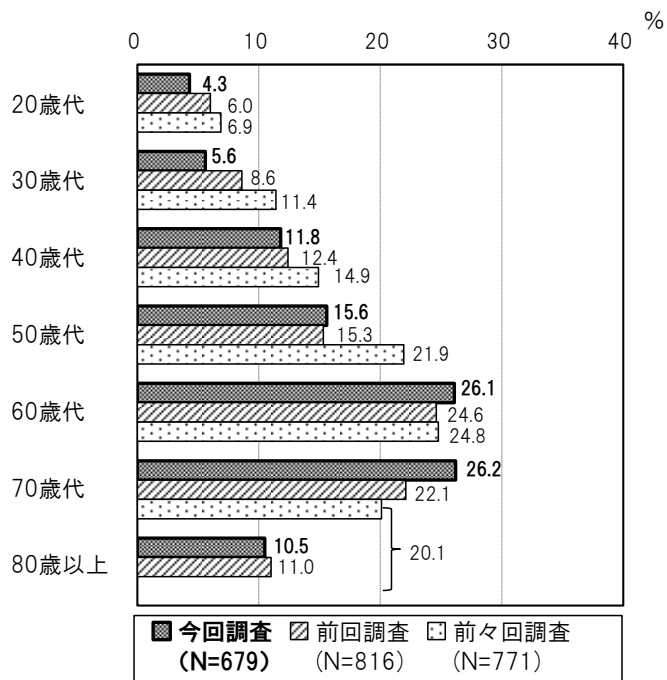
【1】あなたの性別はどちらですか

回答者の性別は、「男性」が 50.2%、「女性」が 49.8%とほぼ同じ割合となっています。前回調査、前々回調査と比較すると「女性」よりも「男性」の割合が多くなっています。



【2】あなたの年齢はどれにあたりますか

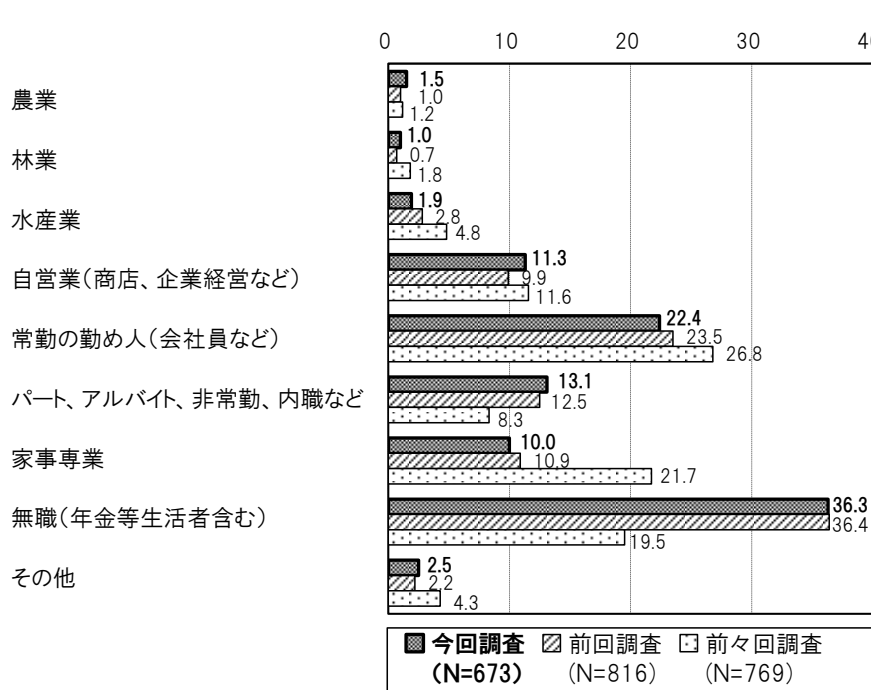
回答者の年齢は、「70 歳代」が最も多く 26.2%、次いで、「60 歳代」が 26.1%と、『60 歳代以上』が 62.8%を占めています。前回調査、前々回調査と比較すると、「20 歳代」の割合が少なくなり、「70 歳以上」の割合が多く、高齢化が進行した状況を反映していることがうかがえます。



【3】 あなたの職業はどれにあたりますか

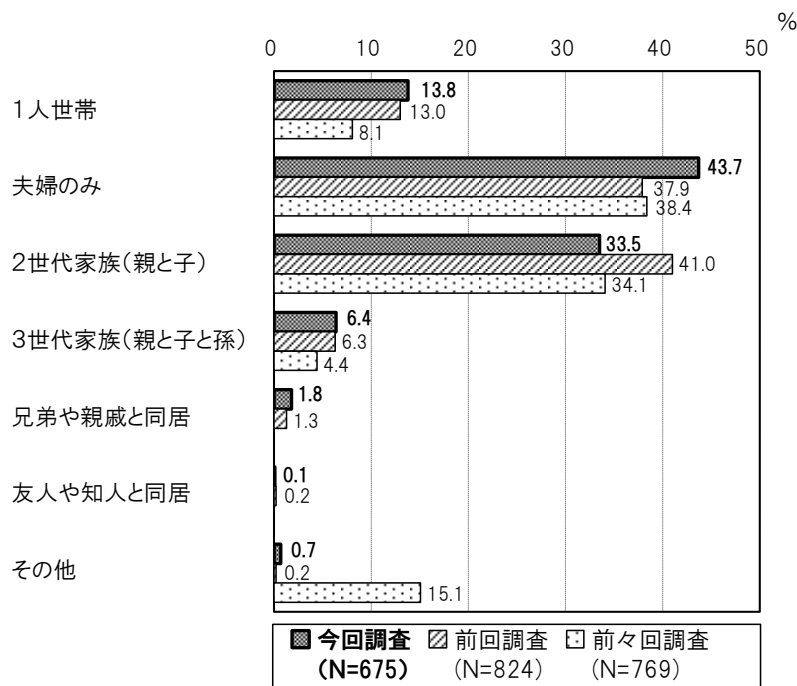
回答者の職業は、「無職（年金等生活者含む）」が最も多く 36.3%、次いで、「常勤の勤め人（会社員など）」が 22.4%、「パート、アルバイト、非常勤、内職など」が 13.1%となっており、農林水産業や自営業を含め、なんらかの仕事をしている人は半数程度となっています。

前回調査、前々回調査と比較すると、「常勤の勤め人（会社員など）」や「家事専業」の割合が少なくなり、「パート、アルバイト、非常勤、内職など」の割合が多くなっています。



【4】 あなたの家の家族構成はどれにあたりますか

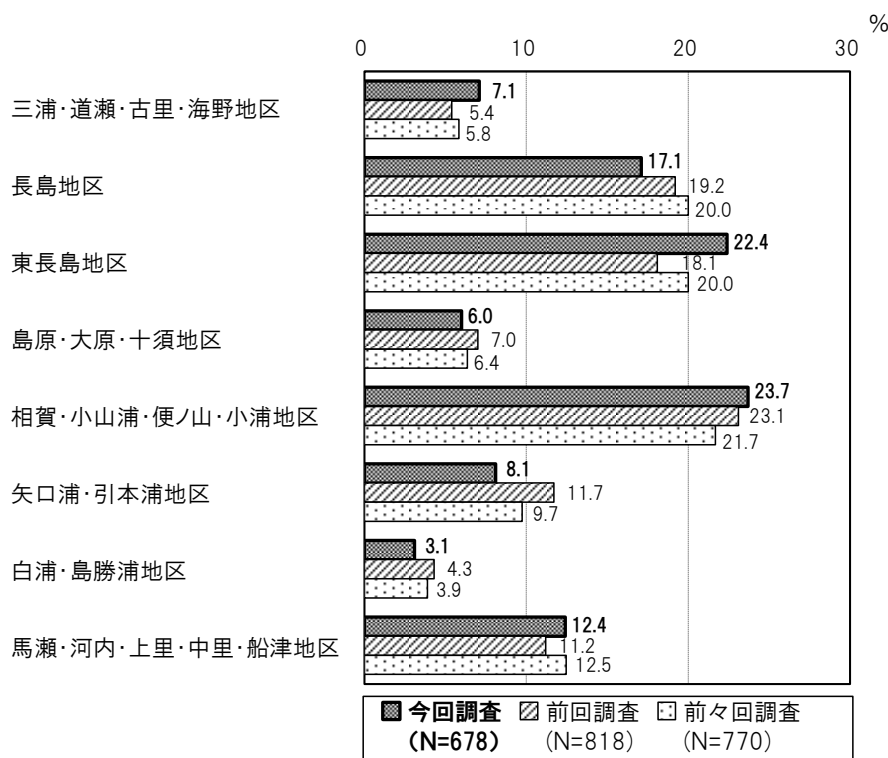
回答者の家族構成は、「夫婦のみ」が最も多く 43.7%、次いで、「2世代家族（親と子）」が 33.5%と、これらの分類が大半を占めており、核家族化の進行がうかがえます。前回調査と比較すると、「夫婦のみ」の割合が多くなり、「2世代家族（親と子）」の割合が少なくなっています。



【5】 あなたがお住まいの地区はどこにあたりますか

回答者の居住地区は、「相賀・小山浦・便ノ山・小浦地区」が23.7%、次いで、「東長島地区」が22.4%、「長島地区」が17.1%となっています。

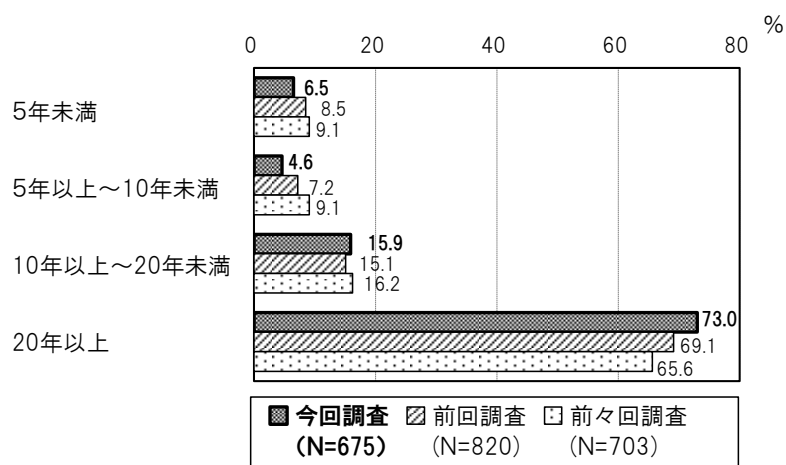
前回調査と比較すると、「東長島地区」の割合が多くなり、「矢口浦・引本浦地区」では少なくなっています。



【6】 あなたは、現在の場所にお住まいになって何年になりますか

回答者の居住年数は、「20 年以上」が群を抜いて多く 73.0%、次いで、「10 年以上～20 年未満」が 15.9%と、『10 年以上』居住している人が 88.9%であるのに対し、『10 年未満』の人は 11.1%にとどまっています。

前回調査、前々回調査と比較すると、『10 年以上』の割合が多くなり、『10 年未満』の割合が少なくなっているため、人口の移動が少なかったことがうかがえます。



2. 紀北町の取り組みの満足度と今後の重要度について

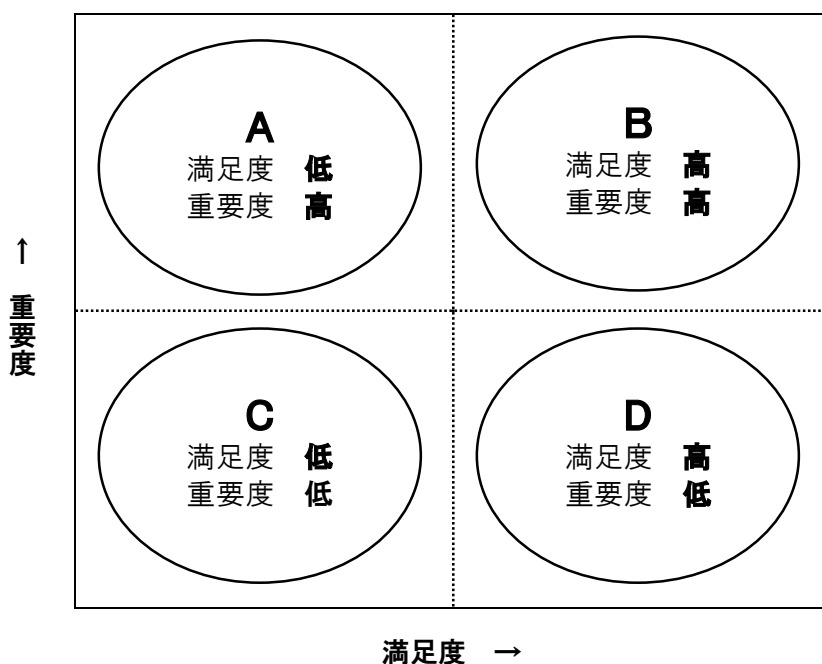
【1】分析方法

満足度の点数化については、「満足している」＝5点、「やや満足している」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満である」＝1点として「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

重要度の点数化については、「重視している」＝5点、「やや重視している」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「あまり重視していない」＝2点、「重視していない」＝1点として、「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

町の取り組みやサービスの分野 25 項目について、上記の基準で点数化し、散布図に落とし込みました。

■結果の分類



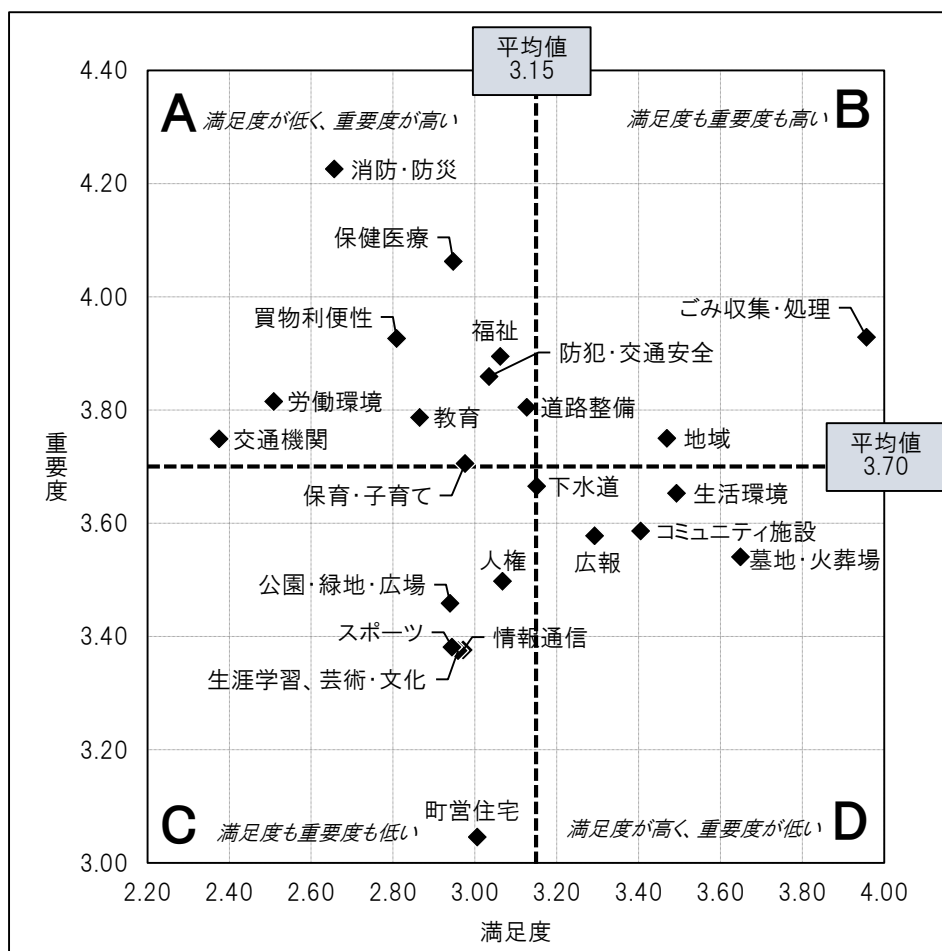
領域	説明
A	重要度が高いにもかかわらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度は高く、重要度が低いため、今後場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで 25 項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

【2】満足度・重要度の散布図

満足度と重要度の散布図について、「消防・防災」、「防犯・交通安全」、「保健医療」、「福祉」、「保育・子育て」、「教育」、「買物利便性」、「交通機関」、「道路整備」、「労働環境」などが、満足度が低く、重要度が高いAの領域に分類され、主に生活の安全・安心・利便性を確保するための項目が今後優先して充実することが求められています。

一方で、「生活環境」、「広報」、「コミュニティ施設」、「墓地・火葬場」、「下水道」が、満足度が高く、重要度が低いDの領域に分類され、住民視点で捉えたときに現時点での優先度は低い項目となっています。



領域	項目
A	消防・防災、保健医療、買物利便性、労働環境、交通機関、福祉、防犯・交通安全、教育、道路整備、保育・子育て
B	ごみ収集・処理、地域
C	人権、公園・緑地・広場、スポーツ、情報通信、生涯学習、芸術・文化、町営住宅
D	生活環境、広報、コミュニティ施設、墓地・火葬場、下水道

【3】満足度・重要度一覧

満足度の上位3件は、「上水道」「自然環境」「ごみ収集・処理」となっており、自然環境や生活環境への評価が高いことがうかがえます。一方で、下位の項目は、「交通機関」「労働環境」「消防・防災」となっています。

重要度の上位3件は、「消防・防災」「保健医療」「自然環境」となっており、安全・安心とともに豊かな自然環境へのニーズが高いことがうかがえます。一方で、下位の項目は、「町営住宅」「生涯学習、芸術・文化」「情報通信」となっています。

設問文	散布図表記	満足度	重要度
(1) 火災や地震など災害からの安全性	消防・防災	③ 2.66	① 4.23
(2) 防犯、交通安全施設整備の状況	防犯・交通安全	3.03	3.86
(3) 騒音・振動・悪臭等の環境	生活環境	⑤ 3.49	3.65
(4) ごみの収集・処理の状況	ごみ収集・処理	③ 3.96	④ 3.93
(5) 上水道の整備状況	上水道	① 4.08	3.83
(6) 下水道の整備状況（合併浄化槽を含む）	下水道	3.15	3.67
(7) 墓地や火葬場の管理・運営状況	墓地・火葬場	④ 3.65	3.54
(8) 町営住宅の整備状況	町営住宅	3.01	① 3.05
(9) 公園・緑地・広場の整備状況	公園・緑地・広場	2.94	⑤ 3.46
(10) 道路の整備状況	道路整備	3.13	3.81
(11) 公共交通の便利さ	交通機関	① 2.38	3.75
(12) インターネット環境など情報通信体系の整備状況	情報通信	2.97	③ 3.38
(13) 自然環境の豊かさ	自然環境	② 4.04	③ 4.00
(14) 保健・医療サービスや施設整備の状況	保健医療	2.95	② 4.06
(15) 福祉サービスや施設整備の状況	福祉	3.06	3.89
(16) 保育・子育て環境	保育・子育て	2.98	3.71
(17) 日常の買物の便利さ	買物利便性	④ 2.81	④ 3.93
(18) 働きがいのある職場	労働環境	② 2.51	3.82
(19) 生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	生涯学習、芸術・文化	2.96	② 3.37
(20) スポーツ活動や施設整備の状況	スポーツ	2.94	④ 3.38
(21) 子どもの教育環境	教育	⑤ 2.86	3.79
(22) 人権尊重の状況	人権	3.07	3.50
(23) 人情味や地域の連帯感	地域	3.47	3.75
(24) 公民館や集会所などの整備状況	コミュニティ施設	3.41	3.59
(25) 行政情報や催事情報の提供状況	広報	3.29	3.58
平均		3.15	3.70

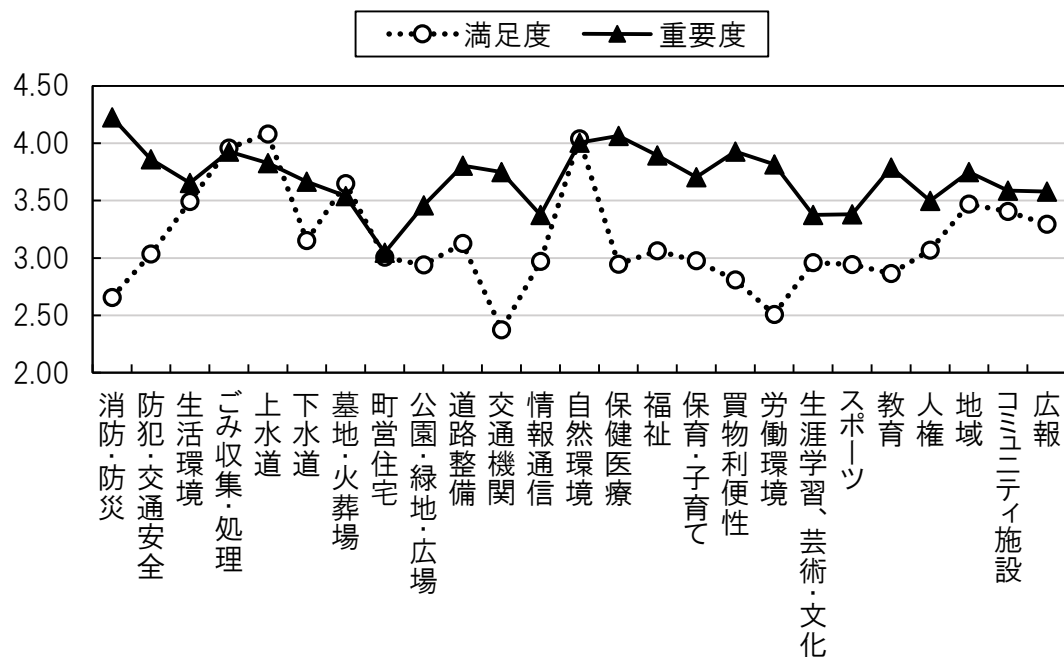
※○の数字は上位の項目を、△の数字は下位の項目を表しています。

		1 位	2 位	3 位
満足度	上位	上水道 (4.08)	自然環境 (4.04)	ごみ収集・処理 (3.96)
	下位	交通機関 (2.38)	労働環境 (2.51)	消防・防災 (2.66)
重要度	上位	消防・防災 (4.23)	保健医療 (4.06)	自然環境 (4.00)
	下位	町営住宅 (3.05)	生涯学習、芸術・文化 (3.37)	情報通信 (3.38)

※ () 内の数値は点数を表しています。

【4】満足度・重要度の比較

満足度と重要度を比較すると、「生活環境」「ごみ収集・処理」「上水道」「墓地・火葬場」「町営住宅」「自然環境」「コミュニティ施設」では、近い値となっており、一方で「消防・防災」「防犯・交通安全」「下水道」「道路整備」「交通機関」「保健医療」「福祉」「保育・子育て」「買物利便性」「労働環境」「教育」などでは、点数に大きな開きが見られ、こうした項目について、満足度を高めることで点数差を埋めていく必要があります。



【5】回答者の属性別の満足度・重要度

①年代別

満足度を年齢別で見ると、すべての年代で「自然環境」「上水道」「ごみ収集・処理」の満足度が高くなっていますが、特に若い世代ほど「自然環境」の満足度が高く、魅力的な地域資源への評価が高い傾向にあります。一方、高齢になるほど「上水道」の満足度が高く、生活基盤への評価が高いことがうかがえます。

重要度を年齢別で見ると、すべての年代で「消防・防災」が最上位となっており、災害に対する危機感が強い傾向がうかがえます。また、若い世代ほど「労働環境」の重要度が高く、就労に対するニーズが強いことがうかがえます。

■年代別

			1 位	2 位	3 位
満足度	全 体	上位	上水道 (4.08)	自然環境 (4.04)	ごみ収集・処理 (3.96)
		下位	交通機関 (2.38)	労働環境 (2.51)	消防・防災 (2.66)
	20代～30代	上位	自然環境 (4.31)	ごみ収集・処理 (3.92)	上水道 (3.82)
		下位	交通機関 (2.28)	労働環境 (2.40)	消防・防災 (2.45)
	40代～50代	上位	自然環境 (4.19)	上水道 (4.00)	ごみ収集・処理 (3.85)
		下位	交通機関 (2.09)	労働環境 (2.28)	消防・防災 (2.58)
	60代以上	上位	上水道 (4.17)	ごみ収集・処理 (4.01)	自然環境 (3.93)
		下位	交通機関 (2.52)	労働環境 (2.64)	消防・防災 (2.73)
重要度	全 体	上位	消防・防災 (4.23)	保健医療 (4.06)	自然環境 (4.00)
		下位	町営住宅 (3.05)	生涯学習・芸術・文化 (3.37)	情報通信 (3.38)
	20代～30代	上位	消防・防災 (4.46)	労働環境 (4.29)	保健医療 (4.22) 買物利便性 (4.22)
		下位	町営住宅 (3.09)	コミュニティ施設 (3.25)	墓地・火葬場 (3.34) 生涯学習・芸術・文化 (3.34)
	40代～50代	上位	消防・防災 (4.35)	保健医療 (4.20)	自然環境 (4.04)
		下位	町営住宅 (2.95)	墓地・火葬場 (3.39)	生涯学習・芸術・文化 (3.43)
	60代以上	上位	消防・防災 (4.12)	ごみ収集・処理 (4.01)	自然環境 (3.98) 保健医療 (3.98)
		下位	町営住宅 (3.09)	情報通信 (3.17)	スポーツ (3.35)

②定住意向別

満足度を定住意向別で見ると、定住意向にかかわらず上位3項目は「上水道」「自然環境」「ごみ収集・処理」となっていますが、「はい（住み続けたい）」では「いいえ（住み続けたくない）」よりもそれぞれの満足度が高い傾向がうかがえます。

重要度を定住意向別で見ると、「はい（住み続けたい）」では「自然環境」の重要度が高くなっており、定住意向の高い人は豊かな自然環境を重視するとともに、紀北町の自然環境を高く評価していることがうかがえます。一方、「いいえ（住み続けたくない）」では「交通機関」の重要度が高いものの、満足度と合わせると、紀北町の交通機関への評価は低いことがうかがえます。

■定住意向別

			1 位	2 位	3 位
満足度	全 体	上位	上水道 (4.08)	自然環境 (4.04)	ごみ収集・処理 (3.96)
		下位	交通機関 (2.38)	労働環境 (2.51)	消防・防災 (2.66)
	は い (住み続けたい)	上位	上水道 (4.19)	自然環境 (4.07)	ごみ収集・処理 (4.00)
		下位	交通機関 (2.54)	労働環境 (2.65)	消防・防災 (2.84)
	い い え (住み続けたくない)	上位	ごみ収集・処理 (4.20)	上水道 (4.04)	自然環境 (3.88)
		下位	交通機関 (1.88)	労働環境 (1.91)	買物利便性 (2.28)
	わからない	上位	自然環境 (4.03)	ごみ収集・処理 (3.85)	上水道 (3.84)
		下位	交通機関 (1.98)	労働環境 (2.22)	消防・防災 (2.24)
重要度	全 体	上位	消防・防災 (4.23)	保健医療 (4.06)	自然環境 (4.00)
		下位	町営住宅 (3.05)	生涯学習・芸術・文化(3.37)	情報通信 (3.38)
	は い (住み続けたい)	上位	消防・防災 (4.29)	自然環境 (4.12)	保健医療 (4.06)
		下位	町営住宅 (3.05)	情報通信 (3.30)	生涯学習・芸術・文化(3.39)
	い い え (住み続けたくない)	上位	消防・防災 (4.18) 交通機関 (4.18)	防犯・交通安全 (4.14)	買物利便性 (4.00)
		下位	町営住宅 (2.91)	コミュニティ施設 (3.17)	スポーツ (3.18)
	わからない	上位	消防・防災 (4.09)	保健医療 (4.06)	買物利便性 (4.00)
		下位	町営住宅 (3.02)	スポーツ (3.34)	墓地・火葬場 (3.36) 生涯学習・芸術・文化(3.36)

【6】満足度・重要度の経年変化

満足度・重要度を経年で見ると、「消防・防災」では前回調査、今回調査ともに重要度が最上位である一方、満足度は0.11ポイント減少しています。

また、「コミュニティ施設」「広報」「教育」についても、前回調査よりも満足度が下がっています。

設問文	満足度			重要度		
	今回調査	前回調査	増減	今回調査	前回調査	増減
(1) 火災や地震など災害からの安全性	2.66	2.77	△ -0.11	① 4.23	① 4.24	-0.01
(2) 防犯、交通安全施設整備の状況	3.03	2.99	0.04	3.86	⑤ 3.98	△ -0.12
(3) 騒音・振動・悪臭等の環境	⑤ 3.49	3.38	0.11	3.65	3.80	△ -0.15
(4) ごみの収集・処理の状況	③ 3.96	③ 3.83	0.13	④ 3.93	④ 4.06	△ -0.13
(5) 上水道の整備状況	① 4.08	① 3.98	0.10	3.83	3.97	△ -0.14
(6) 下水道の整備状況（合併浄化槽を含む）	3.15	2.99	④ 0.16	3.67	3.82	△ -0.15
(7) 墓地や火葬場の管理・運営状況	④ 3.65	④ 3.64	0.01	3.54	3.52	② 0.02
(8) 町営住宅の整備状況	3.01	2.95	0.06	3.05	3.11	-0.06
(9) 公園・緑地・広場の整備状況	2.94	2.89	0.05	3.46	3.44	② 0.02
(10) 道路の整備状況	3.13	2.96	③ 0.17	3.81	3.84	-0.03
(11) 公共交通の便利さ	2.38	2.23	⑤ 0.15	3.75	3.85	-0.10
(12) インターネット環境など情報通信体系の整備状況	2.97	2.89	0.08	3.38	3.35	① 0.03
(13) 自然環境の豊かさ	② 4.04	② 3.92	0.12	③ 4.00	③ 4.08	-0.08
(14) 保健・医療サービスや施設整備の状況	2.95	2.69	① 0.26	② 4.06	② 4.14	-0.08
(15) 福祉サービスや施設整備の状況	3.06	2.83	② 0.23	3.89	3.97	-0.08
(16) 保育・子育て環境	2.98	2.98	△ 0.00	3.71	3.77	-0.06
(17) 日常の買物の便利さ	2.81	2.77	0.04	④ 3.93	3.94	-0.01
(18) 働きがいのある職場	2.51	2.34	③ 0.17	3.82	3.93	-0.11
(19) 生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	2.96	2.9	0.06	3.37	3.41	-0.04
(20) スポーツ活動や施設整備の状況	2.94	2.8	0.14	3.38	3.38	0.00
(21) 子どもの教育環境	2.86	2.88	△ -0.02	3.79	3.84	-0.05
(22) 人権尊重の状況	3.07	3.07	△ 0.00	3.50	3.58	-0.08
(23) 人情味や地域の連帯感	3.47	3.40	0.07	3.75	3.82	-0.07
(24) 公民館や集会所などの整備状況	3.41	⑤ 3.51	△ -0.10	3.59	3.64	-0.05
(25) 行政情報や催事情報の提供状況	3.29	3.32	△ -0.03	3.58	3.58	0.00
平均	3.15	3.08	0.07	3.70	3.76	-0.06

※○の数字は上位の項目を表します。「増減」の欄では、○の数字はプラスの大きい順番、△の数字はマイナスの大きい順番を表しています。

【7】目標指標との比較

満足度について、後期計画で設定した目標値と比較すると「上水道」「町営住宅」「ごみの収集・処理」「墓地・火葬場」では、現時点（平成 27 年度時点での換算値）での目標に対する達成度が100%を超えています。

設問文	平成22年度	平成27年度	比 較	平成28年度	平成27年度	達成度
	前回調査	今回調査		目標値	目標換算	
	①	②		④	⑤=①+④ -①×⑤/⑥	
(1) 火災や地震など災害からの安全性	44.2	41.4	-2.8	49.0	48.2	85.9%
(2) 防犯、交通安全施設整備の状況	49.7	50.9	1.2	56.0	55.0	92.6%
(3) 騒音・振動・悪臭等の環境	59.5	62.3	2.8	67.0	65.8	94.8%
(4) ごみの収集・処理の状況	70.7	73.9	3.2	74.0	73.5	100.6%
(5) 上水道の整備状況	74.4	77.0	2.6	76.0	75.7	101.7%
(6) 下水道の整備状況（合併浄化槽を含む）	49.7	53.8	4.1	56.0	55.0	97.9%
(7) 墓地や火葬場の管理・運営状況	65.9	66.2	0.3	66.0	66.0	100.4%
(8) 町営住宅の整備状況	48.8	50.2	1.4	50.0	49.8	100.7%
(9) 公園・緑地・広場の整備状況	47.3	48.5	1.2	56.0	54.6	88.9%
(10) 道路の整備状況	49.1	53.2	4.1	55.0	54.0	98.4%
(11) 公共交通の便利さ	30.8	34.4	3.6	43.0	41.0	83.9%
(12) インターネット環境など情報通信体系の整備状況	47.3	49.3	2.0	59.0	57.1	86.4%
(13) 自然環境の豊かさ	73.0	76.0	3.0	81.0	79.7	95.4%
(14) 保健・医療サービスや施設整備の状況	42.2	48.7	6.5	52.0	50.4	96.7%
(15) 福祉サービスや施設整備の状況	45.9	51.6	5.7	58.0	56.0	92.1%
(16) 保育・子育て環境	49.5	49.4	-0.1	59.0	57.4	86.1%
(17) 日常の買物の便利さ	44.2	45.2	1.0	58.0	55.7	81.2%
(18) 働きがいのある職場	33.6	37.7	4.1	45.0	43.1	87.5%
(19) 生涯学習活動 芸術・文化活動や施設整備の状況	47.5	49.0	1.5	60.0	57.9	84.6%
(20) スポーツ活動や施設整備の状況	45.0	48.6	3.6	56.0	54.2	89.7%
(21) 子どもの教育環境	47.0	46.6	-0.4	57.0	55.3	84.3%
(22) 人権尊重の状況	51.7	51.7	0.0	70.0	67.0	77.2%
(23) 人情味や地域の連帯感	60.0	61.7	1.7	69.0	67.5	91.5%
(24) 公民館や集会所などの整備状況	62.7	60.1	-2.6	65.0	64.6	93.1%
(25) 行政情報や催事情報の提供状況	58.1	57.3	-0.8	63.0	62.2	92.2%

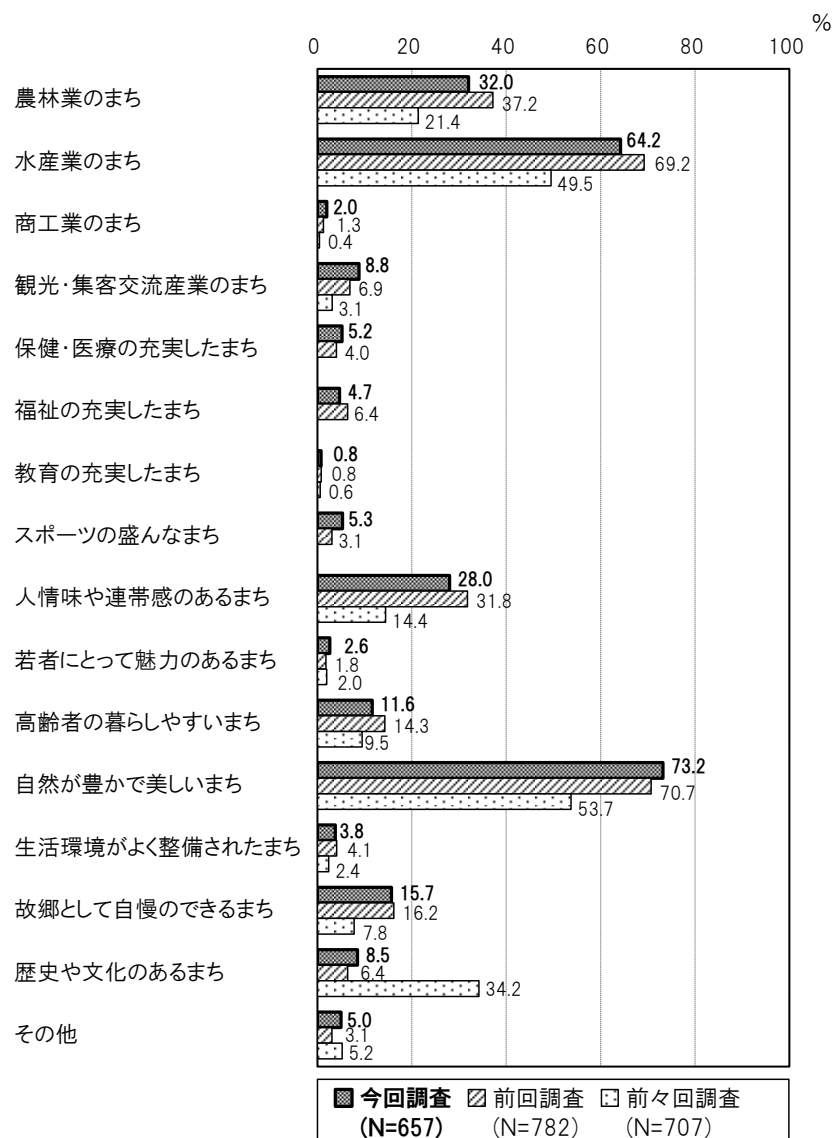
※目標指標では、100点満点を採用し、設定しており、「満足している」＝100点、「やや満足している」＝75点、「どちらともいえない」＝50点、「やや不満」＝25点、「不満である」＝0点として、合計点数を「不明・無回答」を除く件数で除して算出しています。

3. 紀北町のこれからのまちづくりについて

問 1. あなたは、紀北町のイメージをどのように思っていますか。（複数回答）

紀北町のイメージは、「自然が豊かで美しいまち」が 73. 2%、次いで、「水産業のまち」が 64. 2%と、この 2 つが群を抜いて多く、次に「農林業のまち」が 32. 0%、「人情味や連帯感のあるまち」が 28. 0%となっており、自然環境や農林水産業と合わせ、地域のつながりのあるまちというイメージを持っていることがうかがえます。

前回調査と比較すると、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「農林業のまち」の順であり、大きな傾向の変化は見られません。



※この設問は、選択可能な選択肢の数が、前々回調査の「2 つまで」から前回調査、今回調査では「3 つまで」に変更しています。

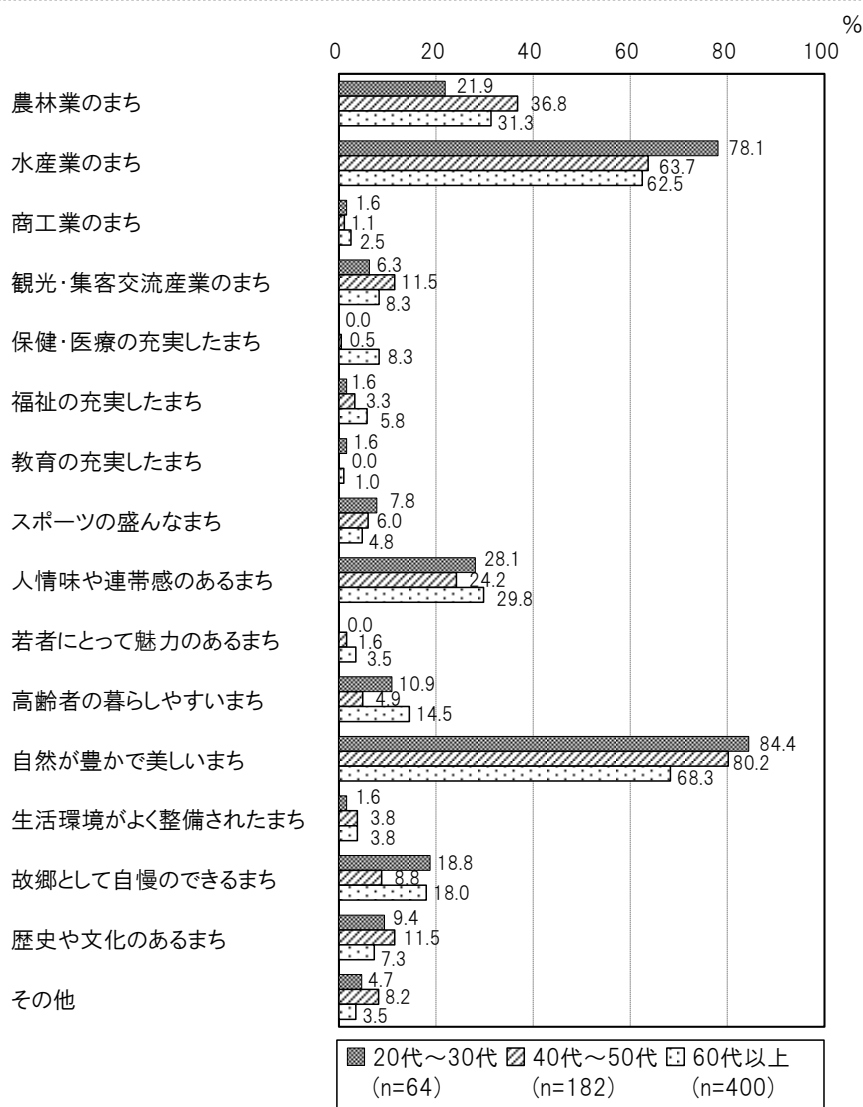
	1 位	2 位	3 位
今回調査	自然が豊かで美しいまち (73. 2)	水産業のまち (64. 2)	農林業のまち (32. 0)
前回調査	自然が豊かで美しいまち (70. 7)	水産業のまち (69. 2)	農林業のまち (37. 2)
前々回調査	自然が豊かで美しいまち (53. 7)	水産業のまち (49. 5)	歴史や文化のあるまち (熊野古道など歴史のある町) (34. 2)

問1×年代別

紀北町のイメージを年代別で見ると、20代～30代では「自然が豊かで美しいまち」が最も多く84.4%ですが、「水産業のまち」が78.1%であり差がありません。また、「人情味や連帯感のあるまち」が28.1%で3位となっています。

40代～50代でも同様に、「自然が豊かで美しいまち」が最も多く80.2%、次いで、「水産業のまち」が63.7%となっていますが、「農林業のまち」が36.8%で3位になっています。また、少数ながら、「故郷として自慢のできるまち」や「高齢者の暮らしやすいまち」が相対的に少なくなっています。

60代以上では他の年代に比べて「自然が豊かで美しいまち」が相対的に少なく、「水産業のまち」とあまり差がありません。また、「保健・医療の充実したまち」「高齢者の暮らしやすいまち」などが他の年代と比較して多く、現状への満足感を持っていることがうかがえます。

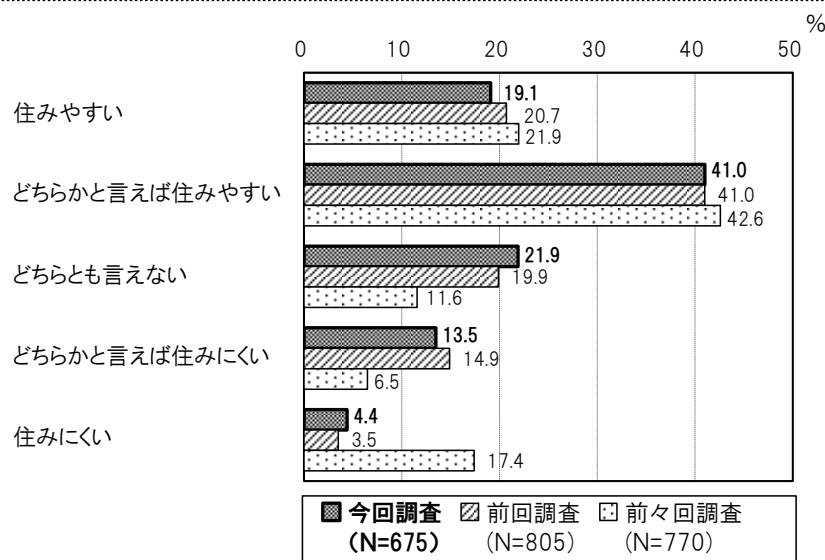


	1 位	2 位	3 位
全 体	自然が豊かで美しいまち (73.2)	水産業のまち (64.2)	農林業のまち (32.0)
20 代～30 代	自然が豊かで美しいまち (84.4)	水産業のまち (78.1)	人情味や連帯感のあるまち (28.1)
40 代～50 代	自然が豊かで美しいまち (80.2)	水産業のまち (63.7)	農林業のまち (36.8)
60 代 以 上	自然が豊かで美しいまち (68.3)	水産業のまち (62.5)	農林業のまち (31.3)

問 2. あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか。

紀北町の住みやすさは、『住みやすい』（「住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」の合計）が 60.1%、『住みにくい』（「住みにくい」と「どちらかと言えば住みにくい」の合計）が 17.9%と、『住みやすい』は『住みにくい』の 3 倍以上となっています。

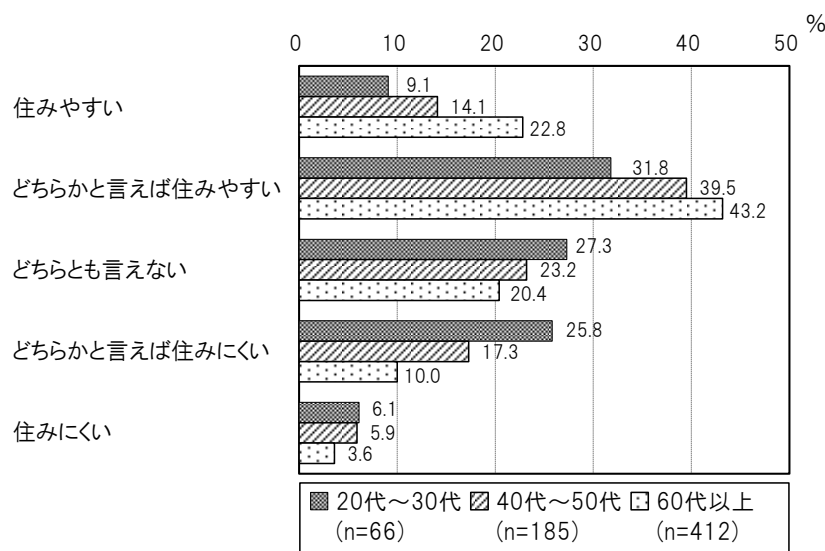
前回調査と比較すると、今回調査では『住みやすい』『住みにくい』ともに割合が少なくなり、「どちらとも言えない」が多くなっています。



	『住みやすい』	どちらとも言えない	『住みにくい』
今回調査	60.1%	21.9%	17.9%
前回調査	61.7%	19.9%	18.4%
前々回調査	64.5%	11.6%	23.9%

問 2×年代別

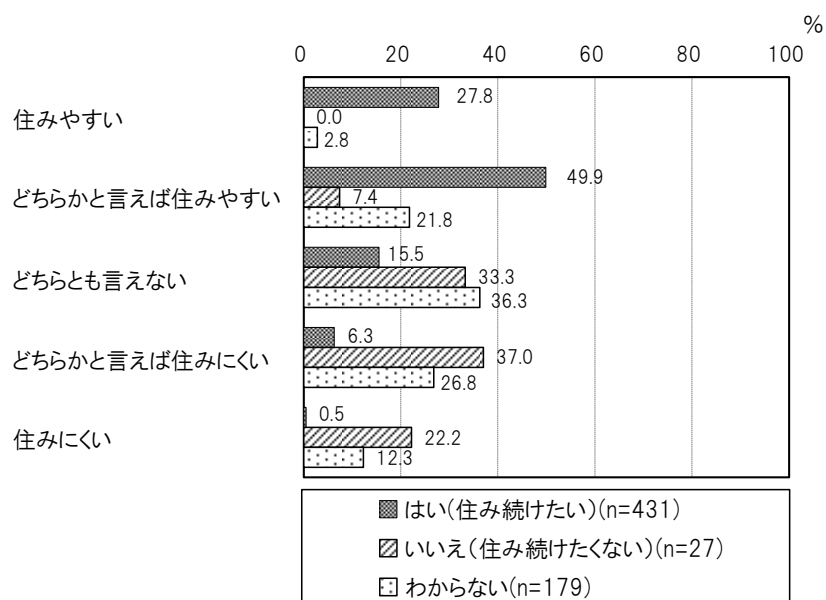
紀北町の住みやすさを年代別で見ると、「60代以上」では、『住みやすい』が 66.0%を占めているのに対し、「40～50代」では 53.6%、「20～30代」では 40.9%と年代が下がるにつれて少なくなり、『住みにくい』が多くなっています。



	『住みやすい』	どちらとも言えない	『住みにくい』
全 体	60.1%	21.9%	17.9%
20代～30代	40.9%	27.3%	31.9%
40代～50代	53.6%	23.2%	23.2%
60代以上	66.0%	20.4%	13.6%

問2×定住意向別

紀北町の住みやすさを定住意向別で見ると、「はい（住み続けたい）」では、『住みやすい』が77.7%と大半を占めているのに対し、「いいえ（住み続けたくない）」では7.4%と非常に少なくなっています。

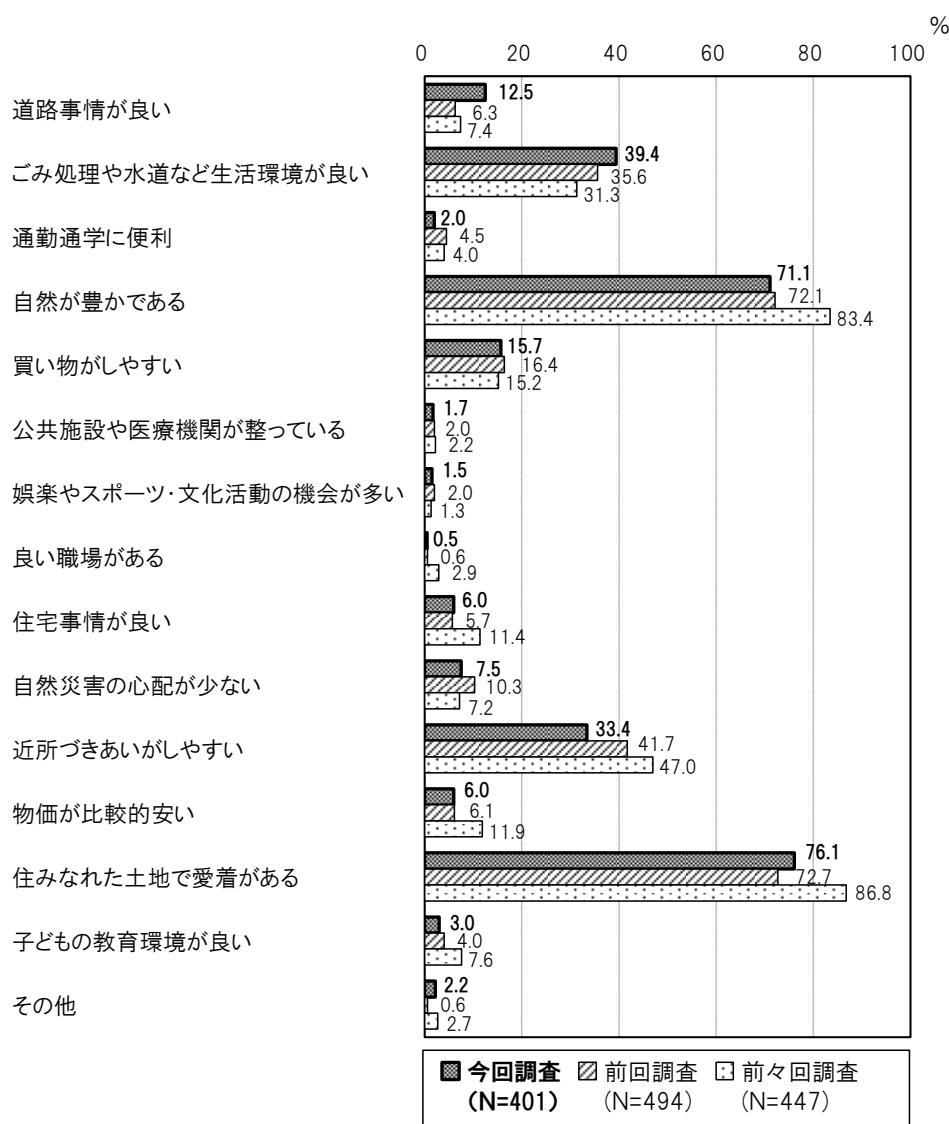


	『住みやすい』	どちらとも言えない	『住みにくい』
全 体	60.1%	21.9%	17.9%
は い (住み続けたい)	77.7%	15.5%	6.8%
い い え (住み続けたくない)	7.4%	33.3%	59.2%
わからない	24.6%	36.3%	39.1%

問3.【問2で「1. 住みやすい」「2. どちらかと言えば住みやすい」と回答された方におうかがいします。】その理由は何ですか。（複数回答）

住みやすい理由は、「住みなれた土地で愛着がある」が76.1%、「自然が豊かである」が71.1%と、この2つが群を抜いて多く、次いで、「ごみ処理や水道など生活環境が良い」が39.4%、「近所づきあいがしやすい」が33.4%となっています。自然環境や生活環境等への満足度から『住みやすい』と回答していることがうかがえます。

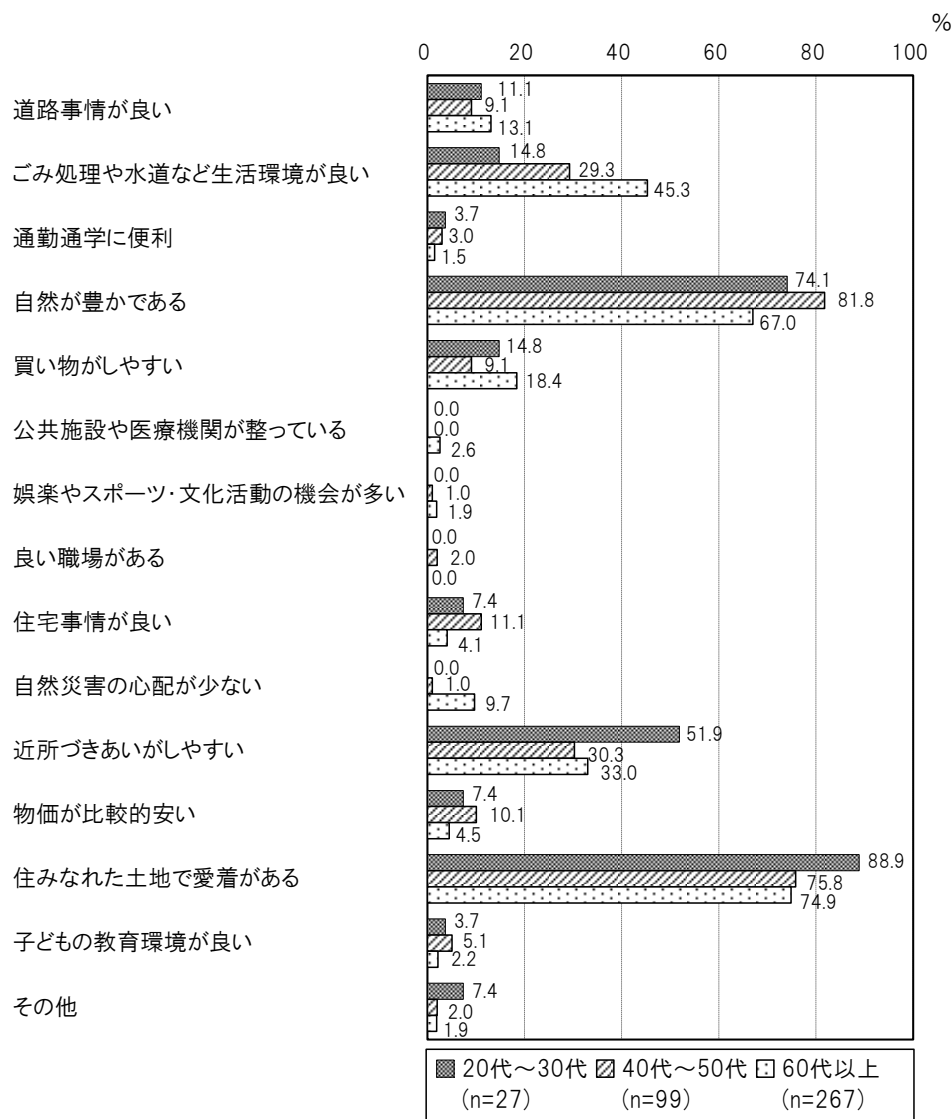
前回調査と比較すると、「住みなれた土地で愛着がある」「自然が豊かである」は変わらず多いものの、「近所づきあいがしやすい」は約8ポイント減少し、一方で「ごみ処理や水道など生活環境が良い」では約4ポイント増加しています。また、少数ながら「道路事情が良い」も約6ポイント増えています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	住みなれた土地で愛着がある (76.1)	自然が豊かである (71.1)	ごみ処理や水道など生活環境が良い (39.4)
前 回 調 査	住みなれた土地で愛着がある (72.7)	自然が豊かである (72.1)	近所づきあいがしやすい (41.7)
前々回調査	住みなれた土地で愛着がある (86.8)	自然が豊かである (83.4)	近所づきあいがしやすい (47.0)

問 3×年代別

住みやすい理由を年代別で見ると、20代～30代と60代以上では「住みなれた土地で愛着がある」が最も多くなっていますが、40代～50代では「自然が豊かである」が最も多くなっています。また、20代～30代では「近所づきあいがしやすい」が他の年代に比べて非常に多くなっている一方、「ごみ処理や水道など生活環境が良い」については、20代～30代は非常に少なく、年齢が上がるにつれて多くなっています。

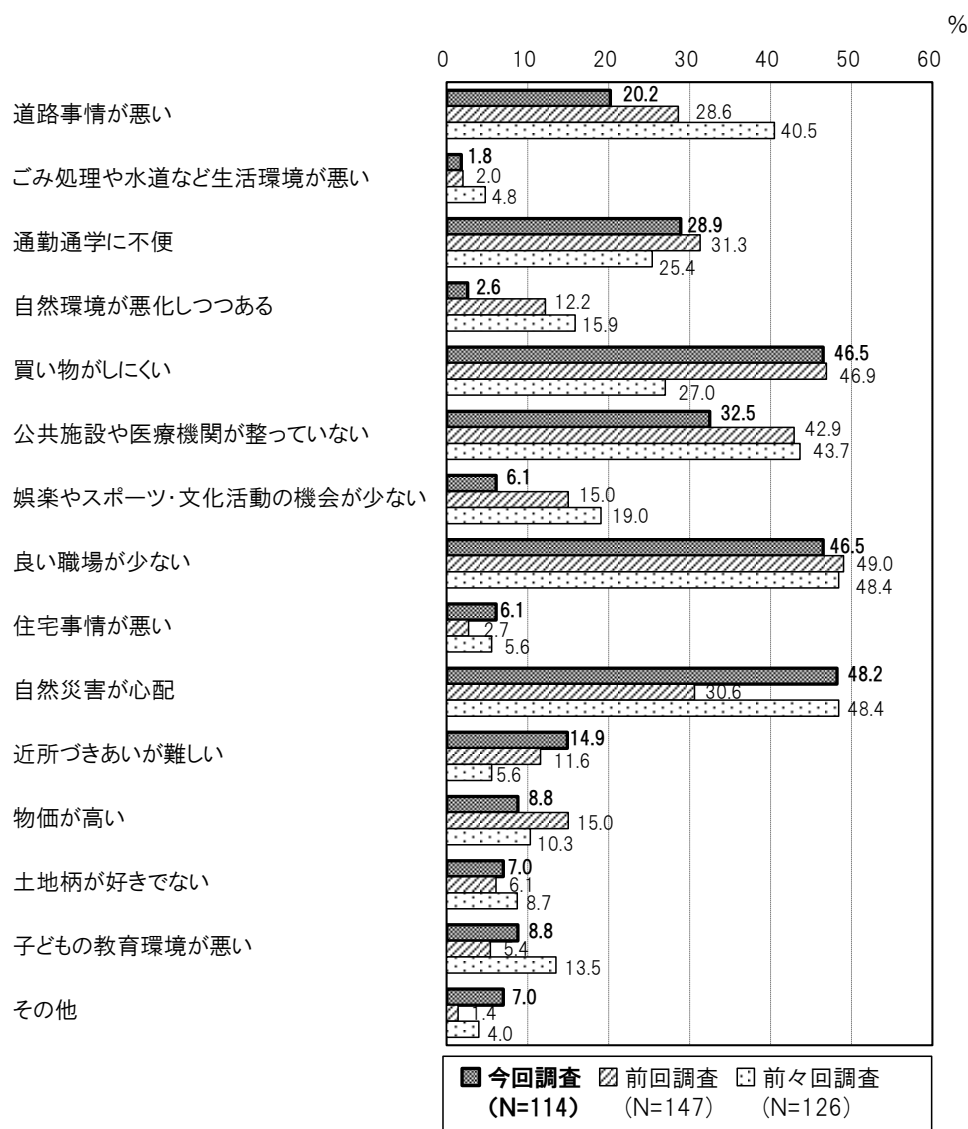


	1 位	2 位	3 位
全 体	住みなれた土地で愛着がある (76.1)	自然が豊かである (71.1)	ごみ処理や水道など生活環境が良い (39.4)
20 代～30 代	住みなれた土地で愛着がある (88.9)	自然が豊かである (74.1)	近所づきあいがしやすい (51.9)
40 代～50 代	自然が豊かである (81.8)	住みなれた土地で愛着がある (75.8)	近所づきあいがしやすい (30.3)
60 代 以 上	住みなれた土地で愛着がある (74.9)	自然が豊かである (67.0)	ごみ処理や水道など生活環境が良い (45.3)

問 4.【問 2 で「4. どちらかと言えば住みにくい」「5. 住みにくい」と回答された方におうかがいします。】その理由は何ですか。（複数回答）

住みにくい理由は、「自然災害が心配」「良い職場が少ない」「買い物がしにくい」が 4 割を超えており、次いで、「公共施設や医療機関が整っていない」「通勤通学に不便」が 3 割前後となっています。生活の利便性や安全・安心に関することが多く増えており、生活の安定という面で『住みにくい』と感じている傾向がうかがえます。

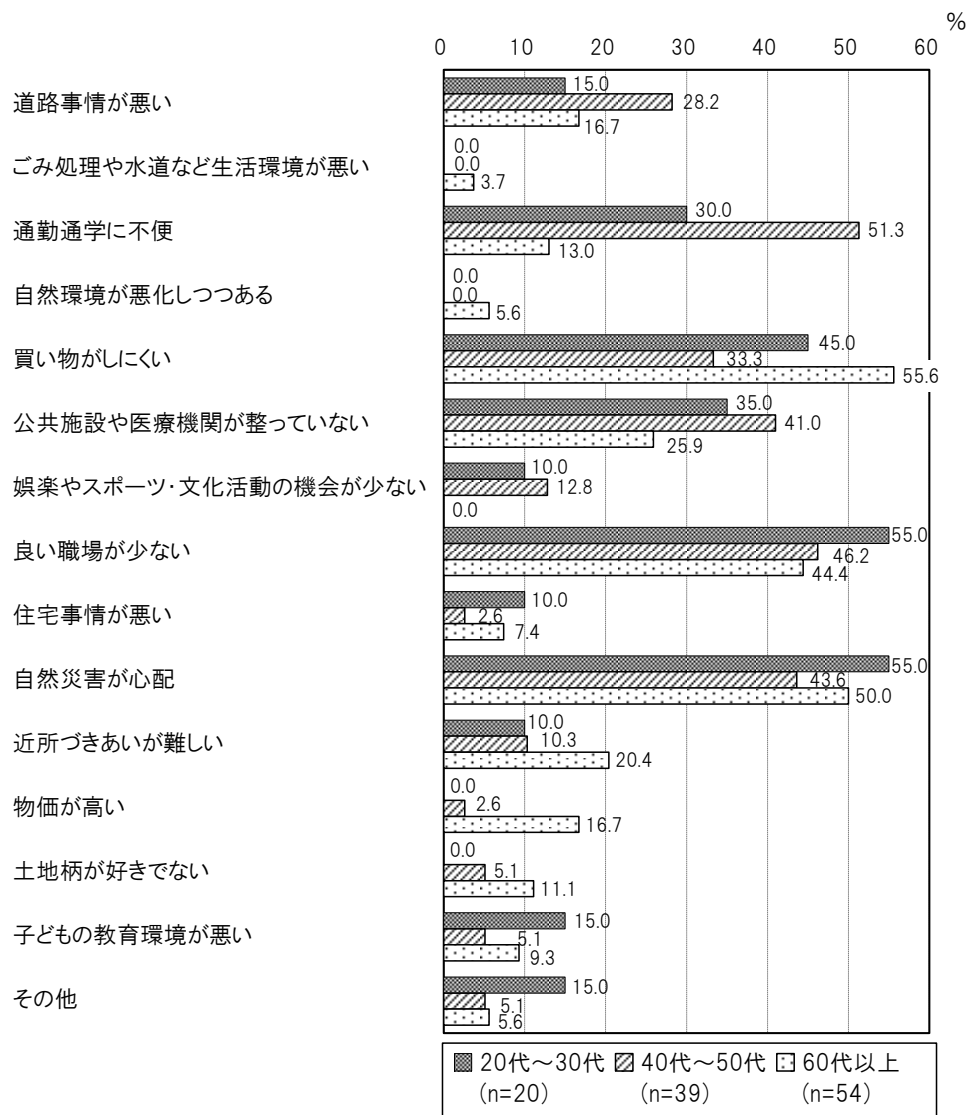
前回調査と比較すると、「公共施設や医療機関が整っていない」は約 10 ポイント減少しました。また、「道路事情が悪い」についても前々回、前回に比べて大きく減少しています。一方、「近所づきあいが難しい」は少ないものの徐々に増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	自然災害が心配 (48. 2)	買い物がしにくい (46. 5) 良い職場が少ない (46. 5)	
前 回 調 査	良い職場が少ない (49. 0)	買い物がしにくい (46. 9)	公共施設や医療機関が整っていない (42. 9)
前々回調査	良い職場が少ない (48. 4) 自然災害が心配 (48. 4)		公共施設や医療機関が整っていない (43. 7)

問 4×年代別

住みにくい理由を年代別で見ると、20代～30代では「良い職場が少ない」と「自然災害が心配」が最も多くなっており、就労面の不安と災害への不安を感じている傾向がうかがえます。40代～50代では「通勤通学に不便」が、60代以上では「買い物がしにくい」が最も多く、他の世代に比べても多くなっています。

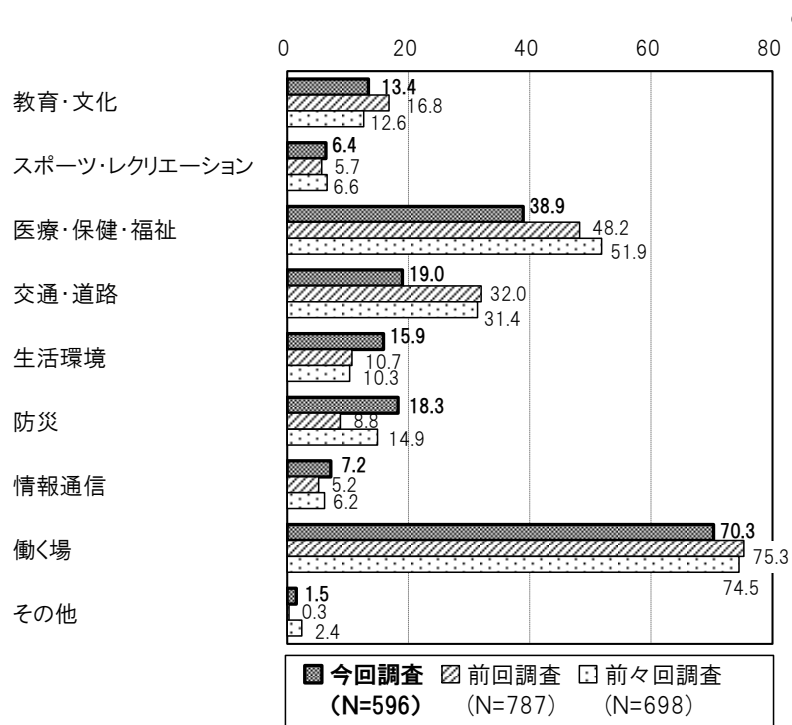


	1 位	2 位	3 位
全 体	自然災害が心配 (48. 2)	買い物がしにくい (46. 5) 良い職場が少ない (46. 5)	
20 代～30 代	良い職場が少ない (55. 0) 自然災害が心配 (55. 0)		買い物がしにくい (45. 0)
40 代～50 代	通勤通学に不便 (51. 3)	良い職場が少ない (46. 2)	自然災害が心配 (43. 6)
60 代 以 上	買い物がしにくい (55. 6)	自然災害が心配 (50. 0)	良い職場が少ない (44. 4)

問 5. 紀北町が三重県下の他の市町と比べ、遅れている分野があるとすれば、どういう面だと思えますか。（複数回答）

他市町に比べて遅れている分野については、「働く場」が 70.3%と群を抜いて多くなっており、次いで、「医療・保健・福祉」が 38.9%、「交通・道路」が 19.0%となっています。

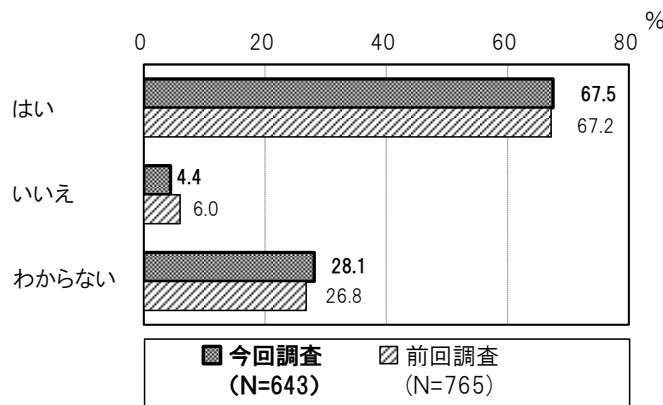
前回調査と比較すると、「交通・道路」「医療・保健・福祉」は大きく減少しましたが、「防災」については 10 ポイント近く増えています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	働く場 (70.3)	医療・保健・福祉 (38.9)	交通・道路 (19.0)
前 回 調 査	働く場 (75.3)	医療・保健・福祉 (48.2)	交通・道路 (32.0)
前々回調査	働く場 (74.5)	医療・保健・福祉 (51.9)	交通・道路 (31.4)

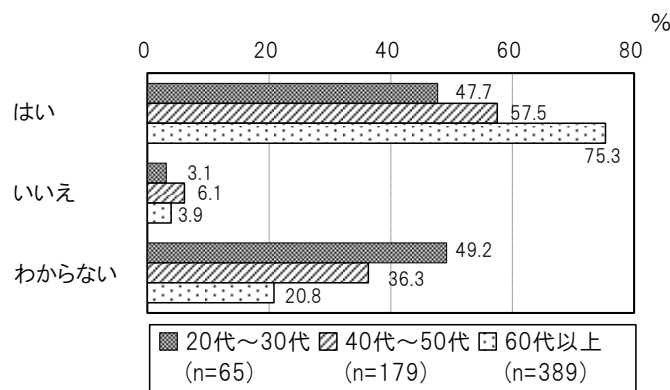
問 6. 今後も紀北町に住み続けたいと思いますか。

定住意向については、「はい（住み続けたい）」が 67.5%となっており、「いいえ（住み続けたくない）」の 4.4%を大きく上回っています。一方で「わからない」が 28.1%と、3～4 人に 1 人程度が定住するかどうか、決めかねている状況がうかがえます。



問 6×年代別

定住意向を年代別で見ると、「はい（住み続けたい）」がすべての年代で最も多くなっていますが、年齢が下がるにつれて「はい」は少なくなり、「わからない」が多くなっていることから、若い世代ほど定住することへの不安を持っていることがうかがえます。

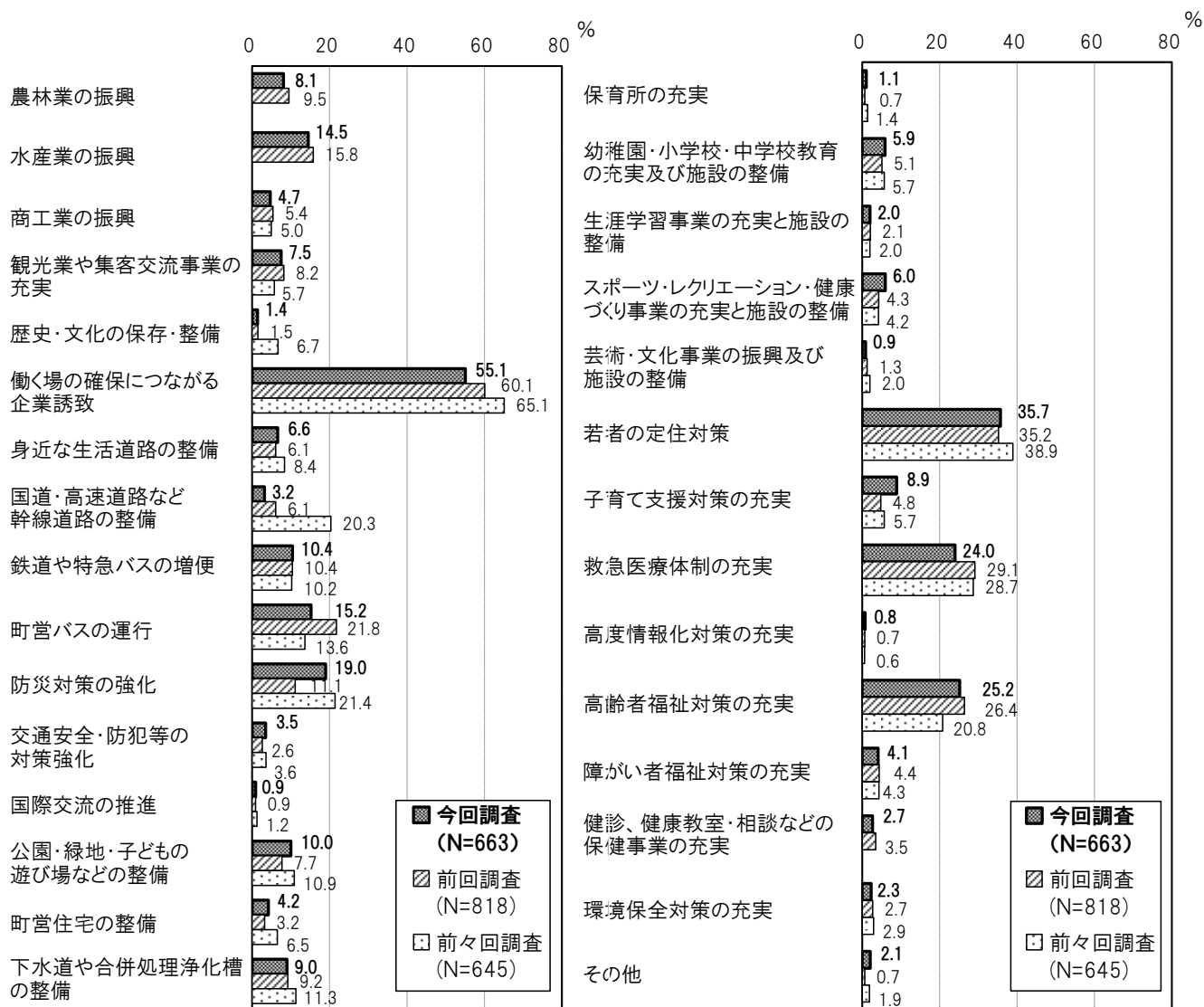


	1 位	2 位	3 位
全 体	はい (67.5)	いいえ (4.4)	わからない (28.1)
20 代～30 代	はい (47.7)	いいえ (3.1)	わからない (49.2)
40 代～50 代	はい (57.5)	いいえ (6.1)	わからない (36.3)
60 代 以 上	はい (75.3)	いいえ (3.9)	わからない (20.8)

問 7. 今後、紀北町に対して特に力を入れてほしいと思う施策はどれですか。（複数回答）

特に力を入れてほしいと思う施策については、「働く場の確保につながる企業誘致」が 55.1%と群を抜いて多くなっており、次いで、「若者の定住対策」が 35.7%、「高齢者福祉対策の充実」が 25.2%、「救急医療体制の充実」が 24.0%となっています。「働く場の確保につながる企業誘致」や「若者の定住対策」などの主に若い世代への対策と、「高齢者福祉対策の充実」や「町営バスの運行」などの主に高齢層への対策の両面が求められていることがうかがえます。

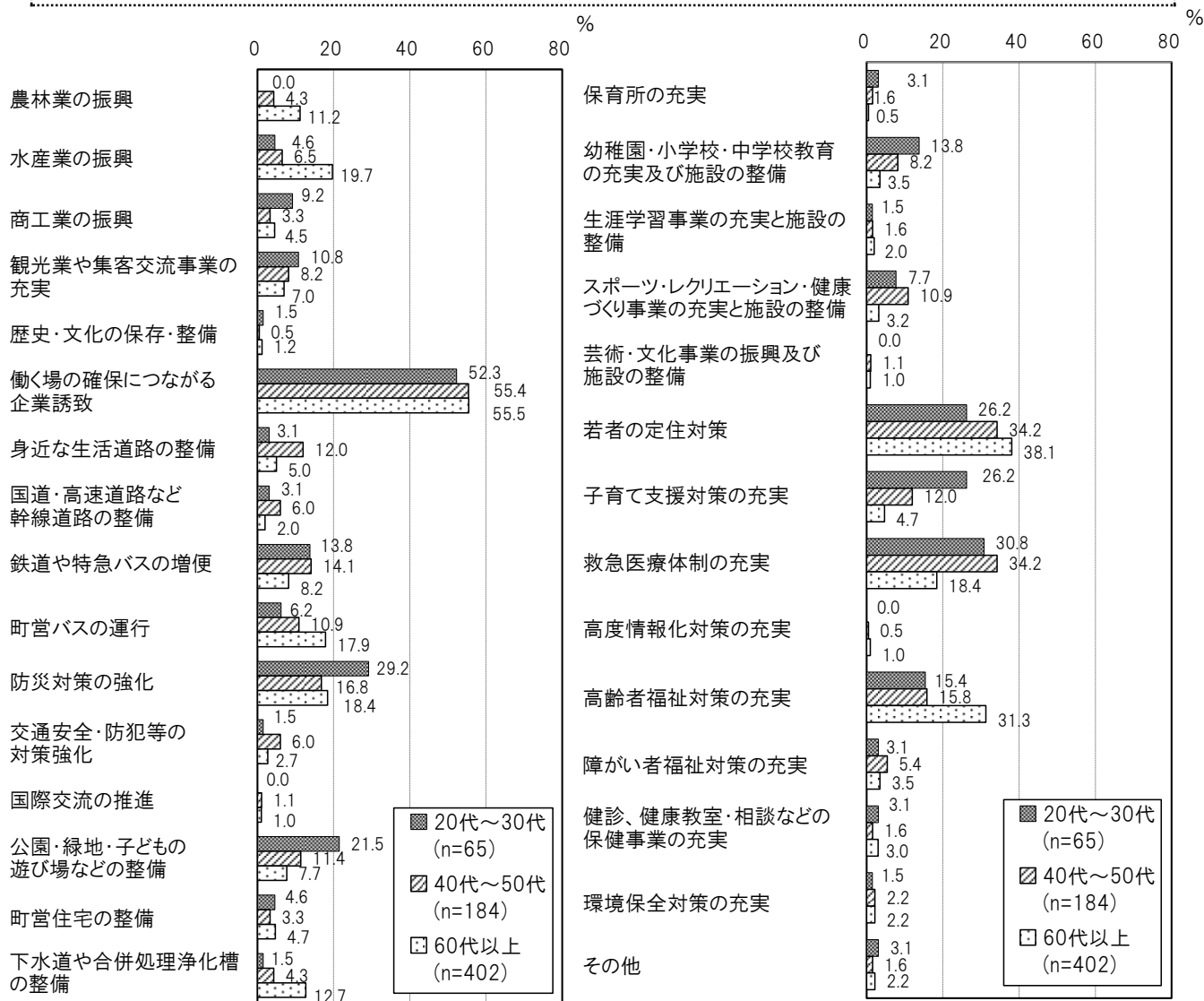
前回調査と比較すると、「救急医療体制の充実」「町営バスの運行」などでは、割合が減少したものの、「防災対策の強化」「子育て支援対策の充実」などでは、割合が増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	働く場の確保につながる企業誘致 (55.1)	若者の定住対策 (35.7)	高齢者福祉対策の充実 (25.2)
前 回 調 査	働く場の確保につながる企業誘致 (60.1)	若者の定住対策 (35.2)	救急医療体制の充実 (29.1)
前々回調査	働く場の確保につながる企業誘致 (65.1)	若者の定住対策 (38.9)	救急医療体制の充実 (28.7)

問7×年代別

特に力を入れてほしいと思う施策を年代別で見ると、すべての年代で「働く場の確保につながる企業誘致」が最も多く、次いで、20代～30代では「救急医療体制の充実」、40代～50代では「若者の定住対策」と「救急医療体制の充実」、60代以上では「若者の定住対策」となっています。また、20代～30代では「防災対策の強化」が3位に挙げられているほか、「子育て支援対策の充実」や「公園・緑地・子どもの遊び場などの整備」についても相対的に多くなっています。一方、60代以上では「高齢者福祉対策の充実」が3位に挙がっており、他の年代に比べても多く、高齢期の生活の安心の充実が求められていることがうかがえます。



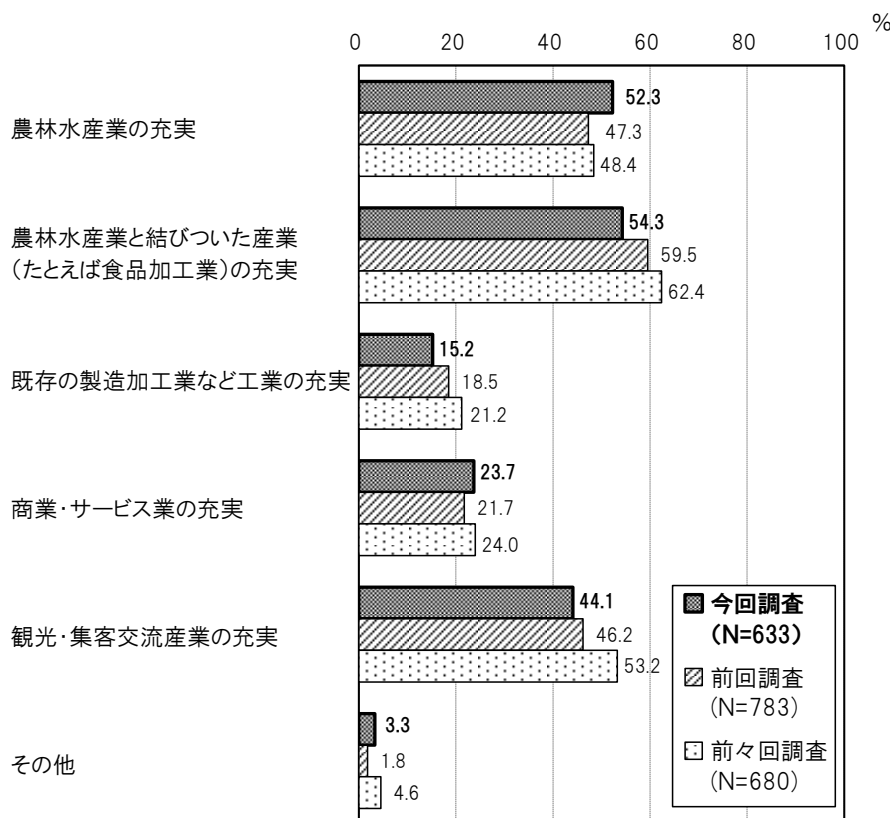
	1 位	2 位	3 位
全 体	働く場の確保につながる企業誘致 (55. 1)	若者の定住対策 (35. 7)	高齢者福祉対策の充実 (25. 2)
20 代～30 代	働く場の確保につながる企業誘致 (52. 3)	救急医療体制の充実 (30. 8)	防災対策の強化 (29. 2)
40 代～50 代	働く場の確保につながる企業誘致 (55. 4)	若者の定住対策 (34. 2) 救急医療体制の充実 (34. 2)	
60 代 以 上	働く場の確保につながる企業誘致 (55. 5)	若者の定住対策 (38. 1)	高齢者福祉対策の充実 (31. 3)

4. 分野別のまちづくりについて

問 8. 今後、紀北町はどのような方向で産業の発展を考えていくべきだと思いますか。（複数回答）

産業の発展の方向は、「農林水産業と結びついた産業の充実」が 54.3%、「農林水産業の充実」が 52.3%と 5 割以上を占め、次いで、「観光・集客交流産業の充実」が 44.1%となっています。農林水産業を基幹とした各産業の連携や、まちの地域資源を活かした観光産業等の発展が求められていることがうかがえます。

前回調査と比較すると、「農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実」「観光・集客交流産業の充実」が減少する一方で、「農林水産業の充実」は増加しています。

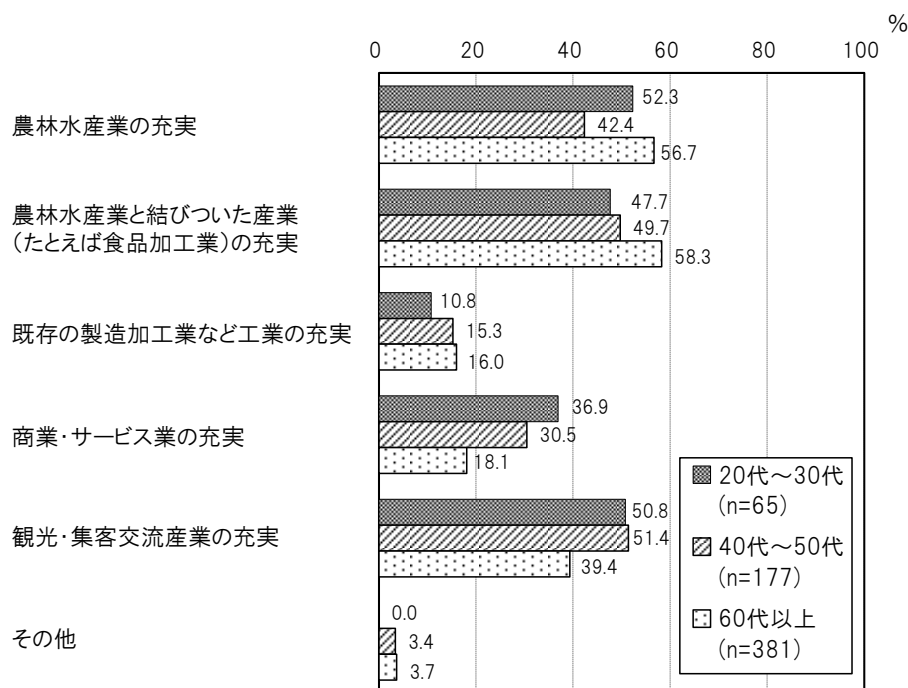


	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	農林水産業と結びついた産業 (たとえば食品加工業) の充実 (54.3)	農林水産業の充実 (52.3)	観光・集客交流産業の充実 (44.1)
前 回 調 査	農林水産業と結びついた産業 (たとえば食品加工業) の充実 (59.5)	農林水産業の充実 (47.3)	観光・集客交流産業の充実 (46.2)
前々回調査	農林水産業と結びついた産業 (たとえば食品加工業) の充実 (62.4)	観光・集客交流産業の充実 (53.2)	農林水産業の充実 (48.4)

※「農林水産業の充実」は前々回調査の選択肢に合わせ、「農林業の充実」と「水産業の充実」の合計。

問 8×年代別

産業の発展の方向を年代別で見ると、20代～30代では「農林水産業の充実」が、40代～50代では「観光・集客交流産業の充実」が、60代以上では「農林水産業と結びついた産業の充実」が最も多くなっています。また、「商業・サービス業の充実」では若い年代ほど多くなっており、全体的には農林水産業を基幹とした産業の方向を指向しつつも、年代によってやや違いが見られます。

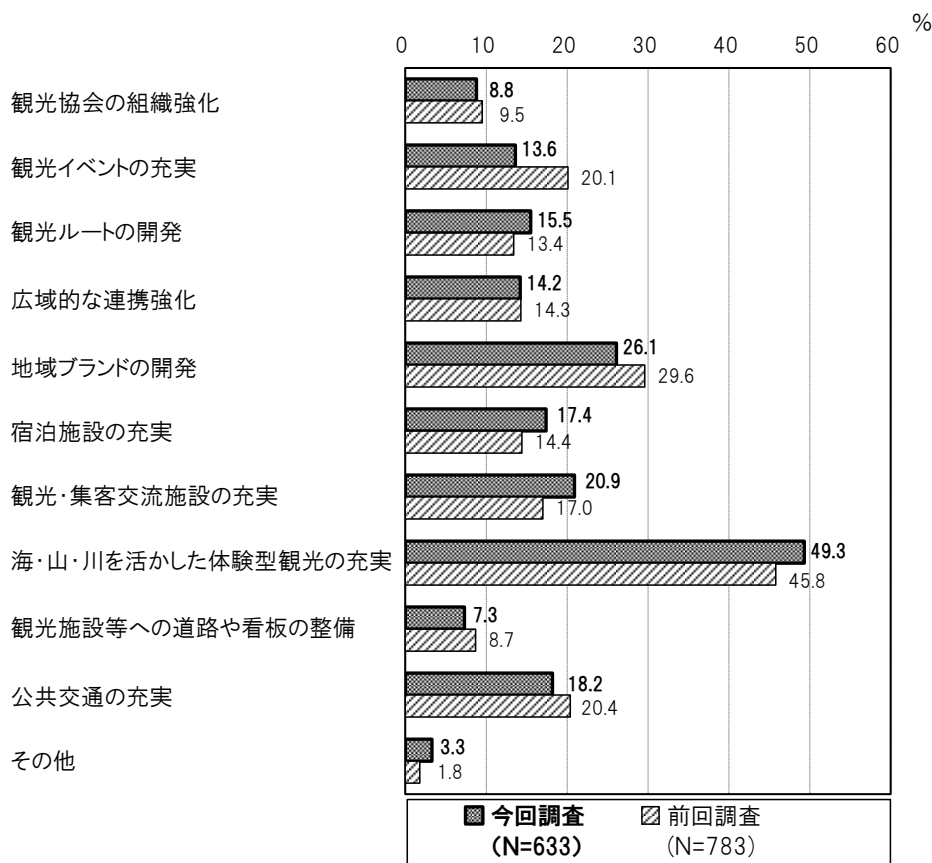


	1 位	2 位	3 位
全 体	農林水産業と結びついた産業 (たとえば食品加工業) の充実 (54. 3)	農 林 水 産 業 の 充 実 (52. 3)	観 光 ・ 集 客 交 流 産 業 の 充 実 (44. 1)
20 代～30 代	農 林 水 産 業 の 充 実 (52. 3)	観 光 ・ 集 客 交 流 産 業 の 充 実 (50. 8)	農 林 水 産 業 と 結 び つ い た 産 業 (た と え ば 食 品 加 工 業) の 充 実 (47. 7)
40 代～50 代	観 光 ・ 集 客 交 流 産 業 の 充 実 (51. 4)	農 林 水 産 業 と 結 び つ い た 産 業 (た と え ば 食 品 加 工 業) の 充 実 (49. 7)	農 林 水 産 業 の 充 実 (42. 4)
60 代 以 上	農 林 水 産 業 と 結 び つ い た 産 業 (た と え ば 食 品 加 工 業) の 充 実 (58. 3)	農 林 水 産 業 の 充 実 (56. 7)	観 光 ・ 集 客 交 流 産 業 の 充 実 (39. 4)

問 9. 観光振興のため、どのような施策が必要だとお考えですか。（複数回答）

観光振興のために必要な施策は、「海・山・川を活かした体験型観光の充実」が 49.3%と最も多く、次いで、「地域ブランドの開発」が 26.1%、「観光・集客交流施設の充実」が 20.9%、「公共交通の充実」が 18.2%となっています。施設やインフラの整備よりも地域資源を活かしたソフト面の施策が求められていることがうかがえます。

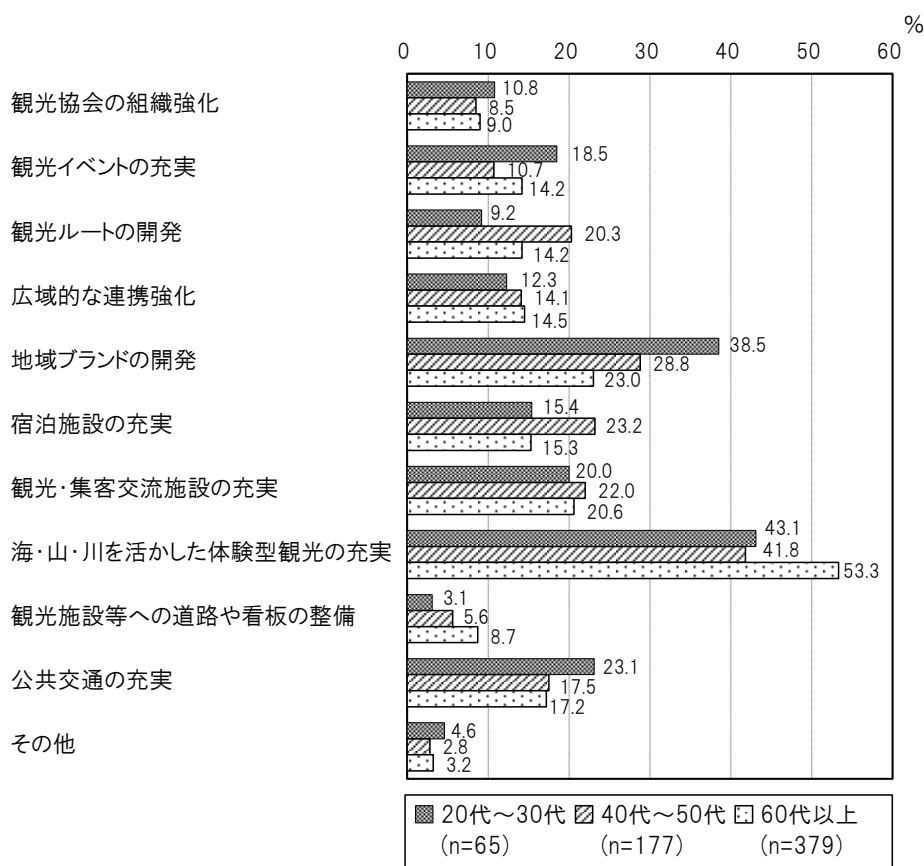
前回調査と比較すると、「観光・集客交流施設の充実」「海・山・川を活かした体験型観光の充実」「宿泊施設の充実」「観光ルートの開発」などの割合が多くなった一方、「観光イベントの充実」「地域ブランドの開発」「公共交通の充実」などの割合は少なくなっており、特に「観光イベントの充実」では 6 ポイント以上減少しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (49.3)	地域ブランドの開発 (26.1)	観光・集客交流施設の充実 (20.9)
前 回 調 査	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (45.8)	地域ブランドの開発 (29.6)	公共交通の充実 (20.4)

問 9×年代別

観光振興のために必要な施策を年代別で見ると、すべての年代で「海・山・川を活かした体験型観光の充実」が最も多く、60代以上で特に多くなっています。また、年代が若くなるほど「地域ブランドの開発」「公共交通の充実」の割合が多くなっており、観光振興の方向性については、全般には自然を活かした体験型を指向しつつも、年代ごとに若干の傾向の違いが見られます。

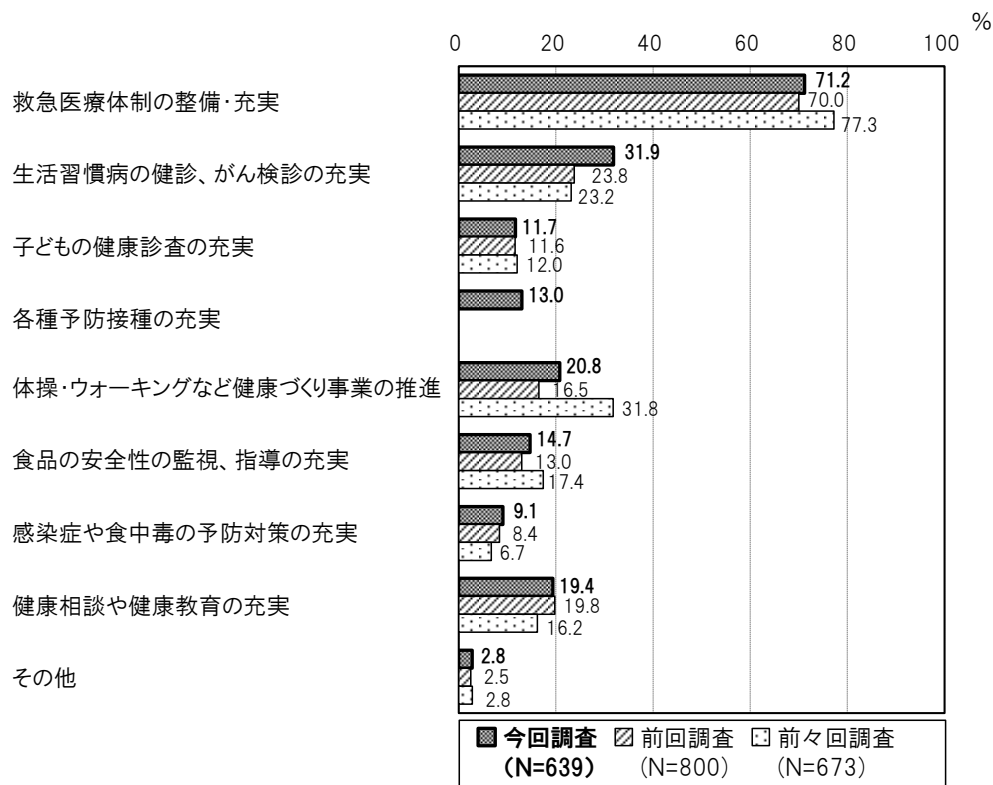


	1 位	2 位	3 位
全 体	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (49.3)	地域ブランドの開発 (26.1)	観光・集客交流施設の充実 (20.9)
20代～30代	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (43.1)	地域ブランドの開発 (38.5)	公共交通の充実 (23.1)
40代～50代	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (41.8)	地域ブランドの開発 (28.8)	宿泊施設の充実 (23.2)
60代以上	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (53.3)	地域ブランドの開発 (23.0)	観光・集客交流施設の充実 (20.6)

問 10. 保健・医療の分野でどのような施策が必要だとお考えですか。(複数回答)

保健・医療の分野で必要な施策は、「救急医療体制の整備・充実」が 71.2%と群を抜いて多くなっており、次いで、「生活習慣病の健診、がん検診の充実」が 31.9%、「体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進」が 20.8%となっています。体制や機能面の充実と健診・指導、健康相談や健康教育などの施策面の充実の両面が求められています。

前回調査と比較すると、「生活習慣病の健診、がん検診の充実」「体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進」などの割合が増加しています。

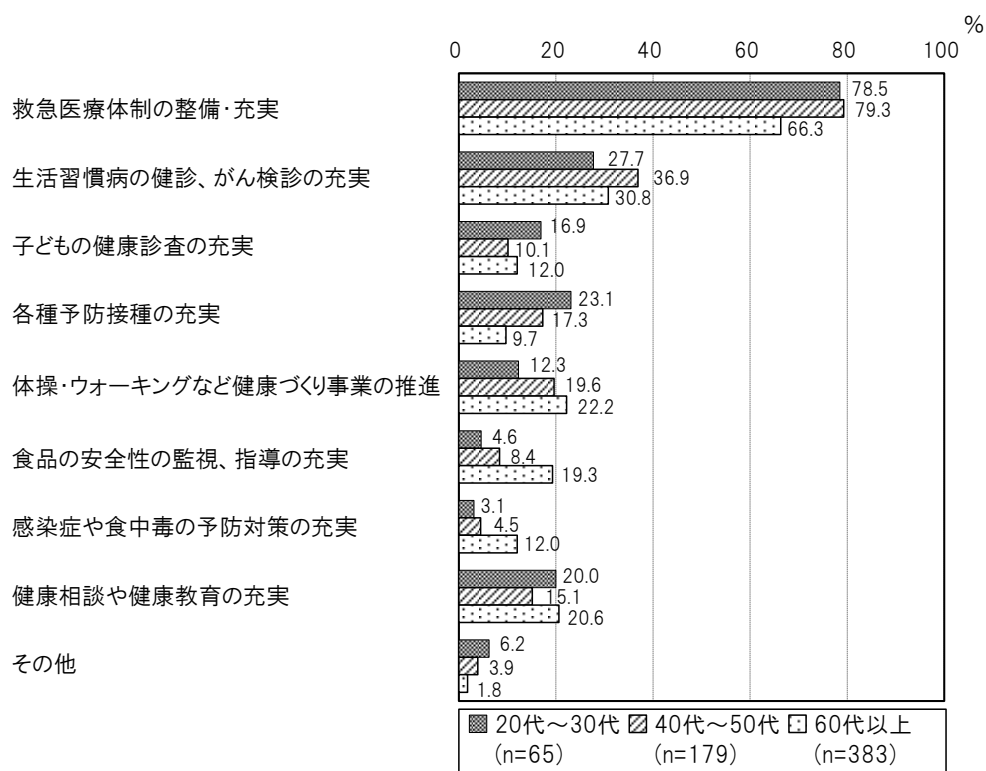


	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	救急医療体制の整備・充実(71.2)	生活習慣病の健診、がん検診の充実 (31.9)	体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進(20.8)
前 回 調 査	救急医療体制の整備・充実(70.0)	保健センター等の機能の充実 (27.9)	生活習慣病の健診、がん検診の充実 (23.8)
前々回調査	救急医療体制の整備・充実(77.3)	体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進(31.8)	保健センター等の機能の充実 (27.5)

※斜体字は今回調査にない選択肢を表す（以下同）。

問 10×年代別

保健・医療の分野で必要な施策を年代別で見ると、すべての年代で「救急医療体制の整備・充実」が最も多く、次いで、「生活習慣病の健診、がん検診の充実」となっています。20代～30代では「各種予防接種の充実」「子どもの健康診査の充実」などを含め、子育てを背景としたニーズが、60代以上では「体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進」など、健康づくりや介護予防につながる施策の割合が多くなっています。

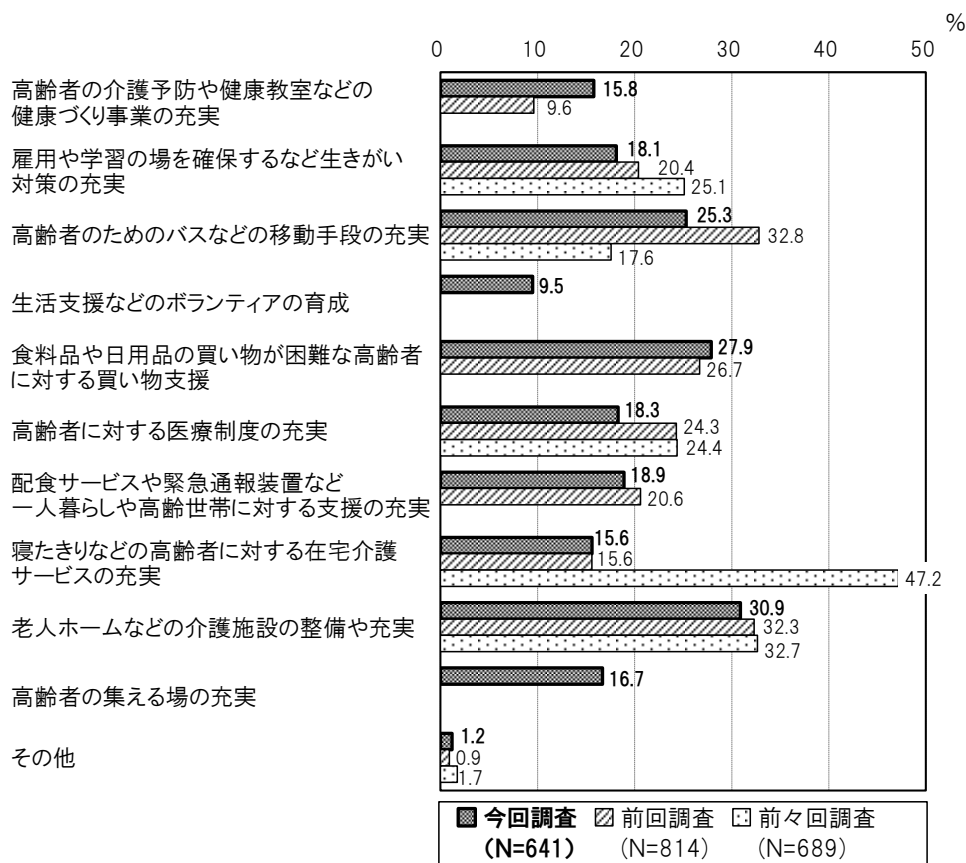


	1 位	2 位	3 位
全 体	救急医療体制の整備・充実 (71. 2)	生活習慣病の健診、がん検診の充実 (31. 9)	体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進 (20. 8)
20 代～30 代	救急医療体制の整備・充実 (78. 5)	生活習慣病の健診、がん検診の充実 (27. 7)	各種予防接種の充実 (23. 1)
40 代～50 代	救急医療体制の整備・充実 (79. 3)	生活習慣病の健診、がん検診の充実 (36. 9)	体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進 (19. 6)
60 代 以 上	救急医療体制の整備・充実 (66. 3)	生活習慣病の健診、がん検診の充実 (30. 8)	体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進 (22. 2)

問 11. 高齢者福祉対策として、今後どのような施策が必要だとお考えですか。（複数回答）

高齢者福祉の対策に必要な施策は、「老人ホームなどの介護施設の整備や充実」が 30.9%、「食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援」が 27.9%、「高齢者のためのバスなどの移動手段の充実」が 25.3%となっています。介護施設の整備、移動手段や買い物支援などの生活支援へのニーズが強いことがうかがえます。

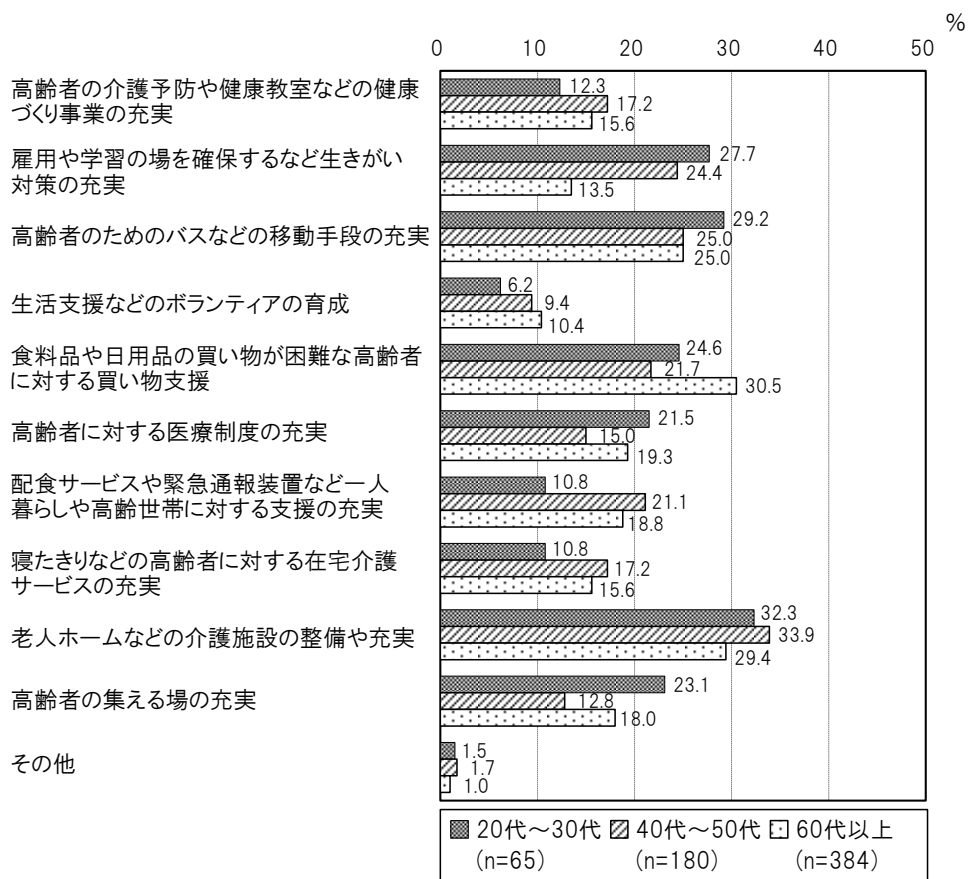
前回調査と比較すると、「高齢者の介護予防や健康教室などの健康づくり事業の充実」などで割合が増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (30.9)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (27.9)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (25.3)
前 回 調 査	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (32.8)	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (32.3)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (26.7)
前々回調査	一人暮らしや寝たきり老人に対する介護サービスの充実 (47.2)	年金制度の充実 (38.3)	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (32.7)

問 11×年代別

高齢者福祉の対策に必要な施策を年代別で見ると、20代～30代と40代～50代では「老人ホームなどの介護施設の整備や充実」が最も多く、次いで、「高齢者のためのバスなどの移動手段の充実」、「雇用や学習の場を確保するなど生きがい対策の充実」となっていますが、60代以上では「食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援」が最も多く、次いで、「老人ホームなどの介護施設の整備や充実」、「高齢者のためのバスなどの移動手段の充実」となっています。求めている高齢期の生活支援について、年代別に傾向の違いが見られます。

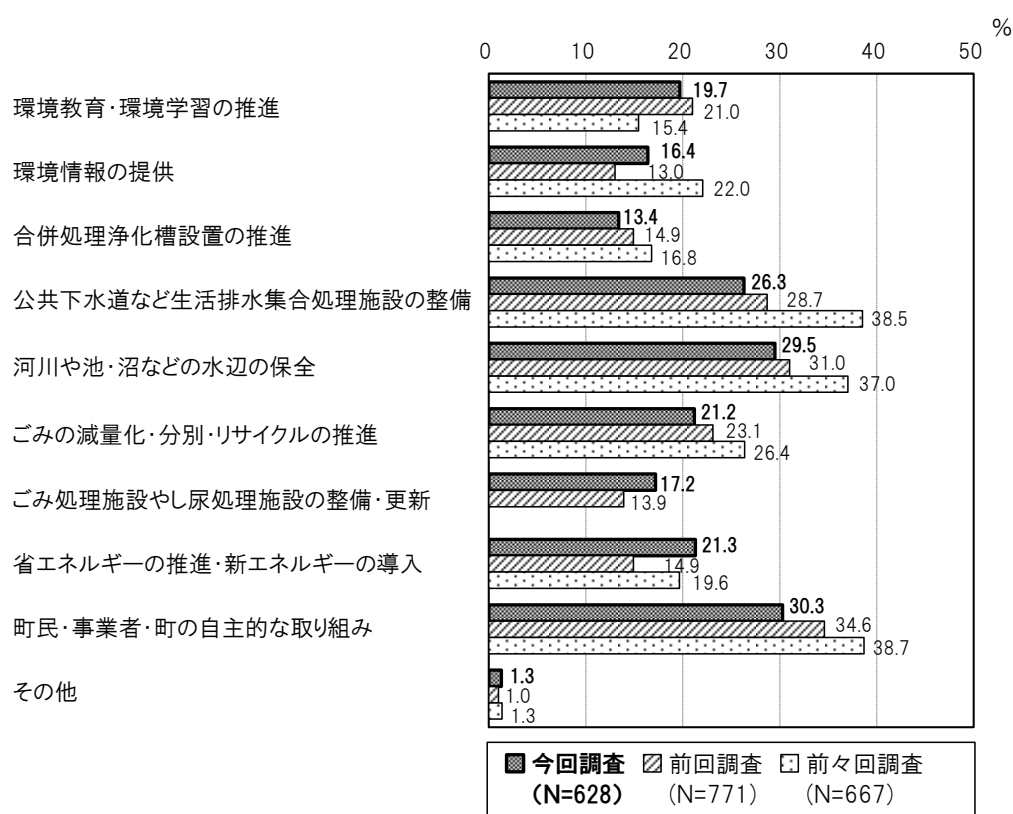


	1 位	2 位	3 位
全 体	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (30.9)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (27.9)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (25.3)
20 代～30 代	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (32.3)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (29.2)	雇用や学習の場を確保するなど生きがい対策の充実 (27.7)
40 代～50 代	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (33.9)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (25.0)	雇用や学習の場を確保するなど生きがい対策の充実 (24.4)
60 代 以 上	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (30.5)	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (29.4)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (25.0)

問 12. 紀北町環境を良くするために、どのような施策が必要だとお考えですか。（複数回答）

環境を良くするために必要な施策は、「町民・事業者・町の自主的な取り組み」が 30.3%と最も多く、次いで「河川や池・沼などの水辺の保全」が 29.5%、「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」が 26.3%、となっています。環境を良くするためには、仕組みや設備と合わせ、町民・事業者・町のそれぞれが主体的に取り組むことが必要であるとの認識がうかがえます。

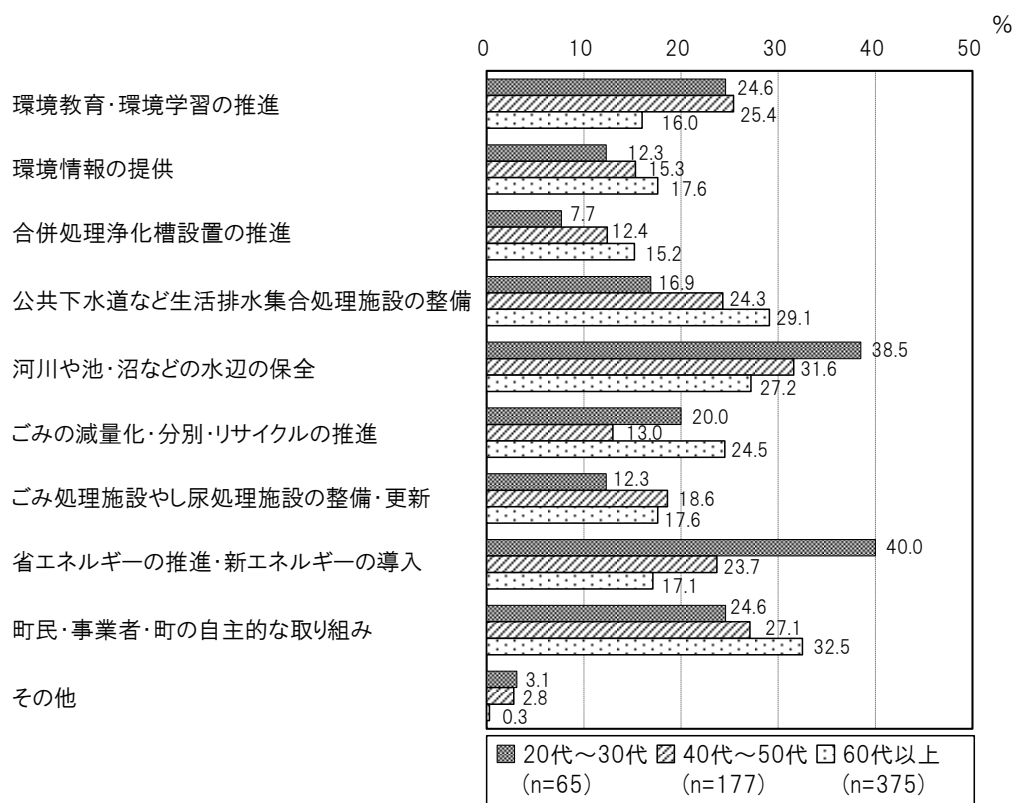
前回調査と比較すると、比較的回答の多い「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」「河川や池・沼などの水辺の保全」「ごみの減量化・分別・リサイクルの推進」「町民・事業者・町の自主的な取り組み」などでは割合が減少している一方、「省エネルギーの推進・新エネルギーの導入」「ごみ処理施設やし尿処理施設の整備・更新」「環境情報の提供」などでは割合が増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	町民・事業者・町の自主的な取り組み (30.3)	河川や池・沼などの水辺の保全 (29.5)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (26.3)
前 回 調 査	町民・事業者・町の自主的な取り組み (34.6)	河川や池・沼などの水辺の保全 (31.0)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (28.7)
前々回調査	町民・事業者・町の自主的な取り組み (38.7)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (38.5)	河川や池・沼などの水辺の保全 (37.0)

問 12×年代別

環境を良くするために必要な施策を年代別で見ると、20代～30代では「省エネルギーの推進・新エネルギーの導入」が、40代～50代では「河川や池・沼などの水辺の保全」が、60代以上では「町民・事業者・町の自主的な取り組み」が最も多くなっています。若い年代ほど、「河川や池・沼などの水辺の保全」「省エネルギーの推進・新エネルギーの導入」などの割合が多くなっており、「環境情報の提供」「合併処理浄化槽設置の推進」「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」「町民・事業者・町の自主的な取り組み」などでは、高齢になるほど割合が多くなっており、町民・事業者・町のそれぞれの主体的な取り組みと同時に、情報面や設備面が求められている傾向がうかがえます。

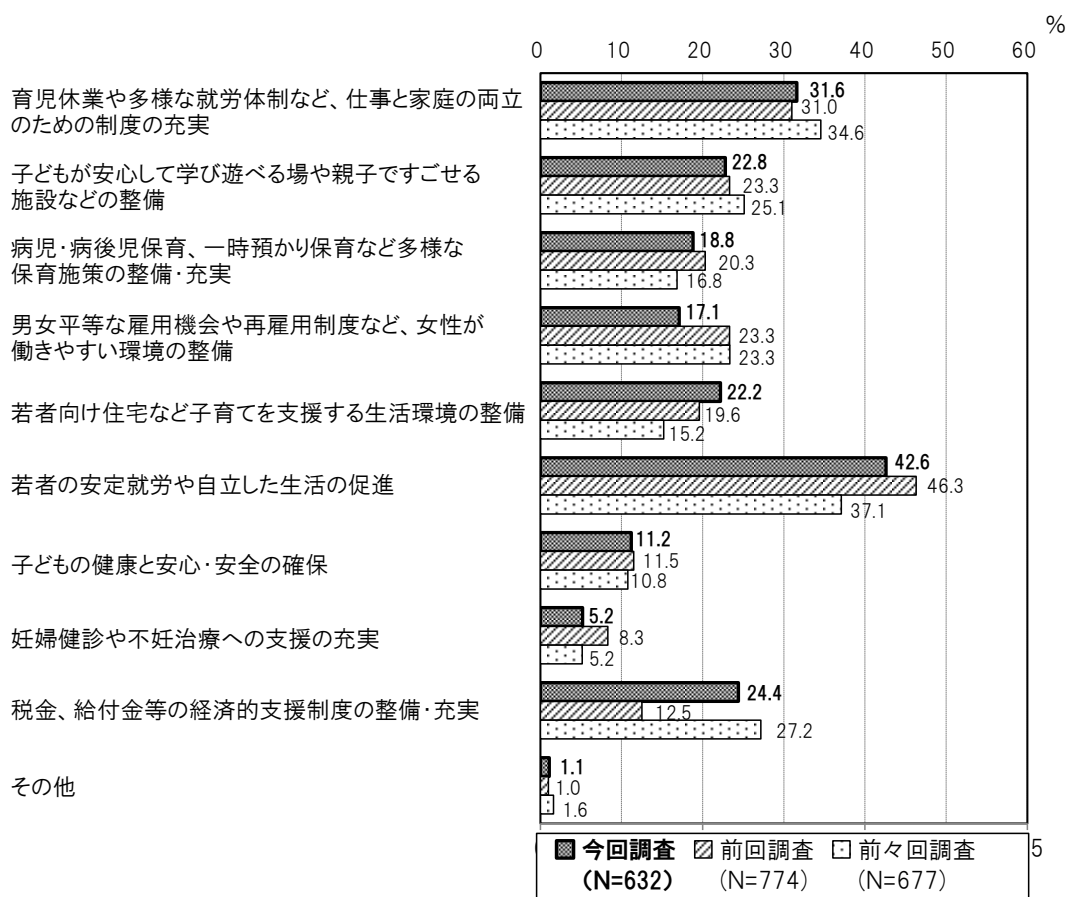


	1 位	2 位	3 位
全 体	町民・事業者・町の自主的な取り組み (30.3)	河川や池・沼などの水辺の保全 (29.5)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (26.3)
20 代～30 代	省エネルギーの推進・新エネルギーの導入 (40.0)	河川や池・沼などの水辺の保全 (38.5)	環境教育・環境学習の推進 (24.6) 町民・事業者・町の自主的な取り組み (24.6)
40 代～50 代	河川や池・沼などの水辺の保全 (31.6)	町民・事業者・町の自主的な取り組み (27.1)	環境教育・環境学習の推進 (25.4)
60 代 以 上	町民・事業者・町の自主的な取り組み (32.5)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (29.1)	河川や池・沼などの水辺の保全 (27.2)

問 13. 少子化対策として、今後どのような施策が必要だとお考えですか。（複数回答）

少子化対策に必要な施策は、「若者の安定就労や自立した生活の促進」が 42.6%と最も多く、次いで、「育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実」が 31.6%、「税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実」が 24.4%となっています。社会経済状況等を反映して、就労に関する項目が上位となっています。

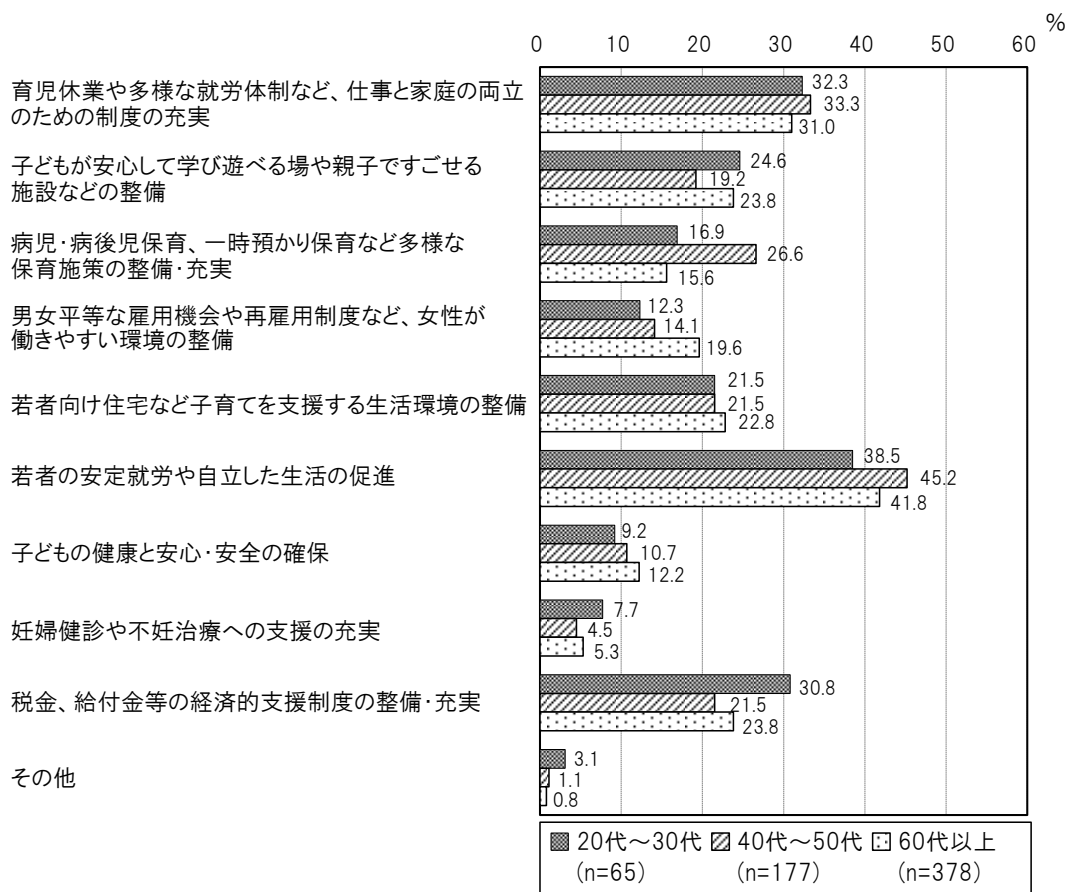
前回調査と比較すると、「男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備」の割合が減少している一方、「税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実」「若者向け住宅など子育てを支援する生活環境の整備」などでは割合が増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	若者の安定就労や自立した生活の促進 (42.6)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (31.6)	税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実 (24.4)
前 回 調 査	若者の安定就労や自立した生活の促進 (46.3)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (31.0)	子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備 (23.3) 男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備 (23.3)
前々回調査	若者の安定就労や自立した生活の促進 (37.1)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (34.6)	税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実 (27.2)

問 13×年代別

少子化対策に必要な施策を年代別で見ると、いずれの年代も「若者の安定就労や自立した生活の促進」が最も多く、次いで、「育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実」となっていますが、20代～30代では「税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実」も差がありません。一方、40代～50代では「病児・病後児保育、一時預かり保育など多様な保育施策の整備・充実」が、60代以上では「子どもが安心して学び遊べる場や親子で過ごせる施設などの整備」「税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実」が3位になっています。

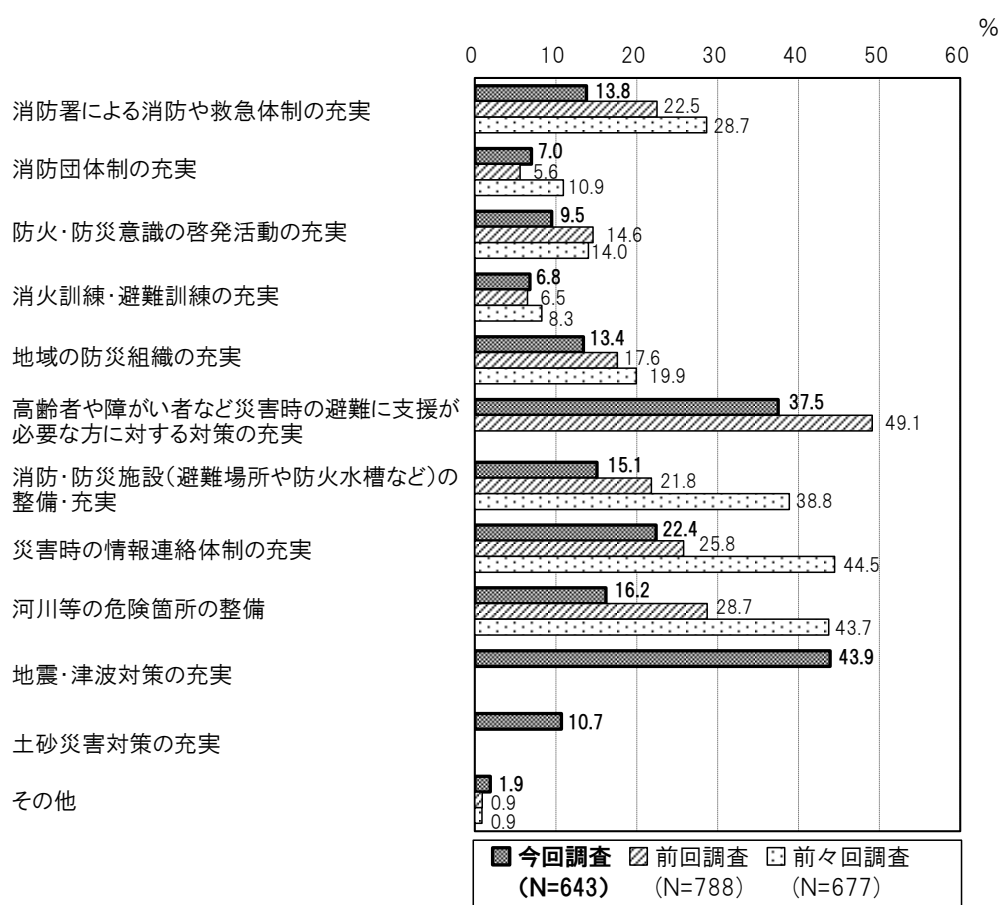


	1 位	2 位	3 位
全 体	若者の安定就労や自立した生活の促進 (42. 6)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (31. 6)	税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実 (24. 4)
20 代～30 代	若者の安定就労や自立した生活の促進 (38. 5)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (32. 3)	税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実 (30. 8)
40 代～50 代	若者の安定就労や自立した生活の促進 (45. 2)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (33. 3)	病児・病後児保育、一時預かり保育など多様な保育施策の整備・充実 (26. 6)
60 代 以 上	若者の安定就労や自立した生活の促進 (41. 8)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (31. 0)	子どもが安心して学び遊べる場や親子で過ごせる施設などの整備 (23. 8) 税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実 (23. 8)

問 14. あなたは、まちの消防・防災体制について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

まちの消防・防災体制で力を入れるべきことは、「地震・津波対策の充実」が43.9%と最も多く、次いで「高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実」が37.5%、「災害時の情報連絡体制の充実」が22.4%となっています。災害に対する危機意識が強く、自然災害対策の充実とともに、災害時要援護者対策や情報連絡体制など、地域のつながりによる防災対策が求められています。

前回調査と比較すると、前回調査では選択肢がなかった「地震・津波対策の充実」が多くなっているため、他の選択肢は軒並み数値が減少していますが、「災害時の情報連絡体制の充実」については前回の差が他に比べると小さくなっています。

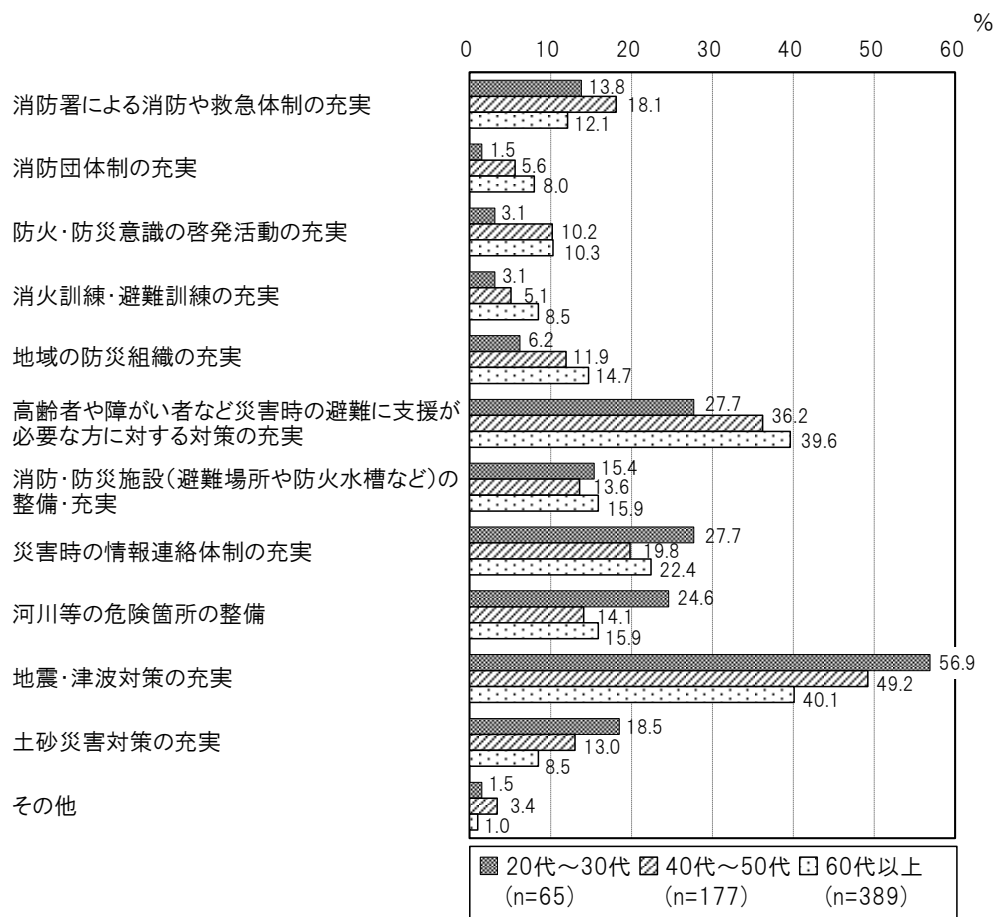


	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	地震・津波対策の充実 (43.9)	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実(37.5)	災害時の情報連絡体制の充実 (22.4)
前 回 調 査	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実(49.1)	河川等の危険箇所の整備 (28.7)	災害時の情報連絡体制の充実 (25.8)
前々回調査	災害時の情報連絡体制の充実 (44.5)	河川等の危険箇所の整備 (43.7)	消防・防災施設（避難場所や防火水槽など）の整備・充実（38.8）

問 14×年代別

まちの消防・防災体制で力を入れるべきことを年代別で見ると、いずれの年代も「地震・津波対策の充実」が最も多く、次いで、「高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実」となっていますが、20代～30代ではその差が30ポイント近くに上る一方、60代以上ではほとんど差がありません。

また、20代～30代では「災害時の情報連絡体制の充実」や「河川等の危険箇所の整備」「土砂災害対策の充実」が相対的に多いのに対し、少数ながら、年齢が上がるにつれて「地域の防災組織の充実」や「防火・防災意識の啓発活動の充実」が多くなる傾向にあります。

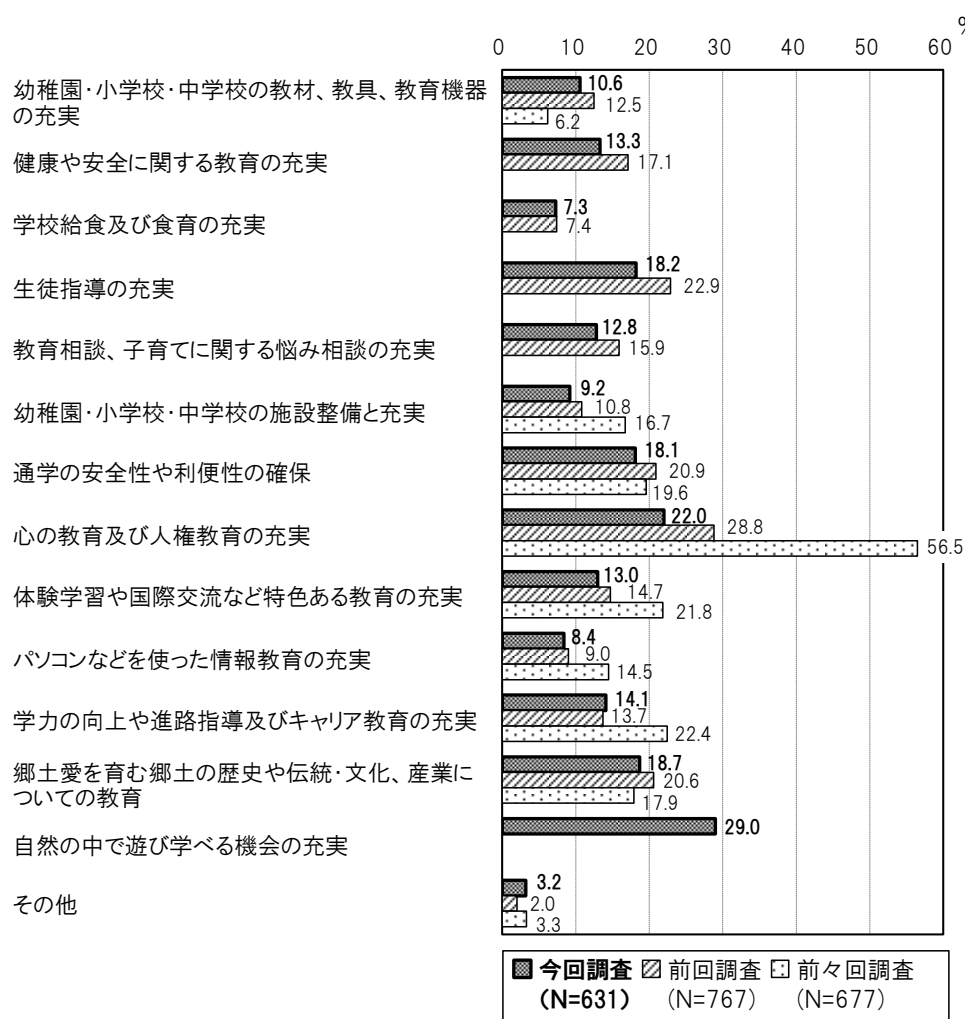


	1 位	2 位	3 位
全 体	地震・津波対策の充実 (43.9)	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実(37.5)	災害時の情報連絡体制の充実 (22.4)
20代～30代	地震・津波対策の充実 (56.9)	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実(27.7) 災害時の情報連絡体制の充実 (27.7)	
40代～50代	地震・津波対策の充実 (49.2)	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実(36.2)	災害時の情報連絡体制の充実 (19.8)
60代以上	地震・津波対策の充実 (40.1)	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実(39.6)	災害時の情報連絡体制の充実 (22.4)

問 15. 子どもの健全育成について、あなたが特に力を入れてほしいことはどれですか。（複数回答）

子どもの健全育成について特に力を入れてほしいことは、「自然の中で遊び学べる機会の充実」が 29.0%と最も多く、次いで「心の教育及び人権教育の充実」が 22.0%、「郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育」が18.7%、「生徒指導の充実」が18.2%、「通学の安全性や利便性の確保」が 18.1%となっています。各項目への回答にばらつきがあり、健全育成のために必要な項目が多岐にわたっており、特に自然や歴史などの郷土へのかかわりや、子どもの心身の健康が求められている傾向がうかがえます。

前回調査と比較すると、前回調査で選択肢になかった「自然の中で遊び学べる機会の充実」が多くなっているため、他の選択肢は軒並み数値が減少していますが、「学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実」についてはほぼ前回との差がありません。

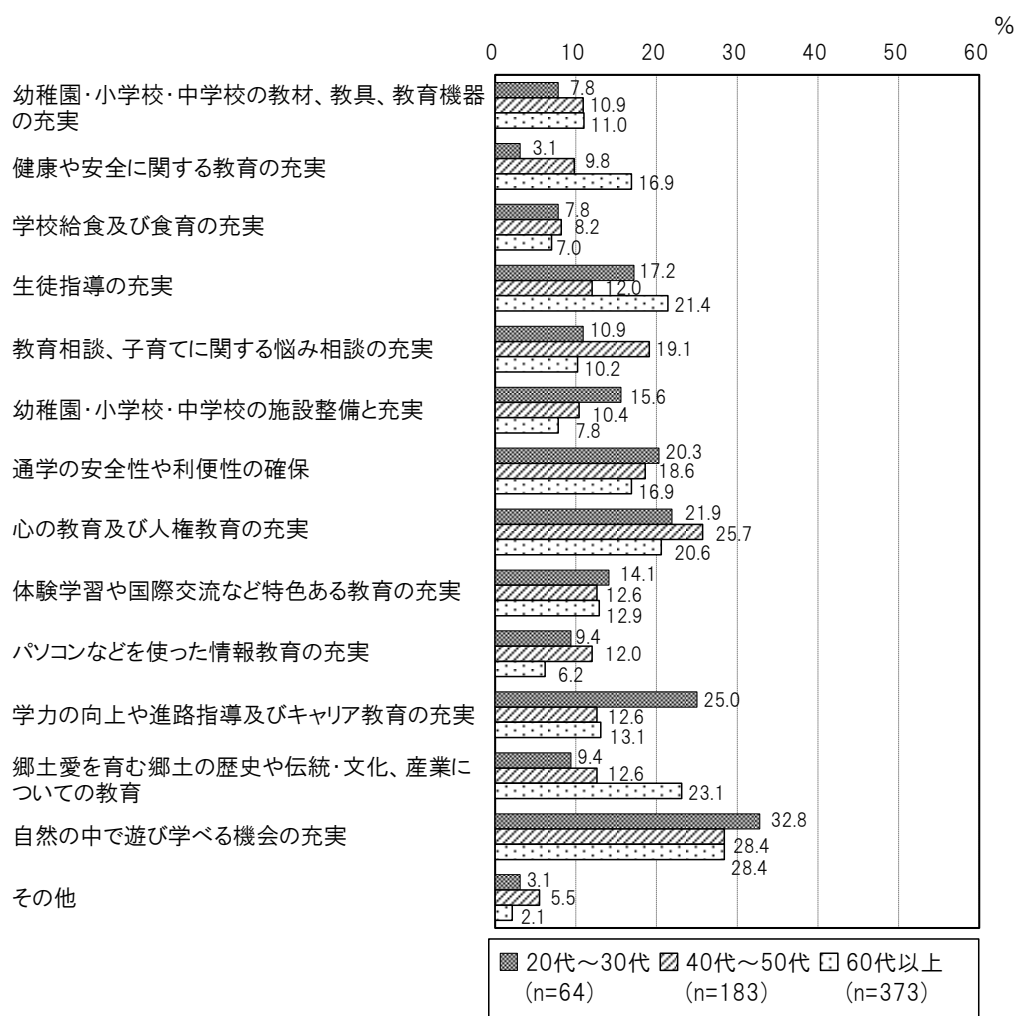


	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	自然の中で遊び学べる機会の充実 (29.0)	心の教育及び人権教育の充実 (22.0)	郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育 (18.7)
前 回 調 査	心の教育及び人権教育の充実 (28.8)	生徒指導の充実 (22.9)	通学の安全性や利便性の確保 (20.9)
前々回調査	心の教育及び人権教育の充実 (56.5)	生活指導の徹底や教育相談、悩み事相談の充実 (30.1)	学力の向上や進学のための教育の充実 (22.4)

問 15×年代別

子どもの健全育成について特に力を入れてほしいことを年代別で見ると、すべての年代で「自然の中で遊び学べる機会の充実」が最も多くなっています。次いで、20代～30代では「学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実」、40代～50代では「心の教育及び人権教育の充実」、60代以上では「郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育」が多くなっています。

若い世代ほど「学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実」「自然の中で遊び学べる機会の充実」などの割合が多くなっており、教育の質の向上や生きる力を育む教育が求められている傾向がうかがえます。一方、高齢になるほど「郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育」「健康や安全に関する教育の充実」の割合が多くなっており、郷土愛や心身の健康を重んじている傾向がうかがえます。

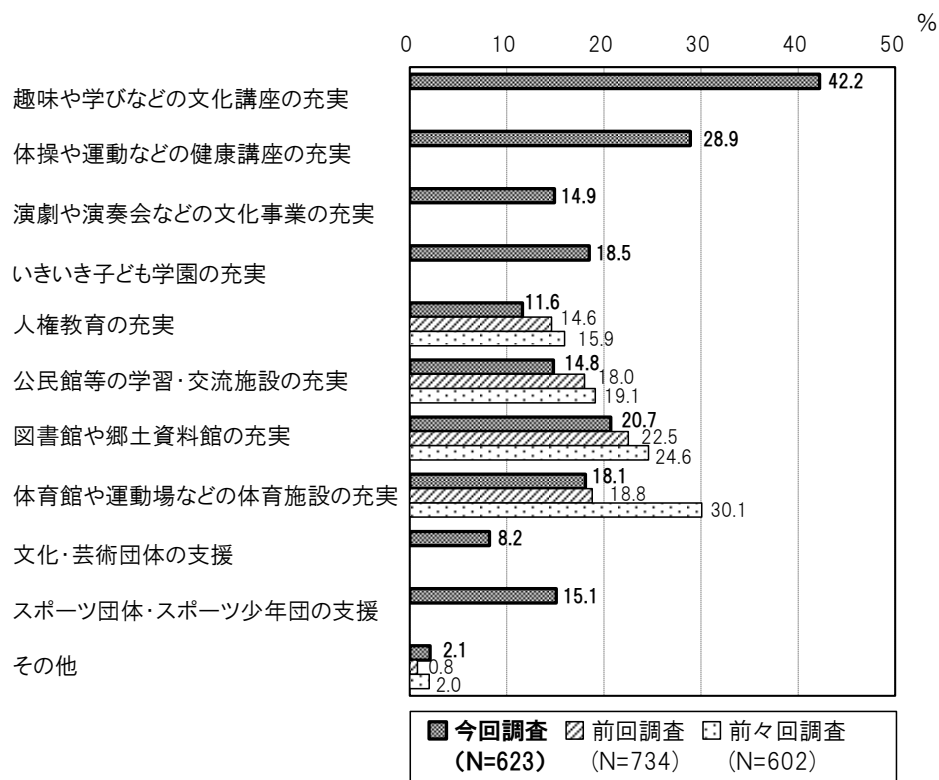


	1 位	2 位	3 位
全 体	自然の中で遊び学べる機会の充実 (29.0)	心の教育及び人権教育の充実 (22.0)	郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育 (18.7)
20 代～30 代	自然の中で遊び学べる機会の充実 (32.8)	学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実 (25.0)	心の教育及び人権教育の充実 (21.9)
40 代～50 代	自然の中で遊び学べる機会の充実 (28.4)	心の教育及び人権教育の充実 (25.7)	教育相談、子育てに関する悩み相談の充実 (19.1)
60 代 以 上	自然の中で遊び学べる機会の充実 (28.4)	郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育 (23.1)	生徒指導の充実 (21.4)

問 16. 全年代を通じた学習について、あなたが特に力を入れてほしいものはどれですか。(複数回答)

全年代を通じた学習について特に力を入れてほしいものは、「趣味や学びなどの文化講座の充実」が 42.2%と最も多く、次いで「体操や運動などの健康講座の充実」が 28.9%、「図書館や郷土資料館の充実」が 20.7%となっています。年代にかかわらず新たな知識や教養を身につけられる環境整備が求められている傾向がうかがえます。

前回調査と比較すると、選択肢が変わったものの、講座に対するニーズは引き続き強いことがうかがえます。

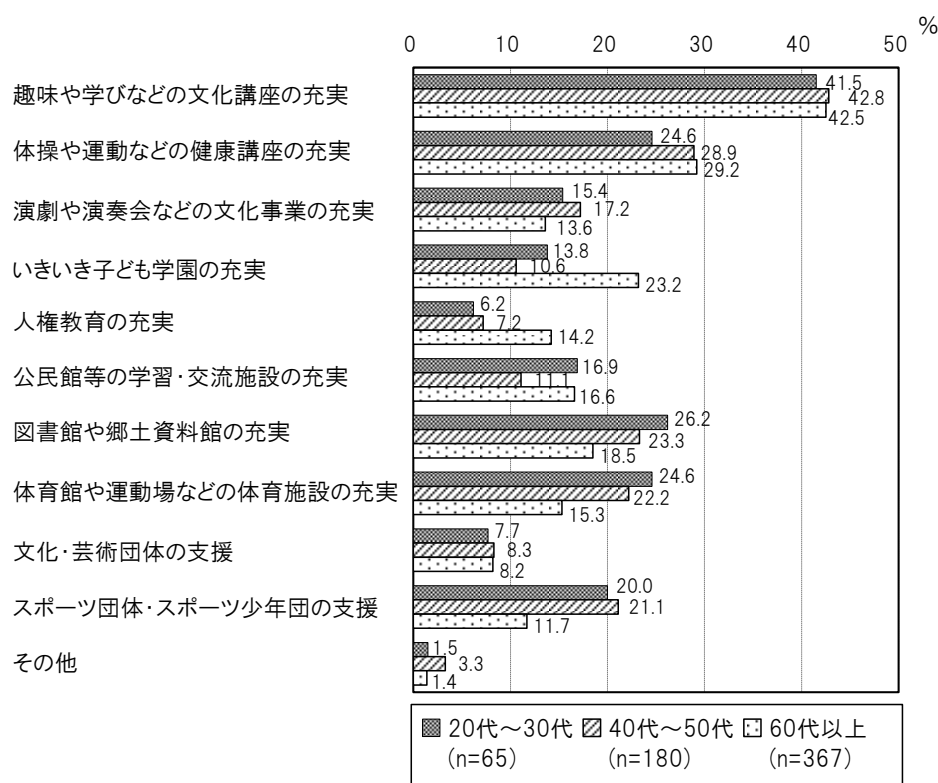


	1 位	2 位	3 位
今回調査	趣味や学びなどの文化講座の充実 (42.2)	体操や運動などの健康講座の充実 (28.9)	図書館や郷土資料館の充実 (20.7)
前回調査	生涯学習講座の充実(34.7)	空き教室の開放や活用の推進 (28.5)	図書館や郷土資料館の充実 (22.5)
前々回調査	生涯学習講座の充実(43.5)	空き教室の開放や活用の推進 (36.4)	体育館・運動場等のスポーツ施設の充実 (30.1)

問 16×年代別

全年代を通じた学習について特に力を入れてほしいものを年代別で見ると、いずれの年代も「趣味や学びなどの文化講座の充実」が最も多くなっていますが、20代～30代では「図書館や郷土資料館の充実」が続ぎ、40代～50代と60代以上では「体操や運動などの健康講座の充実」が続きます。

また、20代～30代と40代～50代では「体育館や運動場などの体育施設の充実」や「スポーツ団体・スポーツ少年団の支援」が相対的に多いのに対し、60代以上では「いきいき子ども学園の充実」や「人権教育の充実」が相対的に多くなっています。



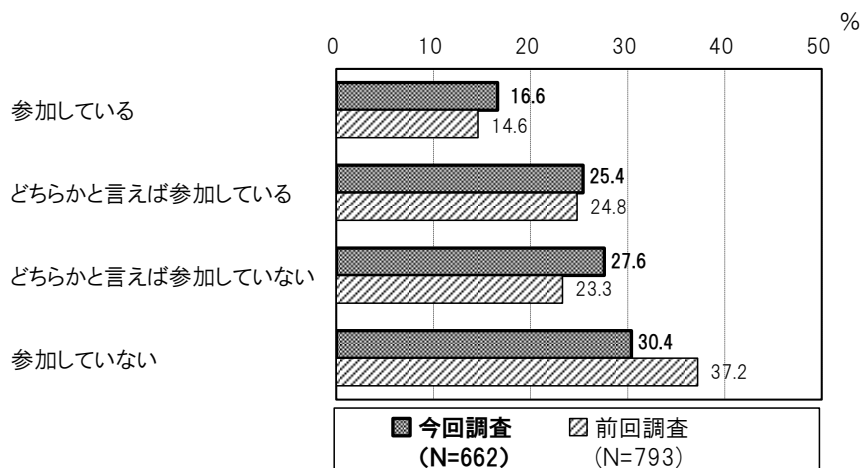
	1 位	2 位	3 位
全 体	趣味や学びなどの文化講座の充実 (42. 2)	体操や運動などの健康講座の充実 (28. 9)	図書館や郷土資料館の充実 (20. 7)
20 代～30 代	趣味や学びなどの文化講座の充実 (41. 5)	図書館や郷土資料館の充実 (26. 2)	体操や運動などの健康講座の充実 (24. 6) 体育館や運動場などの体育施設の充実 (24. 6)
40 代～50 代	趣味や学びなどの文化講座の充実 (42. 8)	体操や運動などの健康講座の充実 (28. 9)	図書館や郷土資料館の充実 (23. 3)
60 代 以 上	趣味や学びなどの文化講座の充実 (42. 5)	体操や運動などの健康講座の充実 (29. 2)	いきいき子ども学園の充実 (23. 2)

5. 住民参加について

問 17. あなたは、地域の行事やボランティアなど住民主体の活動に参加されていますか。

地域の行事やボランティアなどの活動参加状況は、「参加していない」が 30.4%、「どちらかと言えば参加していない」が 27.6%と、『参加していない』（「参加していない」と「どちらかと言えば参加していない」の合計）が 58.0%となっており、『参加している』（「参加している」と「どちらかと言えば参加している」の合計）の 42.0%を上回っています。

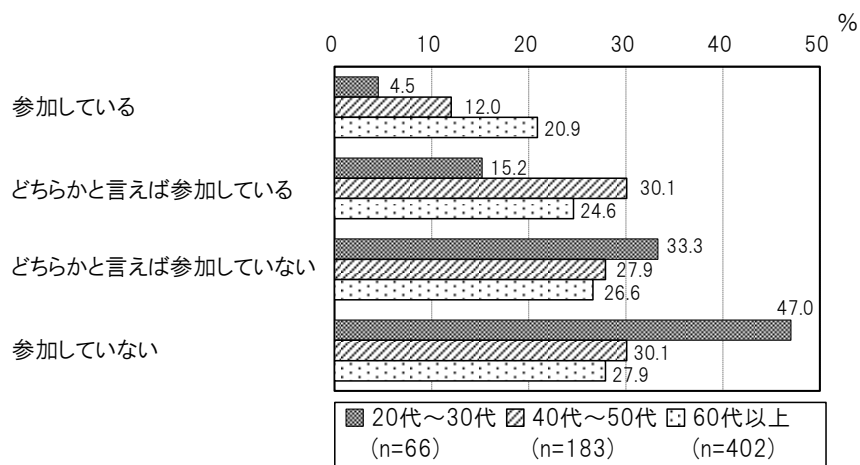
前回調査と比較すると、『参加している』は 2.6 ポイント増加し、『参加していない』は 2.5 ポイント減少しています。



	『参加している』	『参加していない』
今 回 調 査	42.0%	58.0%
前 回 調 査	39.4%	60.5%

問 17×年代別

地域の行事やボランティアなどの活動参加状況を年代別で見ると、すべての年代で「参加していない」が最も多くなっていますが、40代以上では、『参加している』が4割以上と、参加度が高くなっています。また、20代～30代は『参加していない』が80.3%と多くなっています。

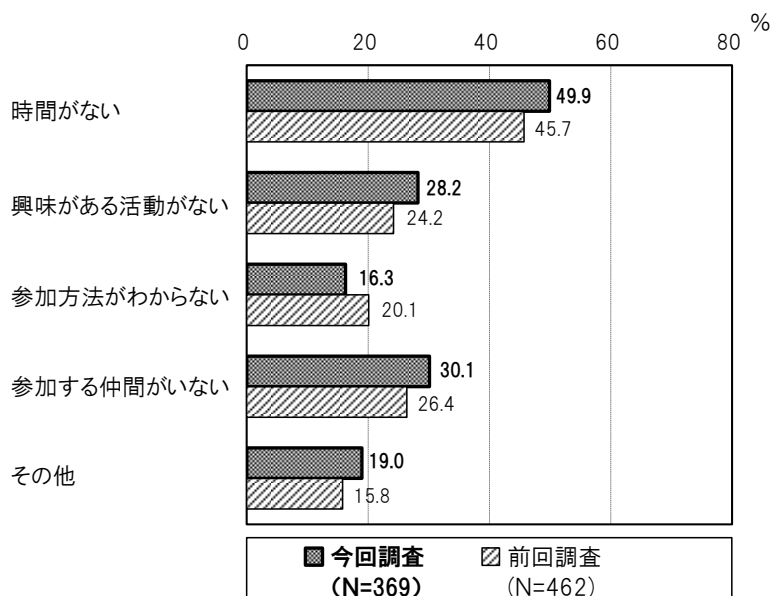


	『参加している』	『参加していない』
全 体	42.0%	58.0%
20代～30代	19.7%	80.3%
40代～50代	42.1%	58.0%
60代以上	45.5%	54.5%

問 18. 【問 17 で「3. どちらかと言えば参加していない」「4. 参加していない」と回答された方にお
うかがいします。】「どちらかと言えば参加していない」「参加していない」と回答された理由
は何ですか。（複数回答）

地区の行事やボランティアなどの活動に参加していない理由は、「時間がない」が 49.9%と最
も多く、次いで「参加する仲間がいない」が 30.1%、「興味がある活動がない」が 28.2%と、「時
間がない」という個人の都合だけでなく、興味を持てる活動内容や仲間づくりなどが求められ
ている傾向がうかがえます。

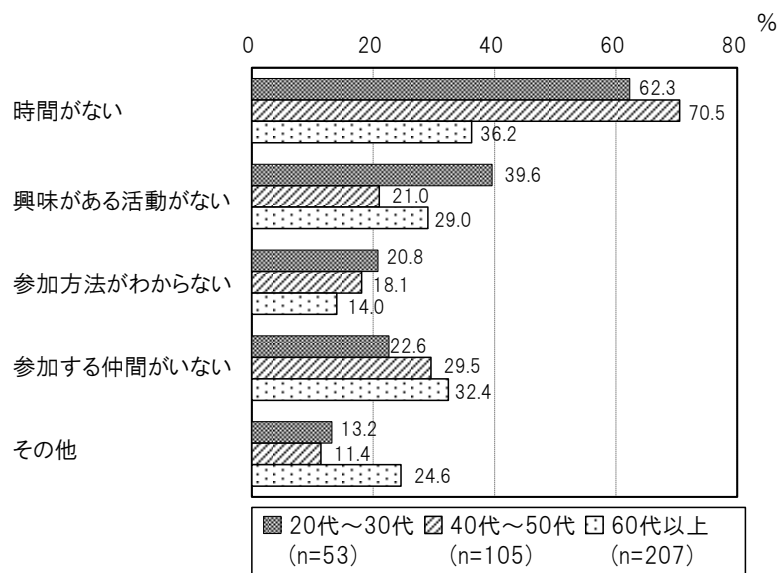
前回調査と比較すると、「参加方法がわからない」は少なくなっていますが、その他はいずれ
も多くなっています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	時間がない（49.9）	参加する仲間がいない（30.1）	興味がある活動がない（28.2）
前 回 調 査	時間がない（45.7）	参加する仲間がいない（26.4）	興味がある活動がない（24.2）

問 18×年代別

地区の行事やボランティアなどの活動に参加していない理由を年代別で見ると、すべての年代で「時間がない」が最も多くなっています。特に20代～30代、40代～50代で「時間がない」が6割～7割と多く、仕事などと活動の両立が難しい状況がうかがえます。また、40代以上では「参加する仲間がいない」も3割前後と多く、仲間づくりを行うことで参加度が高まることが期待できます。

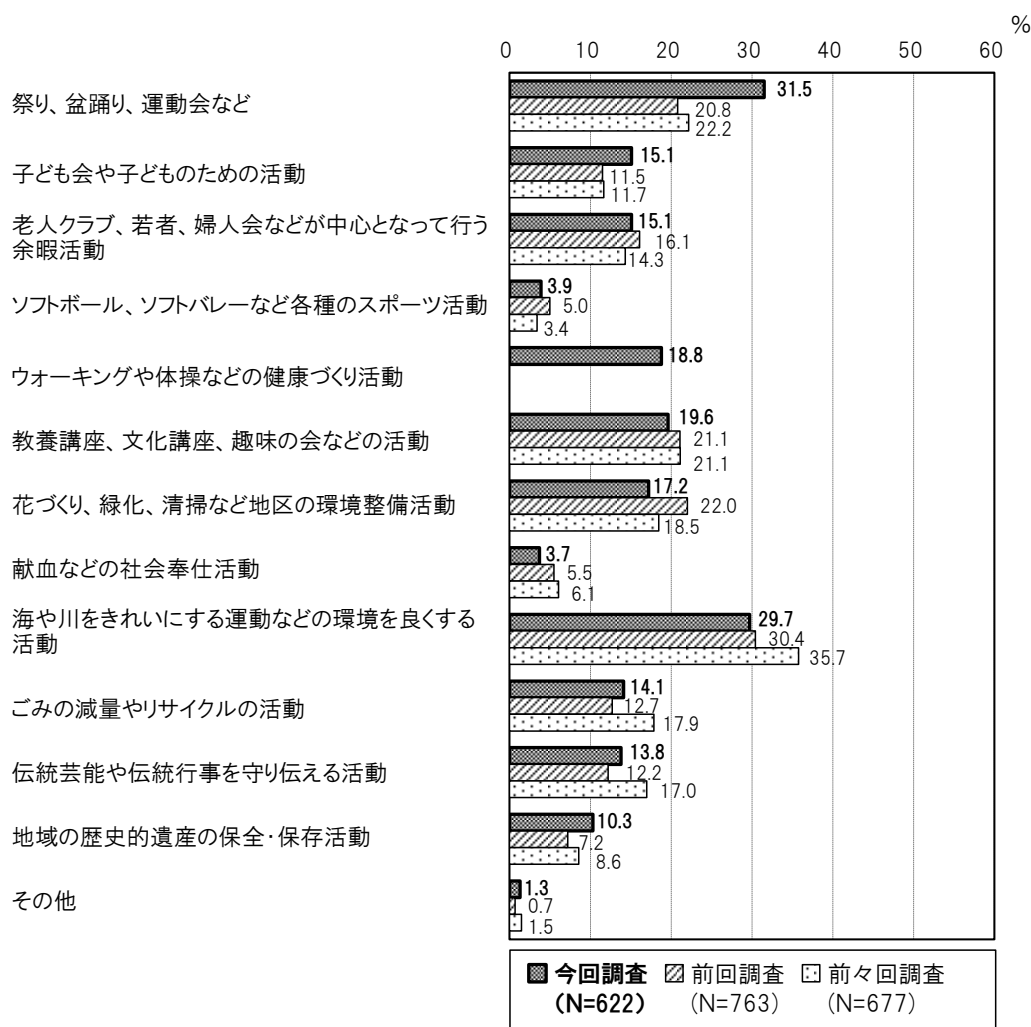


	1 位	2 位	3 位
全 体	時間がない (49. 9)	参加する仲間がいない (30. 1)	興味がある活動がない (28. 2)
20 代～30 代	時間がない (62. 3)	興味がある活動がない (39. 6)	参加する仲間がいない (22. 6)
40 代～50 代	時間がない (70. 5)	参加する仲間がいない (29. 5)	興味がある活動がない (21. 0)
60 代 以 上	時間がない (36. 2)	参加する仲間がいない (32. 4)	興味がある活動がない (29. 0)

問 19. あなたは、どのような活動を充実すべきだとお考えですか。（複数回答）

どのような活動を充実すべきかについては、「祭り、盆踊り、運動会など」が 31.5%と最も多く、次いで、「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」が 29.7%、「教養講座・文化講座・趣味の会などの活動」が 19.6%、「ウォーキングや体操などの健康づくり活動」が 18.8%、「花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動」が 17.2%となっています。環境や教育・文化に関する活動が求められている傾向がうかがえます。

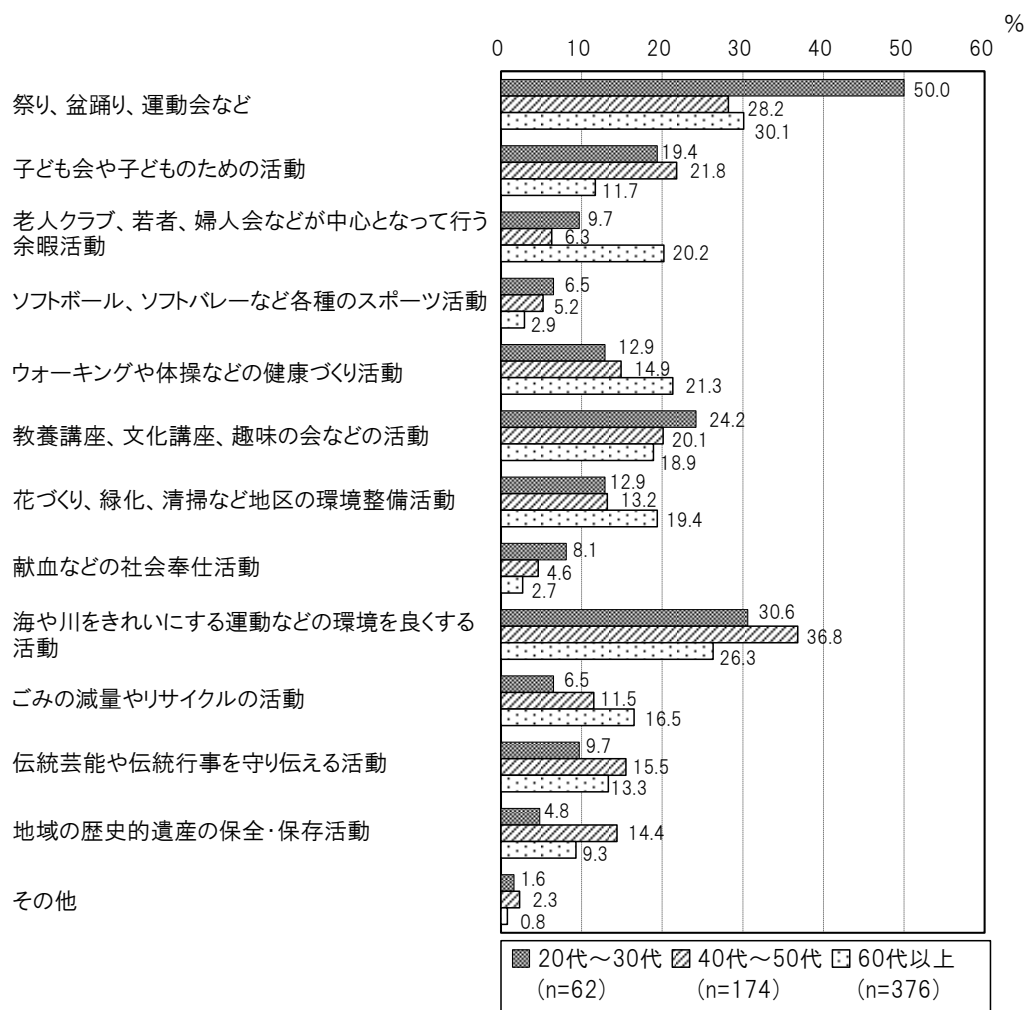
前回調査と比較すると、「祭り、盆踊り、運動会など」「子ども会や子どものための活動」「地域の歴史的遺産の保全・保存活動」は多くなっており、特に「祭り、盆踊り、運動会など」は 10 ポイント以上増加しています。一方、「花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動」は 5 ポイント近く減少しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	祭り、盆踊り、運動会など (31.5)	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (29.7)	教養講座、文化講座、趣味 の会などの活動 (19.6)
前 回 調 査	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (30.4)	冠婚葬祭などの生活改善 (28.0)	花づくり、緑化、清掃など 地区の環境整備活動 (22.0)
前々回調査	冠婚葬祭などの生活改善 (36.3)	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (35.7)	祭り、盆踊り、運動会など (22.2)

問 19×年代別

どのような活動を充実すべきかについて年代別で見ると、20代～30代では「祭り、盆踊り、運動会など」が50.0%に上り非常に多い一方、40代～50代では「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」が最も多く、違った傾向となっています。また、高齢になるほど「ウォーキングや体操などの健康づくり活動」「老人クラブ、若者、婦人会などが中心となつて行う余暇活動」「花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動」「ごみの減量やリサイクルの活動」の割合が多く、健康づくりや地域環境に対する活動意識が強いことがうかがえます。

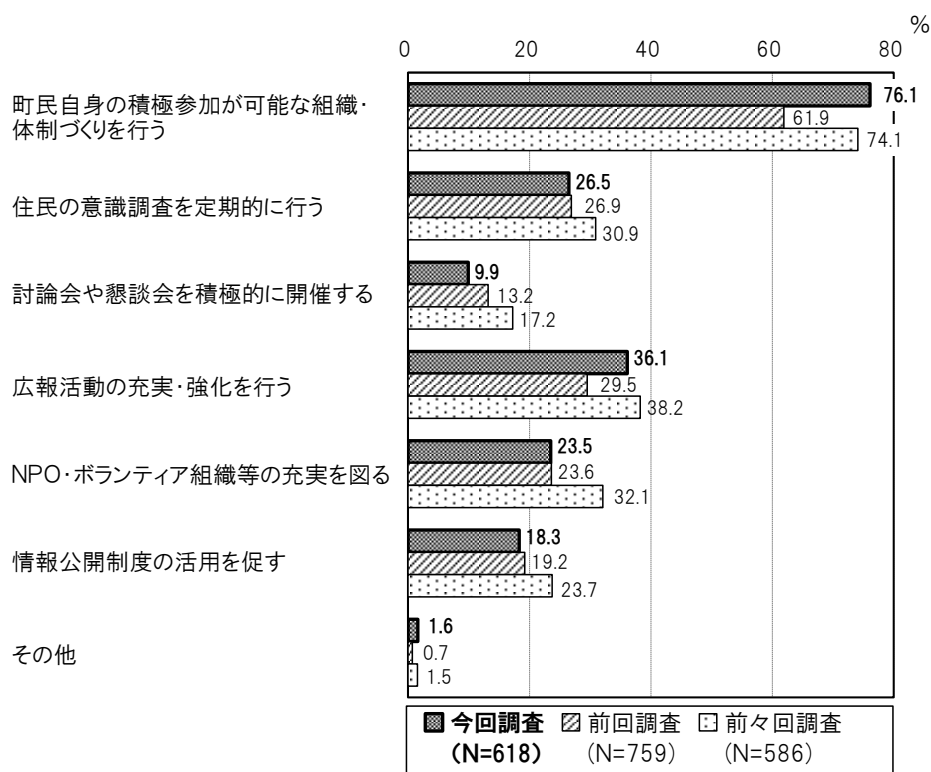


	1 位	2 位	3 位
全 体	祭り、盆踊り、運動会など (31.5)	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (29.7)	教養講座、文化講座、趣味 の会などの活動 (19.6)
20 代～30 代	祭り、盆踊り、運動会など (50.0)	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (30.6)	教養講座、文化講座、趣味 の会などの活動 (24.2)
40 代～50 代	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (36.8)	祭り、盆踊り、運動会など (28.2)	子ども会や子どものための 活動 (21.8)
60 代 以 上	祭り、盆踊り、運動会など (30.1)	海や川をきれいにする運動 などの環境を良くする活動 (26.3)	ウォーキングや体操などの 健康づくり活動 (21.3)

問 20. あなたは、まちづくりへの住民参加の方法としてどのようにすれば良いとお考えですか。（複数回答）

まちづくりへの住民参加の方法は、「町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う」が 76.1%と最も多く、次いで「広報活動の充実・強化を行う」が 36.1%、「住民の意識調査を定期的に行う」が 26.5%となっています。町民自身の積極的な参加を促すためにも、情報提供やニーズ把握が求められている傾向がうかがえます。

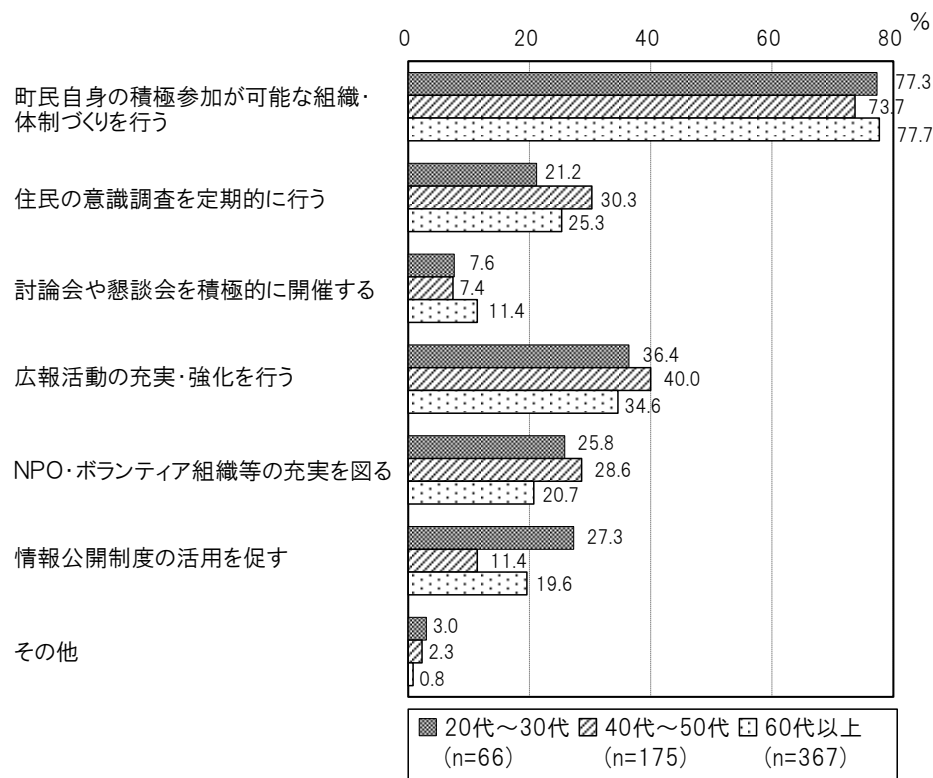
前回調査と比較すると、「町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う」が 15 ポイント近く大きく増加し、「広報活動の充実・強化を行う」も増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (76.1)	広報活動の充実・強化を行う (36.1)	住民の意識調査を定期的に行う (26.5)
前 回 調 査	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (61.9)	広報活動の充実・強化を行う (29.5)	住民の意識調査を定期的に行う (26.9)
前々回調査	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (74.1)	広報活動の充実・強化を行う (38.2)	NPO・ボランティア組織等の充実を図る (32.1)

問 20×年代別

まちづくりへの住民参加の方法を年代別で見ると、すべての年代で「町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う」が最も多く、「広報活動の充実・強化を行う」が続いています。20代～30代では「情報公開制度の活用を促す」が、40代以上では「住民の意識調査を定期的に行う」が3位になっています。



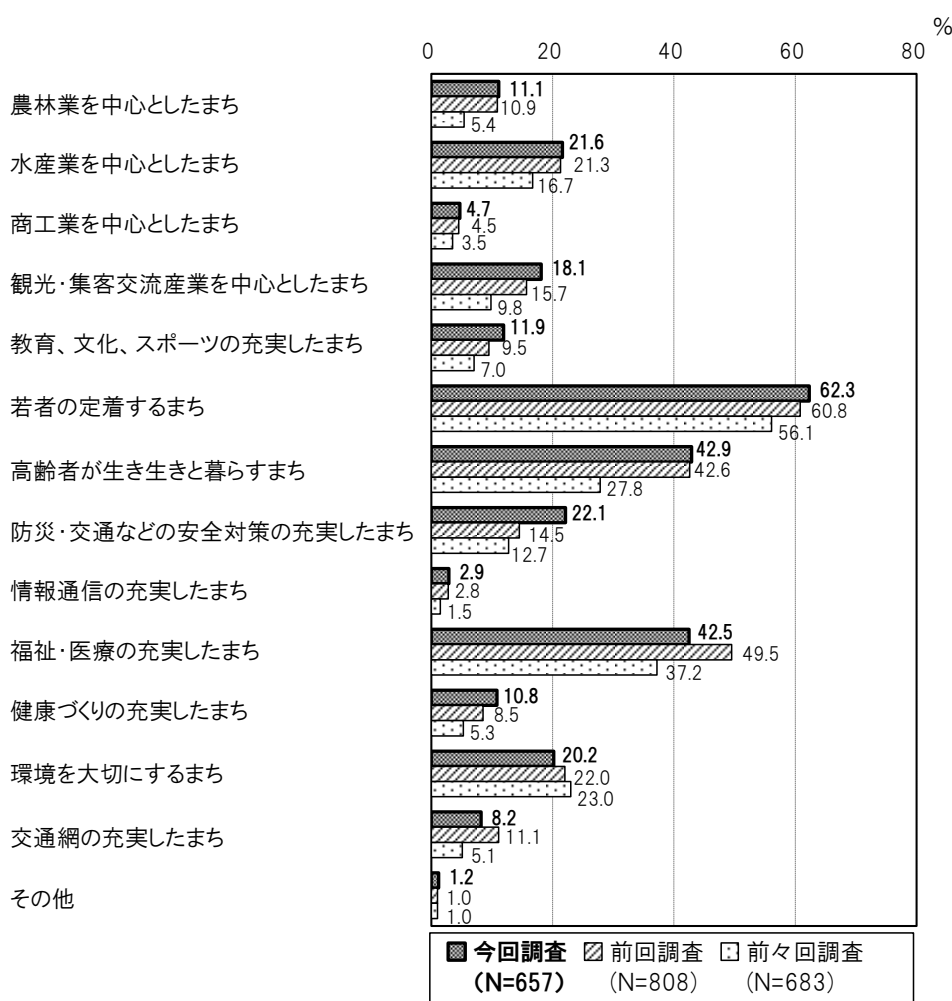
	1 位	2 位	3 位
全 体	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (76.1)	広報活動の充実・強化を行う (36.1)	住民の意識調査を定期的に行う (26.5)
20 代～30 代	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (77.3)	広報活動の充実・強化を行う (36.4)	情報公開制度の活用を促す (27.3)
40 代～50 代	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (73.7)	広報活動の充実・強化を行う (40.0)	住民の意識調査を定期的に行う (30.3)
60 代 以 上	町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う (77.7)	広報活動の充実・強化を行う (34.6)	住民の意識調査を定期的に行う (25.3)

6. 紀北町の将来像について

問 21. あなたは、紀北町が将来どのようなまちに発展してほしいと思いますか。（複数回答）

紀北町の将来像は、「若者の定着するまち」が 62.3%と最も多く、次いで、「高齢者が生き生きと暮らすまち」が 42.9%、「福祉・医療の充実したまち」が 42.5%となっています。少子高齢化を背景として、若者の定住促進と、住民が安全・安心に生きがいを持って暮らせるまちづくりが求められている傾向がうかがえます。

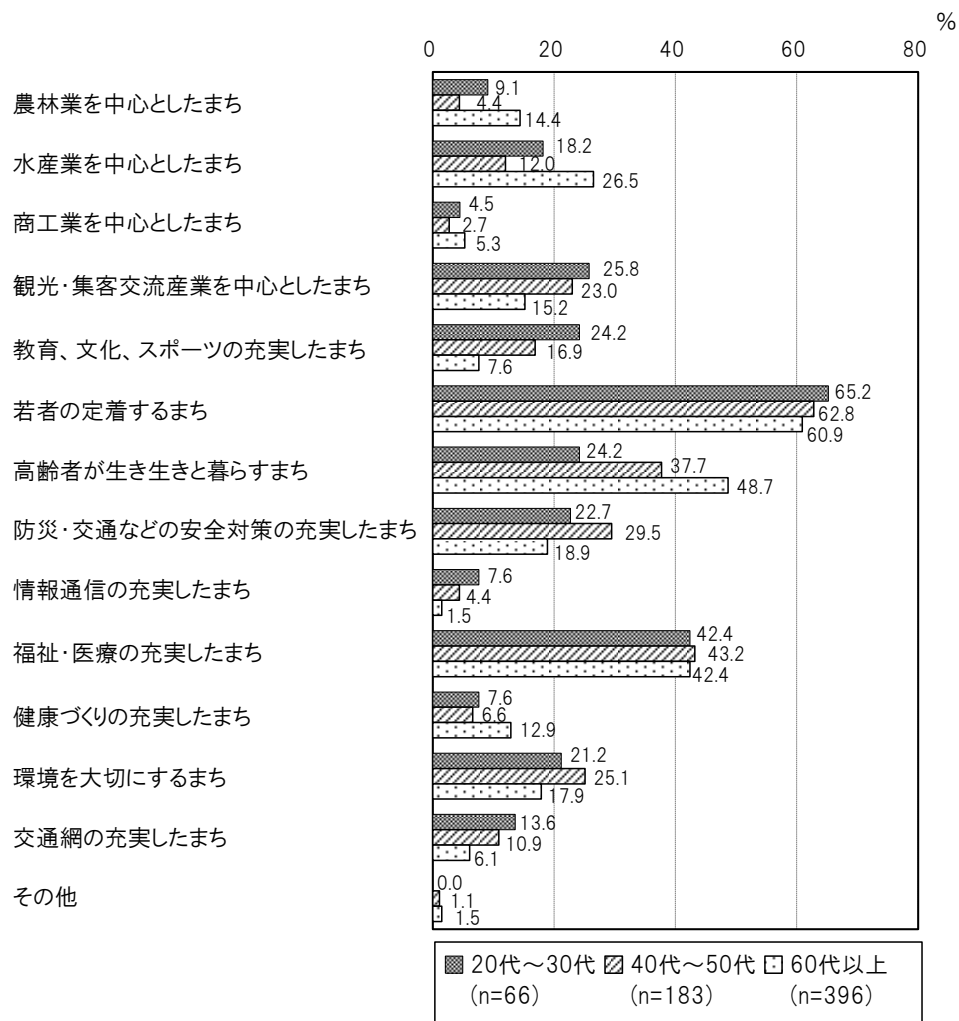
前回調査と比較すると、「若者の定着するまち」「福祉・医療の充実したまち」「高齢者が生き生きと暮らすまち」が上位となっていますが、「福祉・医療の充実したまち」が減少している一方で、「防災・交通などの安全対策の充実したまち」が増加しています。



	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	若者の定着するまち (62.3)	高齢者が生き生きと暮らすまち (42.9)	福祉・医療の充実したまち (42.5)
前 回 調 査	若者の定着するまち (60.8)	福祉・医療の充実したまち (49.5)	高齢者が生き生きと暮らすまち (42.6)
前々回調査	若者の定着するまち (56.1)	福祉・医療の充実したまち (37.2)	高齢者が生き生きと暮らすまち (27.8)

問 21×年代別

紀北町の将来像を年代別で見ると、すべての年代で「若者の定着するまち」が最も多く、次いで、20代～30代と40代～50代では「福祉・医療の充実したまち」が、60代以上では「高齢者が生き生きと暮らすまち」が多くなっています。また、年齢が下がるにつれて「観光・集客交流産業を中心としたまち」や「教育、文化、スポーツの充実したまち」は多くなる傾向にあります。若者の定住促進と合わせ、子どもから高齢者までのライフステージに応じた福祉・医療の充実が求められています。



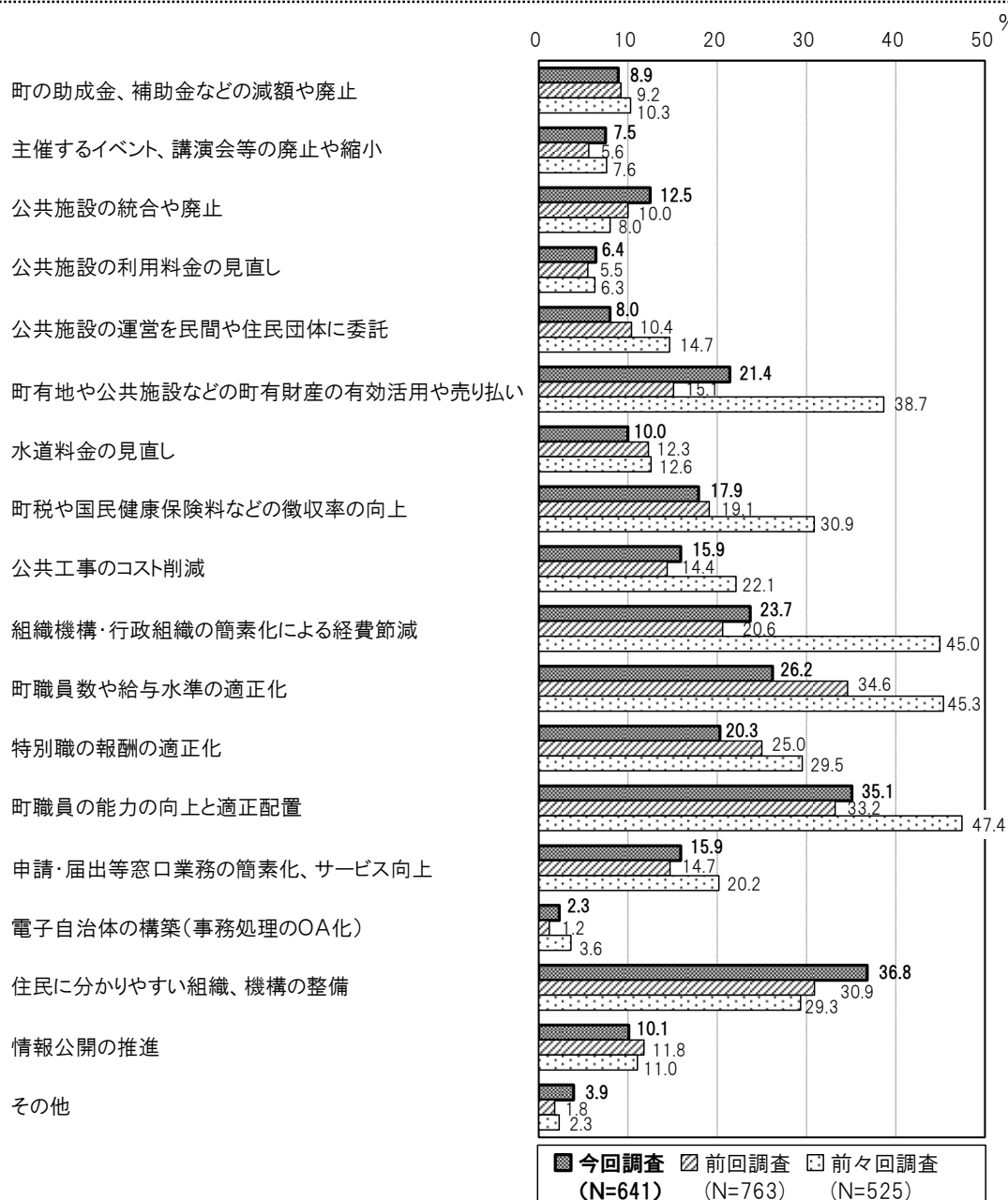
	1 位	2 位	3 位
全 体	若者の定着するまち (62.3)	高齢者が生き生きと暮らすまち (42.9)	福祉・医療の充実したまち (42.5)
20 代～30 代	若者の定着するまち (65.2)	福祉・医療の充実したまち (42.4)	観光・集客交流産業を中心としたまち (25.8)
40 代～50 代	若者の定着するまち (62.8)	福祉・医療の充実したまち (43.2)	高齢者が生き生きと暮らすまち (37.7)
60 代 以 上	若者の定着するまち (60.9)	高齢者が生き生きと暮らすまち (48.7)	福祉・医療の充実したまち (42.4)

7. 行政サービスについて

問 22. あなたは、今後の行政及び財政運営で改善すべき重点項目は何だと思いますか。（複数回答）

行政及び財政運営で改善すべきことは、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」が 36.8%と最も多く、次いで「町職員の能力の向上と適正配置」が 35.1%、「町職員数や給与水準の適正化」が 26.2%となっており、行政組織の分かりやすさや適正なあり方が求められています。

前回調査と比較すると、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」や「町有地や公共施設などの町有財産の有効活用や売り払い」が増加している一方、「町職員数や給与水準の適正化」や「特別職の報酬の適正化」については減少しています。

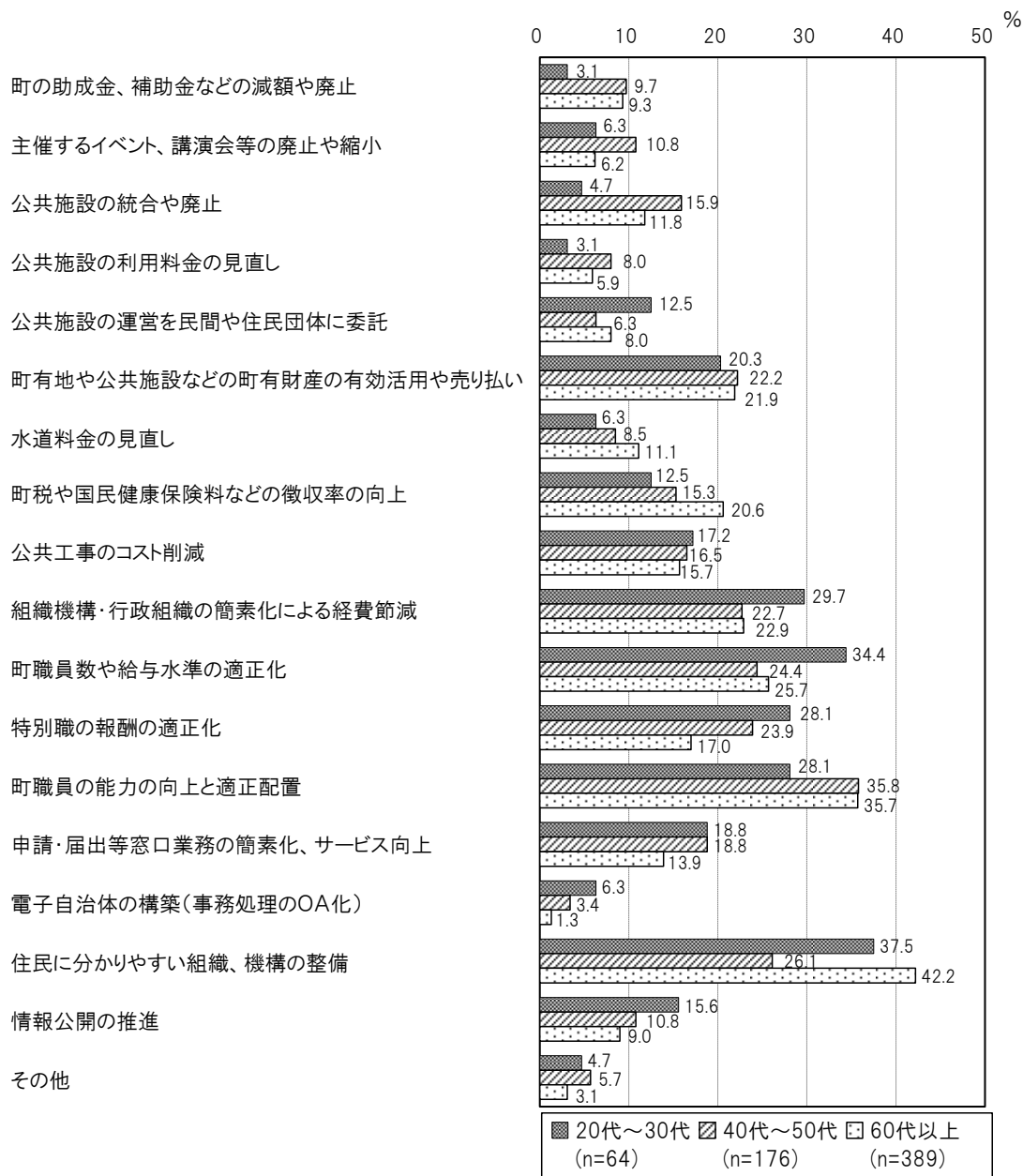


	1 位	2 位	3 位
今 回 調 査	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (36.8)	町職員の能力の向上と適正配置 (35.1)	町職員数や給与水準の適正化 (26.2)
前 回 調 査	町職員数や給与水準の適正化 (34.6)	町職員の能力の向上と適正配置 (33.2)	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (30.9)
前々回調査	町職員の能力の向上と適正配置 (47.4)	町職員数や給与水準の適正化 (45.3)	組織機構・行政組織の簡素化による経費節減 (45.0)

問 22×年代別

行政及び財政運営で改善すべきことを年代別で見ると、20代～30代と60代以上では「住民に分かりやすい組織、機構の整備」が最も多いのに対し、40代～50代では「町職員の能力の向上と適正配置」が最も多くなっています。

また、20代～30代では「町職員数や給与水準の適正化」や「組織機構・行政組織の簡素化による経費節減」が相対的に多いのに対し、40代～50代と60代以上では「公共施設の統合や廃止」や「町の助成金、補助金などの減額や廃止」が相対的に多くなっています。



	1 位	2 位	3 位
全 体	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (36.8)	町職員の能力の向上と適正配置 (35.1)	町職員数や給与水準の適正化 (26.2)
20 代～30 代	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (37.5)	町職員数や給与水準の適正化 (34.4)	組織機構・行政組織の簡素化による経費節減 (29.7)
40 代～50 代	町職員の能力の向上と適正配置 (35.8)	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (26.1)	町職員数や給与水準の適正化 (24.4)
60 代 以 上	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (42.2)	町職員の能力の向上と適正配置 (35.7)	町職員数や給与水準の適正化 (25.7)

Ⅲ. 結果の考察

1. 全体考察

【1】回答者について

回答者については、高齢化の進行を反映した結果となっており、この傾向が全体の回答結果にも影響しているものと思われます。また、家族構成のうち「1人世帯」と「夫婦のみ」が増えており、特に高齢者の「1人世帯」と「夫婦のみ」の割合が多いことは、今後のまちづくりの課題の1つであると言えます。

【2】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「上水道」や「自然環境」、「ごみ収集・処理」への評価が高いものの、「交通機関」、「労働環境」、「消防・防災」などの満足度は低くなっています。

重要度では「消防・防災」「保健医療」「自然環境」が上位となっており、生活の安全・安心や紀北町の魅力の1つである「自然環境」が重要であるとの認識がうかがえます。

前回調査との比較では、「保健医療」や「福祉」、「道路整備」「労働環境」などの満足度が向上したものの、「消防・防災」や「コミュニティ施設」、「広報」などでは低下しています。重要度でも「消防・防災」や「保健医療」は引き続き上位となっており、これらの取り組みは、継続して力を入れていく必要があります。

【3】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「農林業のまち」などと合わせ、「人情味や連帯感のあるまち」が上位の項目となっており、都市部では少ない傾向であると言えます。しかし、40代～50代では『人情味や連帯感』とともに「故郷として自慢できるまち」の割合が相対的に少なく、住み続けられるまち、若者が戻りたくなるまちに向けての課題であると言えます。

約6割が紀北町は『住みやすい』としていますが、『住み続けたくない』人に限ると『住みにくい』が約6割を占めます。住みやすさとしては、自然環境や住みなれた土地、生活環境という要素が強く、住みにくさは、自然災害への不安、職場、買物の不便さ、医療、交通等がその理由となっています。

全体を通じて、雇用・就労へのニーズとともに、生活の安全・安心へのニーズが強く、現在の社会経済状況と大規模自然災害等に対する将来の不安を反映した結果となっています。地域の防災力を高めるとともに、地域資源を活かしながら地域産業のあり方を検討していく必要があります。

今後の定住意向については、7割弱が『住み続けたい』と回答していますが、この結果は、今後移動する可能性が少ない高齢者が多いということも考慮する必要があります。一方で、「わからない」が3割弱と多くなっており、特に20代～30代の若い世代での割合が多いことから、子どもの進学や就職の不安等が影響していることがうかがえます。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致や若者定住対策などと合わせ、医療や福祉などの割合も多くなっています。

【4】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、農林業、水産業などの基幹産業に加え、これらと連携した産業や観光・集客交流産業の充実を図るべきという意見が多くなっており、観光振興については、体験型観光に力を入れるべきであるという結果となっています。

保健・医療分野については、救急医療体制の整備・充実が求められており、近隣市との連携強化や、交通面の改善等によって対応していくことが必要です。高齢者福祉については、介護施設の整備や買い物支援のニーズが強くなっています。これらは特に高齢層で割合が多くなっており、今後のさらなる高齢化に向けた準備が必要です。

環境分野については、町民・事業者・町の自主的な取り組みが最も多くなっており、それぞれの立場からできる環境保全の取り組みを促進していく必要があります。

少子化対策については、若者の就労や仕事と家庭の両立など、経済的な安定や共働きへの支援が求められています。

消防・防災体制については、地震・津波対策の充実が最も多くなっており、災害時要援護者対策や情報連絡体制など地域のつながりによるソフト施策とともに、防災対策の充実が求められています。

子どもの健全育成については、学力の向上よりも、自然や歴史といった郷土へのかかわりや子どもの心身の健康などのニーズが強くなっており、特に若い世代ではこうした傾向が顕著となっています。

生涯学習については、講座の充実や環境整備などが求められています。

【5】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は半数に満たず、特に若い世代での参加が少なくなっています。参加していない理由として「時間がない」と合わせ、「参加する仲間がない」「興味がある活動がない」も3割前後となっており、参加しやすい工夫をしていくことで参加を促進することが可能であると考えられます。充実すべき活動としては、祭り、盆踊り、運動会や海や川などの環境を良くする活動などが上位となっています。

また、住民参加については、参加しやすい組織や体制づくりが求められています。

【6】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」が最も多く、「福祉・医療の充実したまち」「高齢者が生き生きと暮らすまち」など、保健福祉分野の取り組みと合わせ、定住促進について重視していく必要があります。

【7】行政サービスについて

行財政運営については、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」や「町職員の能力の向上と適正配置」、「町職員定数や給与水準の適正化」などが上位の項目となっており、行政組織の分かりやすさや適正なあり方が求められています。

2. 年代別傾向の考察

アンケート結果の分析において、それぞれの世代の傾向をまとめます。

◇20代～30代

【2】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「自然環境」や「ごみ収集・処理」、「上水道」への評価が高いものの、「交通機関」や「労働環境」、「消防・防災」などの満足度は低くなっています。

重要度では「消防・防災」や「労働環境」、「保健医療」、「買物利便性」が上位となっており、安全・安心や生活の基盤となる労働や生活利便性が重要であるとの認識がうかがえます。

【3】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「人情味や連帯感のあるまち」などが上位の項目となっており、自然環境や産業のまちとしてのイメージを持っていることがうかがえます。

『住みやすい』と感じている割合は他の年代と比べて少なく、『住みにくい』理由として、「良い職場が少ない」「自然災害が心配」「買物がしにくい」などの割合が多いことから、就労の場とより便利な生活を求める傾向がうかがえます。

今後の定住意向については、半数近くが『住み続けたい』と回答していますが、「わからない」も半数弱と他の年代よりも多く、このまま紀北町に住み続けることに対する不安がうかがえます。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致や救急医療体制などと合わせ、他の世代に比べ防災対策の割合も多くなっています。

【4】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、農林水産業の充実とともに、観光・集客交流産業の充実や商業・サービス業の充実を図るべきという意見が多くなっており、観光振興については、体験型観光や地域ブランド、観光イベントの充実に力を入れるべきであるという結果となっています。

保健・医療分野については、救急医療体制の整備・充実が求められており、近隣市との連携強化や、交通面の改善等により、対応していくことが必要です。高齢者福祉については、生きがい対策や移動手段の確保、医療制度の充実、集える場づくりなどの割合が他の年代と比べて多くなっています。

環境分野については、省エネルギーの推進・新エネルギーの導入が最も多く、他の年代に比べて非常に多くなっています。

少子化対策については、若者の就労や仕事と家庭の両立、税金・給付金など、経済的な安定や共働きの支援が求められています。

消防・防災体制については、地震・津波対策をはじめとする自然災害対策の充実が他の年代に比べて多くなっています。

子どもの健全育成については、自然の中で遊び学べる機会の充実と学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実が他の年代に比べて多くなっており、郷土へのかかわりの一方で子どもの進学、就職に不安を感じている傾向がうかがえます。

生涯学習については、講座の充実とともに図書館・郷土資料館や体育施設の充実といった環境整備が求められています。

【5】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は、他の年代に比べて少なく、参加していない理由として「興味がある活動がない」や「参加方法がわからない」が他の年代と比べて多くなっています。充実すべき活動としては、祭り、盆踊り、運動会などが他の年代と比べて特になくなっています。

また、住民参加については、参加しやすい組織や体制づくりと合わせ、情報公開制度の活用促進が求められています。

【6】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」や「福祉・医療の充実したまち」とともに、「観光・集客交流産業を中心としたまち」や「教育、文化、スポーツの充実したまち」などについても重視されていると言えます。

【7】行政サービスについて

行財政運営については、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」や「町職員数や給与水準の適正化」、「組織機構・行政組織の簡素化による経費節減」などが上位の項目となっており、行政組織の分かりやすさや簡素さ、適正なあり方が求められています。

主な傾向

- まちに人情味や連帯感を感じ、誇りに思っているが、他の年代に比べると住みにくいと感じている。
- 自然や環境への興味・関心が高く、こうした部分に紀北町の魅力を感じているものの、生活利便性や労働環境の面では他の年代よりも不満を感じている。
- 近所づきあいや地域活動への参加など、地域とのつながりが他の年代よりも消極的な傾向がある。
- 企業誘致や救急医療体制などと合わせ、他の世代に比べ防災対策に対するニーズが高い。
- イベントや地域ブランドを活用した観光・集客交流産業への期待が大きく、商業・サービス業への期待が他の年代よりも大きい。
- 救急医療体制や健康診断など、出産・子育てに関する医療体制の充実を求めている。
- 高齢者には、施設サービスの充実とともに、移動支援や生きがい対策の充実を求める割合が高い。
- 消防・防災体制では、他の年代よりも地震・津波対策を求める割合が高い。
- 子どもの健全育成では、他の年代よりも、学力向上や自然の中で学べる機会を求める割合が高い。
- 生涯学習では、他の年代よりも施設の充実を求める割合が高い。
- 祭りや教養講座・文化講座などの活動への関心が高い。
- 環境施策では、省エネルギーの推進や新エネルギーの導入を求める割合が高い。
- 情報公開制度の活用を求めている。
- 希望する紀北町の将来像は、若者が定着し、福祉・医療が充実した、観光・集客交流産業を中心としたまちづくりが求められている。

◇40代～50代

【2】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「自然環境」や「上水道」、「ごみ収集・処理」への評価が高いものの、「交通機関」や「労働環境」、「消防・防災」などの満足度は低くなっています。

重要度では「消防・防災」や「保健医療」、「自然環境」が上位となっており、安全・安心や環境面が重要であるとの認識がうかがえます。

【3】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「農林業のまち」などが上位の項目となっており、自然環境や産業のまちとしてのイメージを持っていることがうかがえます。

『住みやすい』と感じている割合は半数を超えており、『住みやすい』理由として、「自然が豊かである」の割合が多くなっています。『住みにくい』理由は、「通勤通学に不便」「良い職場が少ない」が多くなっています。

今後の定住意向については、「わからない」が4割近くあり、このまま紀北町に住み続けることに対して不安を持っていることがうかがえます。

今後力を入れてほしいと思う施策については、「救急医療体制の充実」が他の年代に比べて多くなっています。

【4】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、観光・集客交流産業や農林水産業と結びついた産業の充実を図るべきという意見が多くなっており、観光振興については、体験型観光や地域ブランド、宿泊施設の充実に力を入れるべきであるという結果となっています。

保健・医療分野については、救急医療体制の整備・充実と合わせ、生活習慣病の健診、指導が他の年代と比べて多く、体制面の強化が必要です。高齢者福祉については、介護施設の整備や一人暮らし高齢者への支援、在宅介護サービスの充実などの割合が他の年代と比べて多く、介護する側の年代の意見として、これからのまちづくりに反映する必要があります。

環境分野については、河川や池・沼などの水辺の保全が最も多く、豊かな水辺環境への愛着がうかがえます。

少子化対策については、若者の就労が群を抜いて多くなっており、就労を迎える子どもを持つ世代であることを反映しています。

消防・防災体制については、自然災害対策の充実とともに、災害時要援護者の対策や情報連絡体制などとともに、消防署による消防や救急体制の充実についても求められています。

子どもの健全育成については、心の教育及び人権教育の充実と教育相談、子育てに関する悩み相談の充実が他の年代と比べて多くなっています。

生涯学習については、講座の充実とともに施設などの環境整備やスポーツ団体・スポーツ少年団への支援が求められています。

【5】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は、4割以上となっていますが、参加していない理由として「時間がない」が約7割に上っています。充実すべき活動としては、海や川など

の環境を良くする活動や祭り、盆踊り、運動会など、子ども会や子どものための活動などが上位となっています。

また、住民参加については、「広報活動の充実・強化を行う」や「NPO・ボランティア組織等の充実を図る」、「住民の意識調査を定期的に行う」が他の年代と比べて多くなっています。

【6】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」が最も多く、「福祉・医療の充実したまち」や「高齢者が生き生きと暮らすまち」など、保健福祉分野の取り組みと合わせ、定住促進についても重視していく必要があります。

【7】行政サービスについて

行財政運営については、「町職員の能力の向上と適正配置」や「住民に分かりやすい組織、機構の整備」、「町職員数や給与水準の適正化」が上位を占めており、適正なあり方が求められています。

主な傾向

- 紀北町を自然が豊かな農林水産業のまちとして考えている。
- 交通機関や職場や、消防防災等に不満を感じており、定住するかどうか決めかねている人が4割いる。
- 観光振興のために、他の年代より観光ルートの開発や宿泊施設の充実などを求めている。
- 生活習慣病予防への関心が他の年代よりも高く健康意識が高いと思われる。
- 高齢者施策では、他の年代より介護施設の充実を求める割合が高い。
- 防災面では、自然災害対策の充実とともに、災害時要援護者の対策や情報連絡体制など、地域のつながりによる防災対策が求められている。
- 教育については、他の年代よりも心の教育や教育相談を求める割合が高い。
- 生涯学習については、講座の充実や環境整備を求めている。
- 地域活動への参加割合は、60代以上とほぼ変わらないが、「時間がない」割合が他の年代よりも高い。
- 環境保全活動や子どものための活動、伝統文化の保存などへの関心が高い。
- 希望する紀北町の将来像は、若者が定着し、福祉・医療の充実した、高齢者が生き生きと暮らすまちづくりが求められている。

◇60 代以上

【2】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「上水道」や「ごみ収集・処理」、「自然環境」への評価が高いものの、「交通機関」や「労働環境」、「消防・防災」などの満足度は低くなっています。

重要度では「消防・防災」や「ごみ収集・処理」、「自然環境」、「保健医療」が上位となっており、生活の安全・安心や生活環境面が重要であるとの認識がうかがえます。

【3】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「農林業のまち」が上位の項目となっており、自然環境や産業のまちとしてのイメージを持っていることがうかがえます。

7割弱が紀北町は『住みやすい』としており、住みなれた土地であることと合わせ、生活環境面に満足している状況がうかがえます。

今後の定住意向については、7割強が『住み続けたい』と回答していますが、今後移動する可能性が少ない高齢者ということも考慮する必要があります。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致や若者定住対策などと合わせ、「高齢者福祉対策の充実」が他の年代と比べて多くなっています。

【4】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、農林業、水産業などだけではなく、これらが連携した産業が求められているものの、観光・集客交流産業については、他の年代と比べ少なくなっています。観光振興については、体験型観光の充実が他の世代に比べて多くなっています。

保健・医療分野については、救急医療体制の整備・充実が最も多いものの、他の年代よりも少なくなっています。高齢者福祉については、買い物支援をはじめとする生活支援へのニーズが特に多くなっています。

環境分野については、町民・事業者・町の自主的な取り組みが最も多くなっており、それぞれの立場からできる環境保全の取り組みを促進していく必要があります。

少子化対策については、若者の就労や仕事と家庭の両立、安心して遊べる場づくりが求められています。

消防・防災体制については、災害時要援護者への支援が他の年代と比べて多くなっており、災害時の不安を反映した結果となっています。

子どもの健全育成については、特に郷土愛を育む教育の割合が多くなっています。

生涯学習については、講座の充実とともに、いきいき子ども学園の充実が他の年代と比べて多くなっています。

【5】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は、4割以上となっていますが、参加していない理由として「時間がない」と合わせ、「参加する仲間がいない」も3割以上となっています。充実すべき活動としては、健康づくり活動や余暇活動が他の年代と比べて多くなっています。

また、住民参加については、全体の傾向と同じく、「町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくり」が多く、広報活動の充実・強化や住民意識調査についても多くなっています。

【6】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」が最も多いものの、「高齢者が生き生きと暮らすまち」や「福祉・医療の充実したまち」も差がなく、定住促進を図りながら、保健福祉分野の取り組みにより、生き生きと暮らせるまちづくりを重視していく必要があります。

【7】行政サービスについて

行財政運営については、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」や「町職員の能力の向上と適正配置」が特に多くなっており、行政組織の分かりやすさや適正なあり方が求められています。

主な傾向

- まちに人情味や連帯感を感じ、誇りに思っており、他の年代よりも住みやすいと感じている。
- 生活環境の良さを感じているが、買い物の不便や災害への不安を感じている。
- 保健医療や福祉について、他の年代よりも良い評価をしている。
- 定住意向は高いものの、就職等での移動の可能性がないこと、持ち家や家業があることからの定住が大半であると思われる。
- 農林水産業を基幹とした産業振興を求める割合が高く、観光では体験型観光の充実を求めている。
- 他の年代よりも健康づくり事業や健康相談、健康教育など、保健分野へのニーズが高い。
- 買い物支援へのニーズが特に高い。
- 環境については、生活排水集合処理施設の整備などの生活環境面のハード整備と、町民・事業者・町の自主的な取り組みの両面を求める割合が高い。
- 災害時要援護者の支援や地域の防災組織へのニーズが高い。
- 子どもの健全育成では、女性が働きやすい環境の整備や子育てを支援する生活環境の整備、子どもの安全・安心の確保などが他の年代よりも割合が高い。
- 教育には、郷土愛や心身の健康を求める割合が高い。
- 健康講座の充実やいきいき子ども学園の充実を求める割合が高い。
- 地域活動への参加割合は他の年代よりも高い。
- 地域活動では、老人クラブなどの余暇活動や健康づくり活動、環境整備活動などを求める割合が高い。
- 希望する紀北町の将来像は、若者が定着し、高齢者が生き生きと暮らす、福祉・医療の充実したまちづくりが求められている。

IV. 調査票

紀北町まちづくりアンケート調査 ご協力をお願い

平素は、町行政にご協力を賜り誠にありがとうございます。

現在、紀北町では平成 24 年に策定した第 1 次総合計画後期基本計画（目標年次平成 28 年度）に基づき、「自然の鼓動を聞き 民が集い、にぎわう やすらぎのあるまち」を目指し、まちづくりを進めています。

この度、第 1 次総合計画が平成 28 年度で終了することから、これまでの紀北町のまちづくりについて住民の皆様のご意見をお伺いし、第 2 次総合計画(平成 29～38 年度)の策定に活かしたいと考えています。

この調査票は、紀北町にお住まいの 20 歳以上の方から無作為抽出による 2,000 人に配布させていただいております。

回答は計画の基礎資料として、今後の町政に反映させていただき、それ以外の目的では使用しませんので、ご迷惑のかかることはございません。

お忙しいところ、お手数をおかけし恐縮ですが、これからの紀北町のまちづくりに関する本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

平成 28 年 1 月
紀北町長 尾上 壽一

ご記入上の注意

- ・ご回答は無記名でお願いします。
- ・回答は、あてはまるものに○印をつけていただくものがほとんどです。質問により、1 つのみ回答していただくものと、複数に回答していただくものがありますので、質問の説明に従ってお答えください。
- ・その他を選んだ場合は、（ ）内に具体的に記入してください。
- ・ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**1月29日(金)までにご返信くださいますよう、よろしくお願いいたします。(切手は不要です)**

【調査に関するお問い合わせ先】

紀北町役場 企画課

電話：0597-46-3113 / FAX：0597-47-5908

はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

次の【1】～【6】の各項目別に該当する番号を1つだけ選んで○印をしてください。

【1】あなたの性別はどちらですか

1. 男性

2. 女性

【2】あなたの年齢はどれにあたりますか

1. 20 歳代

3. 40 歳代

5. 60 歳代

7. 80 歳以上

2. 30 歳代

4. 50 歳代

6. 70 歳代

【3】あなたの職業はどれにあたりますか

1. 農業

6. パート、アルバイト、非常勤、内職など

2. 林業

7. 家事専業

3. 水産業

8. 無職（年金等生活者含む）

4. 自営業（商店、企業経営など）

9. その他（ ）

5. 常勤の勤め人（会社員など）

【4】あなたの家の家族構成はどれにあたりますか

1. 1人世帯

5. 兄弟や親戚と同居

2. 夫婦のみ

6. 友人や知人と同居

3. 2世代家族（親と子）

7. その他（ ）

4. 3世代家族（親と子と孫）

【5】あなたがお住まいの地区はどこにあたりますか

1. 三浦・道瀬・古里・海野地区

5. 相賀・小山浦・便ノ山・小浦地区

2. 長島地区

6. 矢口浦・引本浦地区

3. 東長島地区

7. 白浦・島勝浦地区

4. 島原・大原・十須地区

8. 馬瀬・河内・上里・中里・船津地区

【6】あなたは、現在の場所にお住まいになって何年になりますか

1. 5 年未満

3. 10 年以上～20 年未満

2. 5 年以上～10 年未満

4. 20 年以上

紀北町に関する各項目についておたずねします。

【各項目について、①と②の欄ごとに数字(1～5)を○で囲んでください】

① あなたは紀北町における(1)～(25)の項目の状況について、どの程度満足していますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

② あなたは紀北町における(1)～(25)の項目について、どの程度重視していますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

項 目	①満足度						②重要度				
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である		重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
(1)火災や地震など災害からの安全性	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(2)防犯、交通安全施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(3)騒音・振動・悪臭等の環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(4)ごみの収集・処理の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(5)上水道の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(6)下水道の整備状況(合併浄化槽を含む)	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(7)墓地や火葬場の管理・運営状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(8)町営住宅の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(9)公園・緑地・広場の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(10)道路の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(11)公共交通の便利さ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(12)インターネット環境など情報通信体系の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(13)自然環境の豊かさ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

項 目	①満足度						②重要度				
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である		重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
(14)保健・医療サービスや施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(15)福祉サービスや施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(16)保育・子育て環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(17)日常の買物の便利さ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(18)働きがいのある職場	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(19)生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(20)スポーツ活動や施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(21)子どもの教育環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(22)人権尊重の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(23)人情味や地域の連帯感	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(24)公民館や集会所などの整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
(25)行政情報や催事情報の提供状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

あなたのお考えについておたずねします。

問1. あなたは、紀北町のイメージをどのように思っていますか。次の中から3つ選んでください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 農林業のまち | 9. 人情味や連帯感のあるまち |
| 2. 水産業のまち | 10. 若者にとって魅力のあるまち |
| 3. 商工業のまち | 11. 高齢者の暮らしやすいまち |
| 4. 観光・集客交流産業のまち | 12. 自然が豊かで美しいまち |
| 5. 保健・医療の充実したまち | 13. 生活環境がよく整備されたまち |
| 6. 福祉の充実したまち | 14. 故郷として自慢のできるまち |
| 7. 教育の充実したまち | 15. 歴史や文化のあるまち |
| 8. スポーツの盛んなまち | 16. その他 () |

問2. あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか、住みにくいまちですか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|
| 1. 住みやすい | } 問3へ | 4. どちらかと言えば住みにくい | } 問4へ |
| 2. どちらかと言えば住みやすい | | 5. 住みにくい | |
| 3. どちらとも言えない | } 問5へ | | |

問3. 問2で「1. 住みやすい」「2. どちらかと言えば住みやすい」と回答された方は、その理由を次の中から3つ選んでください。(回答後は問5へお進み下さい。)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 道路事情が良い | 9. 住宅事情が良い |
| 2. ごみ処理や水道など生活環境が良い | 10. 自然災害の心配が少ない |
| 3. 通勤通学に便利 | 11. 近所づきあいがしやすい |
| 4. 自然が豊かである | 12. 物価が比較的安い |
| 5. 買い物がしやすい | 13. 住みなれた土地で愛着がある |
| 6. 公共施設や医療機関が整っている | 14. 子どもの教育環境が良い |
| 7. 娯楽やスポーツ・文化活動の機会が多い | 15. その他 () |
| 8. 良い職場がある | |

問4. 問2で「4. どちらかと言えば住みにくい」「5. 住みにくい」と回答された方は、その理由を次の中から3つ選んでください。(回答後は問5へお進み下さい。)

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 道路事情が悪い | 9. 住宅事情が悪い |
| 2. ごみ処理や水道など生活環境が悪い | 10. 自然災害が心配 |
| 3. 通勤通学に不便 | 11. 近所づきあいが難しい |
| 4. 自然環境が悪化しつつある | 12. 物価が高い |
| 5. 買い物がしにくい | 13. 土地柄が好きでない |
| 6. 公共施設や医療機関が整っていない | 14. 子どもの教育環境が悪い |
| 7. 娯楽やスポーツ・文化活動の機会が少ない | 15. その他 () |
| 8. 良い職場が少ない | |

問5. 紀北町が三重県下の他の市町と比べ、遅れている分野があるとすれば、どういう面だと思いますか。次の中から2つ選んでください。

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 教育・文化 | 6. 防 災 |
| 2. スポーツ・レクリエーション | 7. 情報通信 |
| 3. 医療・保健・福祉 | 8. 働く場 |
| 4. 交通・道路 | 9. その他 () |
| 5. 生活環境 | |

問6. 今後も紀北町に住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問7. 今後、紀北町に対して特に力を入れてほしいと思う施策はどれですか。次の中から3つ選んでください。

1. 農林業の振興
2. 水産業の振興
3. 商工業の振興
4. 観光業や集客交流事業の充実
5. 歴史・文化の保存・整備
6. 働く場の確保につながる企業誘致
7. 身近な生活道路の整備
8. 国道・高速道路など幹線道路の整備
9. 鉄道や特急バスの増便
10. 町営バスの運行
11. 防災対策の強化
12. 交通安全・防犯等の対策強化
13. 国際交流の推進
14. 公園・緑地・子どもの遊び場などの整備
15. 町営住宅の整備
16. 下水道や合併処理浄化槽の整備
17. 保育所の充実
18. 幼稚園・小学校・中学校教育の充実及び施設の整備
19. 生涯学習事業の充実と施設の整備
20. スポーツ・レクリエーション・健康づくり事業の充実と施設の整備
21. 芸術・文化事業の振興及び施設の整備
22. 若者の定住対策
23. 子育て支援対策の充実
24. 救急医療体制の充実
25. 高度情報化対策の充実
26. 高齢者福祉対策の充実
27. 障がい者福祉対策の充実
28. 健診、健康教室・相談などの保健事業の充実
29. 環境保全対策の充実
30. その他 ()

問8. 今後、紀北町はどのような方向で産業の発展を考えていくべきだと思いますか。次の中から2つ選んでください。

1. 農林業の充実
2. 水産業の充実
3. 農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実
4. 既存の製造加工業など工業の充実
5. 商業・サービス業の充実
6. 観光・集客交流産業の充実
7. その他（

問9. 観光振興のため、どのような施策が必要だとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 観光協会の組織強化
2. 観光イベントの充実
3. 観光ルートの開発
4. 広域的な連携強化
5. 地域ブランドの開発
6. 宿泊施設の充実
7. 観光・集客交流施設の充実
8. 海・山・川を活かした体験型観光の充実
9. 観光施設等への道路や看板の整備
10. 公共交通の充実
11. その他（ ）

問 10. 保健・医療の分野でどのような施策が必要だとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 救急医療体制の整備・充実
2. 生活習慣病の健診、がん検診の充実
3. 子どもの健康診査の充実
4. 各種予防接種の充実
5. 体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進
6. 食品の安全性の監視、指導の充実
7. 感染症や食中毒の予防対策の充実
8. 健康相談や健康教育の充実
9. その他（ ）

問 11. 高齢者福祉対策として、今後どのような施策が必要だとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 高齢者の介護予防や健康教室などの健康づくり事業の充実
2. 雇用や学習の場を確保するなど生きがい対策の充実
3. 高齢者のためのバスなどの移動手段の充実
4. 生活支援などのボランティアの育成
5. 食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援
6. 高齢者に対する医療制度の充実
7. 配食サービスや緊急通報装置など一人暮らしや高齢世帯に対する支援の充実
8. 寝たきりなどの高齢者に対する在宅介護サービスの充実
9. 老人ホームなどの介護施設の整備や充実
10. 高齢者の集える場の充実
11. その他（

問 12. 紀北町の環境を良くするために、どのような施策が必要だとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 環境教育・環境学習の推進
2. 環境情報の提供
3. 合併処理浄化槽設置の推進
4. 公共下水道など生活排水集合処理施設の整備
5. 河川や池・沼などの水辺の保全
6. ごみの減量化・分別・リサイクルの推進
7. ごみ処理施設やし尿処理施設の整備・更新
8. 省エネルギーの推進・新エネルギーの導入
9. 町民・事業者・町の自主的な取り組み
10. その他 ()

問 13. 少子化対策として、今後どのような施策が必要だとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実
2. 子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備
3. 病児・病後児保育、一時預かり保育など多様な保育施策の整備・充実
4. 男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備
5. 若者向け住宅など子育てを支援する生活環境の整備
6. 若者の安定就労や自立した生活の促進
7. 子どもの健康と安心・安全の確保
8. 妊婦健診や不妊治療への支援の充実
9. 税金、給付金等の経済的支援制度の整備・充実
10. その他 ()

問 14. まちの消防・防災体制について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から2つ選んでください。

1. 消防署による消防や救急体制の充実
2. 消防団体制の充実
3. 防火・防災意識の啓発活動の充実
4. 消火訓練・避難訓練の充実
5. 地域の防災組織の充実
6. 高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実
7. 消防・防災施設（避難場所や防火水槽など）の整備・充実
8. 災害時の情報連絡体制の充実
9. 河川等の危険箇所の整備
10. 地震・津波対策の充実
11. 土砂災害対策の充実
12. その他 ()

問 15. 子どもの健全育成について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から2つ選んでください。

1. 幼稚園・小学校・中学校の教材、教具、教育機器の充実
2. 健康や安全に関する教育の充実
3. 学校給食及び食育の充実
4. 生徒指導の充実
5. 教育相談、子育てに関する悩み相談の充実
6. 幼稚園・小学校・中学校の施設整備と充実
7. 通学の安全性や利便性の確保
8. 心の教育及び人権教育の充実
9. 体験学習や国際交流など特色ある教育の充実
10. パソコンなどを使った情報教育の充実
11. 学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実
12. 郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育
13. 自然の中で遊び学べる機会の充実
14. その他（ ）

問 16. 全年代を通じた学習について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から2つ選んでください。

1. 趣味や学びなどの文化講座の充実
2. 体操や運動などの健康講座の充実
3. 演劇や演奏会などの文化事業の充実
4. いきいき子ども学園の充実
5. 人権教育の充実
6. 公民館等の学習・交流施設の充実
7. 図書館や郷土資料館の充実
8. 体育館や運動場などの体育施設の充実
9. 文化・芸術団体の支援
10. スポーツ団体・スポーツ少年団の支援
11. その他（ ）

問 17. あなたは、地域の行事やボランティアなど住民主体の活動に参加されていますか。次の中から1つ選んでください。

1. 参加している } 問 19へ
2. どちらかと言えば参加している }
3. どちらかと言えば参加していない } 問 18へ
4. 参加していない }

問 18. 問 17 で「3. どちらかと言えば参加していない」「4. 参加していない」と回答された方はその理由をお答えください。次の中から2つ選んでください。(回答後は問 19 へお進み下さい。)

1. 時間がない
2. 興味がある活動がない
3. 参加方法がわからない
4. 参加する仲間がいない
5. その他 ()

問 19. 住民主体の活動について、どのような活動を充実すべきだとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 祭り、盆踊り、運動会など
2. 子ども会や子どものための活動
3. 老人クラブ、若者、婦人会などが中心となって行う余暇活動
4. ソフトボール、ソフトバレーなど各種のスポーツ活動
5. ウォーキングや体操などの健康づくり活動
6. 教養講座、文化講座、趣味の会などの活動
7. 花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動
8. 献血などの社会奉仕活動
9. 海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動
10. ごみの減量やリサイクルの活動
11. 伝統芸能や伝統行事を守り伝える活動
12. 地域の歴史的遺産の保全・保存活動
13. その他 ()

問 20. まちづくりへの住民参加の方法としてどのようにすれば良いとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

1. 町民自身の積極参加が可能な組織・体制づくりを行う
2. 住民の意識調査を定期的に行う
3. 討論会や懇談会を積極的に開催する
4. 広報活動の充実・強化を行う
5. NPO・ボランティア組織等の充実を図る
6. 情報公開制度の活用を促す
7. その他 ()

問 21. あなたは、紀北町が将来どのようなまちに発展してほしいと思いますか。次の中から3つ選んでください。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 農林業を中心としたまち | 9. 情報通信の充実したまち |
| 2. 水産業を中心としたまち | 10. 福祉・医療の充実したまち |
| 3. 商工業を中心としたまち | 11. 健康づくりの充実したまち |
| 4. 観光・集客交流産業を中心としたまち | 12. 環境を大切にするまち |
| 5. 教育、文化、スポーツの充実したまち | 13. 交通網の充実したまち |
| 6. 若者の定着するまち | 14. その他 () |
| 7. 高齢者が生き生きと暮らすまち | |
| 8. 防災・交通などの安全対策の充実したまち | |

問 22. 今後の行政及び財政運営で改善すべき重点項目は何だと思いますか。
次の中から3つ選んでください。

1. 町の助成金、補助金などの減額や廃止
2. 主催するイベント、講演会等の廃止や縮小
3. 公共施設の統合や廃止
4. 公共施設の利用料金の見直し
5. 公共施設の運営を民間や住民団体に委託
6. 町有地や公共施設などの町有財産の有効活用や売り払い
7. 水道料金の見直し
8. 町税や国民健康保険料などの徴収率の向上
9. 公共工事のコスト削減
10. 組織機構・行政組織の簡素化による経費節減
11. 町職員数や給与水準の適正化
12. 特別職の報酬の適正化
13. 町職員の能力の向上と適正配置
14. 申請・届出等窓口業務の簡素化、サービス向上
15. 電子自治体の構築（事務処理の〇Ａ化）
16. 住民に分かりやすい組織、機構の整備
17. 情報公開の推進
18. その他（ ）

◎ 今後、紀北町がより発展していくために、あなたの生活の中で現在もしくは将来に向けて町の行政に望むことやまちづくりについて、お考えやご意見などがありましたら、どのようなことでも結構ですのでご記入ください。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There is a solid vertical line on the left side, creating a margin. The paper appears to be from a notebook or a standard writing template.

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は1月 29 日(金)までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

